科目名	科目担当代表教員	ページ数
情報処理	松岡 審爾	3
生涯スポーツ I	平岡 英樹	8
生涯スポーツ I	平岡 英樹	13
総合教養講座	白戸 力弥	18
English I (Speaking & Listening)	Todd Robert Enslen	23
English I (Speaking & Listening)	Walzem Allen George	28
ことばと心理(外国語学習法入門)	釣 晴彦	33
フランス語 I	Nicolas Jegonday	38
ロシア語 I	鈴木 理奈	43
総合中国語 I	楊 志剛	48
総合中国語Ⅲ	胡 慧君	53
中国語コミュニケーション	胡 耀光	58
中国語入門 I	大沼 尚子	63
中国語入門 I	胡 耀光	68
中国語入門Ⅱ	魯 諍	73
中国語入門Ⅱ	魯 諍	78
朝鮮語 I	崔 鉉鎮	83
日本語 I	阿部 仁美	88
日本語Ⅱ	富田 麻知子	93
日本語Ⅲ	傳法 智恵美	98
アウトドア・ツーリズム研修	小山田 健	103
世界と北海道	小山田 健	108
北海道の食文化	渡部 俊弘	113
Basic Oral Communication	Walzem Allen George	118
Basic Oral Communication	Joseph S Tomasine	123
English Literature I	及川 陽子	128
English for workplace communication I	Patrick Hall	133
English for workplace communication I	Joseph S Tomasine	138
Integrated English Communication skills	Patrick Hall	143
Integrated English Communication skills	Todd Robert Enslen	148
Introduction to English Linguistics	高橋 保夫	153
TOEIC Preparation I	高橋 保夫	158
TOEIC Preparation II	高橋 保夫	163
World Englishes	釣 晴彦	168
メディア中国語	魯 諍	173
英文法研究	高橋 保夫	178
中国語リーディング	董 子昂	183
English for Tourism Hospitality	Richardson Peter	188
コミュニケーション学概論	岡本 佐智子	193
ビジネス中国語	邢 玉芝	198
異文化コミュニケーション論	岡本 佐智子	203

異文化接触論	Richardson Peter		208
国際コミュニケーション演習 I	Todd Robert Enslin		213
国際コミュニケーション論	岡本 佐智子		218
中華圏の文化	魯 諍		223
日中文化比較	魯 諍		228
キャリアデザイン	小山田 健		233
キャリア入門	小山田 健		238
ファイナンシャルプランニング	小山田 健		243
経営マネジメント	芝 香		248
現代日本語論	岡本 佐智子		253
世界の言語と日本語	小西 正人		258
日本語と日本文化	岡本 佐智子		263
日本語コミュニケーション技法	小西 正人		268
日本語教育法 I	岡本 佐智子		273
日本語表現技法 I (プレゼンテーション)	小西 正人		278
短期語学研修	小西 正人		283
教育原理	井上 大樹		288
教育方法の理論と実践	石垣 則昭		293
生徒指導・キャリア教育の理論と方法	常田 拓孝		298
英語科教育法 I	釣 晴彦		303
ICTを活用した教育の理論と方法	村越 含博		308

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		情報処理				ナンバリング	1158
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡 審爾、松岡 審爾						
授業の位置づけ							
<p>初年次教育の一環として、大学の学修や社会に必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目である。また、国際教養学科と国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。</p>							
授業の概要							
<p>本科目では、コンピュータを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションを行うために必要な基本操作を学ぶ。また、コンピュータのセキュリティ対策方法、情報モラルにもとづくインターネットの利用について習得する。コンピュータを使うためのスキルを身に付けるだけでなく、コンピュータに関する諸問題についても学ぶ。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題解決のために必要な情報を探索できる。 2. 表計算ソフトExcelを用いた基本的な計算やグラフ作成を行い、それらを読み取ることによって情報の分析評価・整理ができる。 3. ワードソフトWordを用いて表、図なども挿入されたドキュメント作成を行なう情報のアウトプットができる。 4. プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。 5. コンピュータ等のセキュリティおよび情報モラルを念頭において情報を運用することができる。 							
授業の方法							
<p>Wordを用いたレポート等作成、Powerpointを用いたプレゼンテーション技法、Excelを用いた分析については各人がパソコンを操作して習得する。情報の探索、データの分析法、セキュリティと情報モラルに関する内容はパワーポイントを用いて講義形式で行う。これらのOfficeソフトによる操作やセキュリティと情報モラルに関する内容の理解については初回と試験時を除いて教科書会社が提供するeラーニングシステムにより各自が主体的に確認テスト問題を行う。</p>							
ICT活用							
<p>教科書に付属してアカウントを得られるeラーニングシステムを用いて練習問題を提供し、授業時間外における自主学習を促す。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法 eラーニングシステムにより確認テストの結果がすぐに表示されフィードバックされる。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【情報の探索】Web検索・インターネット情報の検証の方法を修得する。 【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》Wordの起動、画面構成を概観し、文書の新規作成や保存方法を習得する(§2-STEP1のLesson1)。文字の変換や記号、特殊文字、読みが不明の漢字の入力方法を再確認する(§2-STEP1のLesson2)	シラバスを読み、教科書1のp30～p35とp42～p47, p49～p50, p53～p58(授業では行わない)、教科書2の「情報検索」p9, p13～p15を読んでおく。(90分)。	教科書1のp51練習5を行う。タッチタイピングの練習を行う(90分)。
担当教員			
第2回	教科書が提供するWebサイト(NESS)への登録を行う。【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として文字書式の設定方法、インデント、タブ設定を習得する(§2-STEP2のLesson1)。 【セキュリティと情報モラル】コンピュータウィルス感染予防技術についての知識を得る(§5-STEP1のLesson1)。	教科書1のp60～p67上半分とp250～p252を読んでおく。p80練習7の各問が教科書のどこに対応するかを調べておく。(90分)	NESSの§2Word-STEP2-確認テスト1～3, §5セキュリティ-STEP1-確認テスト1～3の問題を解く。教科書1のp80練習7の可能な部分を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、均等割り付け、表の作成方法、ワードアートの挿入方法を習得する(§2-STEP2のLesson1)。 【セキュリティと情報モラル】コンピュータウィルス感染予防の心構えとスパイウェアについての知識を得る(§5-STEP1のLesson1,2)。	教科書1のp67下半分～p75上半分とp253～p258を読み、p255練習25, p258練習26を行っておく。(90分)	教科書1のp80練習7を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テスト1～3, §5セキュリティ-STEP1-確認テスト1～4の問題を解く。(90分)
担当教員			
第4回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、画像や図形の挿入、ページ罫線の作成、印刷の方法を習得する(§2-STEP2のLesson1)。レポート作成に必要なページ設定、表紙の作成法、ページ番号、Excelグラフ、図表番号の挿入について習得する(§2-STEP2のLesson2)。 【セキュリティと情報モラル】不正アクセスを防ぐ技術を習得する。(§5-STEP1のLesson3)。	教科書1のp75下半分～p91とp259～p262を読んでおく。p98練習8の各問が教科書のどこに対応するかを調べておく。(90分)	NESSの§2Word-STEP2-確認テスト4～6, §5セキュリティ-STEP1-確認テスト5～7の問題を解く。教科書1のp98練習8の可能な部分を行う。(90分)
担当教員			

第5回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》レポート作成に必要な、脚注の挿入、見出し作成、文章校正機能について習得する(§2-STEP2のLesson2)。【情報の分析評価】《Excel》数値分析の概略を理解しExcelのファイル操作を習得する(§3-STEP1のLesson1)【セキュリティと情報モラル】cookie、パスワードの管理を習得する(§5-STEP1のLesson3)。	教科書1のp92～p97, p100～p106とp263～p264,教科書2の「数値分析 I」Step1の(1)分析のポイントp18を読んでおく。(90分)	教科書1のp98練習8を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テスト4～6, §3Excel-STEP2-同1～3, §5セキュ-STEP1-同5～7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第6回	【情報の分析評価】数値分析に必要な数値データについて理解する。《Excel》,データ入力および効率的な数値入力(オートフィル)を習得する(§3-STEP2のLesson1)。データの表示設定(文字・表示形式)(§3-STEP2のLesson1)を習得する。【セキュリティと情報モラル】ソーシャルエンジニアリングとフィッシング詐欺の知識を得る(§5-STEP1のLesson3)。	教科書1のp107～p118の上とp265～p267を読んでおく。(90分)	NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト1～3, §5セキュ-STEP1-確認テスト5～7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第7回	【情報の分析評価】《Excel》データの表示設定(罫線の設定、行の高さ・列幅の変更)を習得する(§3-STEP2のLesson1)。印刷手法(改ページプレビュー、基本的な印刷、印刷イメージの確認、印刷タイトル)を習得する(§3-STEP2のLesson2)。【セキュリティと情報モラル】著作権・知的財産権とはなにかについて知る(§5-STEP2のLesson1,2)。§2Word-Section2の試験(20問)を行います。	教科書1のp118～p129とp268～p270,教科書2の「数値分析 I」Step1の(2)数値データp19～p21を読んでおく。(90分)	教科書1のp122練習9を行う。NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト4～7, §5情報モラル-STEP2-確認テスト1～3の問題を解く。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析評価】《Excel》数式の入力方法・コピー、合計の計算、相対参照と絶対参照の使い分け、よく使用する関数の利用法を習得する。(§3-STEP2のLesson3)。【セキュリティと情報モラル】著作権に違反しないための注意点について学修する(§5-STEP2のLesson2)。	教科書1のp130～p144とp271～p273を読んでおく。教科書2の「数値分析 I」Step2の(3)-2 p28～p29を読んでおく(90分)。	教科書1のp137練習12を行う。NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト5～7, §5情報モラル-STEP2-確認テスト2～3の問題を解く。(90分)
担当教員			
第9回	【情報の分析評価】《Excel》数学／三角関数、条件に応じて処理を変えるIF関数、ネストを習得する(§3-STEP2のLesson3)。数値分析に必要な関数の探し方を修得する。【セキュリティと情報モラル】個人情報の保護について学修する(§5-STEP2のLesson3,4)。	教科書1のp145～p152とp274～p275を読んでおく。教科書2の「数値分析 I」Step2の(3)-2 p28～p29を読んでおく(90分)	教科書1のp152練習16を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テスト2, §5情報モラル-STEP2-確認テスト4～6の問題を解く。(90分)
担当教員			
第10回	【情報の分析評価】《Excel》グラフの要素、縦棒グラフと円グラフの作成法レーダーチャートの作成、グラフの編集。複合グラフの作成、グラフの印刷方法を習得する(§3-STEP3のLesson1,2)。	教科書1のp153～p176を読んでおく。(90分)	教科書1のp163練習17, p169練習18, p173練習20を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テスト1と3, §5情報モラル-STEP2-確認テスト5～6の問題を解く。(90分)
担当教員			

第11回	【情報の分析評価】Excelの機能を総合的に利用してデータを分析する方法を理解する。【セキュリティと情報モラル】ネットの危険性、ネチケットについて学修する電子メール利用のマナーについて学修する。暗号化、インターネット利用のマナーについて学修する(§5-STEP2のLesson4)。§3 Excel-Section3(STEP2,STEP3合同20問)の試験を行います。	教科書1のp276～p282を読んでおく。教科書2の「数値分析II」Step1 p36～p43を読んでおく。NESSの§3-STEP2,STEP3確認テストを解く。(90分)	§5情報モラル-STEP2-確認テスト5～6の問題を解く。(90分)
担当教員			
第12回	【情報の分析評価】Excelのデータベース機能を理解し、データの並べ替え・抽出方法を習得する。【セキュリティと情報モラル】ネットコミュニケーションについて学修する(§5-STEP2のLesson5)。	教科書2の「数値分析II」「データベース」Step2 p48～p61を読んでおく。教科書1のp283～p287を読んでおく。自身が使用しているネットコミュニケーションツールの特徴を調べておく。(90分)	§5情報モラル-STEP2-確認テスト7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第13回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》プレゼンテーションの基本とPowerPointの画面構成(§4-STEP1)、スライドの作成、コピーや移動方法、編集方法を習得する。また、ワードアートの作成法、図解を用いた説明に適したSmartArtの作成法、画像の挿入方法を習得する(§4-STEP2のLesson1)。§5 セキュリティと情報モラルSection5の試験(STEP1,STEP2合同20問)を行います。	NESSの§5情報モラル-STEP2-確認テスト1～7の問題を解く。教科書1のp178,p181,p186～p210を読んでおく。(90分)	NESSの§4Powerpoint-STEP2-確認テスト1～5の問題を解く。(90分)
担当教員			
第14回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》Excelの表やグラフを挿入し編集する方法を習得する。図形の作成方法を習得する。(§4-STEP2のLesson1)。スライドショーにおける画面切り替え効果、文字に対するアニメーション効果の設定を習得する。(§4-STEP2のLesson2) SmartArtと図形に対するアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作を習得する(§4-STEP2のLesson2)。	教科書1のp211～p234を読んでおく。(90分)	教科書1のp220練習22, p234練習23を行う。NESSの§4Powerpoint-STEP2-確認テスト4～5の問題を解く。(90分)
担当教員			
第15回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》発表の準備に関する機能として、ノートの入力、スライド印刷、リハーサル機能の操作方法を習得する(§4-STEP3のLesson1)。発表時の服装、態度、話し方について学ぶ(§4-STEP3のLesson2)。§4 PowerPiont-STEP2の試験(10問)を行います。	NESSの§4 Powerpoint-STEP2-確認テスト1～5の問題を解く。教科書1のp235～p248を読んでおく。(90分)	これまでの操作を復習し教科書1のp182～p185を読んでおく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する試験と各回の学習状況により評価する。	

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>1.イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラルOffice2016対応／ア出版 2.「情報の探索・分析」(情報活用力 抜粋版)／ア出版</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>なし</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>教科書は必ず北海道文教大学のキャンパスショップで購入してください(キャンパスショップのネット販売もしくは学内の売場)。これ以外の方法での購入(ネット通販など)は推奨しません。また、メルカリ等中古品の購入および未購入の場合は試験サイトへのアクセス権を発行できず試験を受験できないため単位は取得できません。なお、教科書1は紙ベース、教科書2は電子教科書です。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		生涯スポーツ I [2-2]				ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							
授業の概要							
<p>体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。</p>							
到達目標							
<p>①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。 ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。 ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。 ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。</p>							
授業の方法							
<p>チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。 ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			

第5回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第7回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う		
担当教員			
第9回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第10回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第11回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボールー基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニスー基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	学習・実施した内容を今後どのように生かすか考える。(25分)
担当教員			
第12回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールーゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスーラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第13回	バドミントン(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
特になし、必要に応じて資料を配付		
履修条件・留意事項等		
<p>ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること 天候その他状況により種目に変更となる場合がある 積極的にプレーに参加すること</p>		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		生涯スポーツ I [2-1]				ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹、平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							
授業の概要							
<p>体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。</p>							
到達目標							
<p>①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。 ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。 ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。 ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。</p>							
授業の方法							
<p>チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。 ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			

第5回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第7回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第10回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第11回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボールー基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニスー基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	学習・実施した内容を今後どのように生かすか考える。(25分)
担当教員			
第12回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールーゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスーラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第13回	バドミントン(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
特になし、必要に応じて資料を配付		
履修条件・留意事項等		
<p>ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること 天候その他状況により種目に変更となる場合がある 積極的にプレーに参加すること</p>		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		総合教養講座				ナンバリング	1100
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	白戸 力弥、松岡 審爾、大森 圭、小塚 美由記、渡部 俊弘						
授業の位置づけ							
<p>初年次教育の一環として、大学での学習から生活、さらに課外活動や大学祭、建学の理念など広範な分野を理解を深める。本科目の履修により、今後4年間の大学生活がより有意義なものになるよう、新入生を導く道標を示す授業である。文章作成能力、プレゼンテーション能力を修得するための科目である。また、ディプロマシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・共働することを可能とする国際性や柔軟性で前向きなコミュニケーション能力を備えている」に関連する科目である。</p>							
授業の概要							
<p>本科目では、初年次教育として本学の学生としての所属意識を育み、学生生活をどう有意義に過ごすか意識化することを目指す。また、これからの社会の変化に対応できる学際的で教養豊かな人間性を養い、本質的な物の見方、捉え方をより豊かなものとし、不確実な時代を自分らしく生きるための柔軟性と自立性を養うことを目的とする。さらに、SDGsの本質を理解し、地球規模の視野で持続可能性について考え、地域創生の視点で行動できるグローバルな思想を兼ね備えた人材を育成することを目的としている。</p>							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・本学の建学の理念、宗教と食事制限、SDGsの取り組みの重要性を理解できること。 ・4年間を通して、しっかりとした履修計画を立てられること。 ・大学生活を快適に送るために必要な規則を理解し、それに沿った行動を取れること。 ・Google Classroomの利用ができること。 ・図書館を利用し、学習に必要な図書を借りることができること。 ・充実した大学生活を送るため、勉学、課外活動を含めた効率の良い1日の行動計画を立案・実行出来ること。 ・大学を盛り上げるための具体的な提案が出来ること。 							
授業の方法							
<p>パワーポイントを用いた授業を行う。また、学内Wi-Fiを用いたICTを用いた授業を行う。さらに、えこりん村でSDGs研修を行う。</p>							
ICT活用							
<p>図書館の利用方法など、一部の授業回で、提示したURLにアクセスし、操作を行ってもらう予定である。また、グーグルフォームなどを使用する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

ゲスト講師として、恵庭市職員による恵庭市の紹介、警察官とIT企業の職員によるインターネット上の脅威と防御方法を予定している。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルフォームを用いた授業の感想等を述べてもらい、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	北海道文教大学建学の理念 鶴岡夫妻が遺した灯火 学訓「清く正しく雄々しく進め」に込められた、真理を探究する明晰な頭脳、誠実な精神、チャレンジ精神を目指す理念を共有する。	本学の創設者である鶴岡夫妻について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で鶴岡夫妻の建学理念を実現する方法についてまとめる。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第2回	この時代、君はどう生きるか これからの社会、不確実な時代を自分らしく生きるための、本質的な物の見方、捉え方を学ぶ。	これまで読んだ本の中から、自分の生き方に影響を与えたと思える本をもう一度読んでおく。(90分)	これからの自分の進路を見据えながら、事前学習で読んだ本を精読する。授業の感想を提出する。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第3回	授業を受講するには① 履修方法・登録方法について、具体的に説明する。(教務課)	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、WSDBを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第4回	授業を受講するには② 履修要件、進級基準や卒業要件について説明する。(教務課)	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、WSDBを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第5回	遠隔授業の受講方法について 本学で遠隔授業のツールとして使用しているGoogle Classroomの使用方法について学び、遠隔授業を受講できるようになる。	本学から付与されるGoogleアカウントでログインする。(90分)	各科目のClassroomに参加する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	授業に役立つ図書館の利用法 本学図書館の概要と利用方法について説明する。 レポート作成や発表資料作成で必要になる資料について、蔵書検索機(OPAC)を含めた探し方の方法を習得する。(図書館)	学生便覧の「図書館」の部分を読んでおく。(90分)	実際に図書館を訪れ、蔵書検索で興味のある本を探してみる。また、インターネット経由で蔵書を検索してみる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第7回	グローバル化に対応した食知識 グローバル化が進んでいる現代において、外国の食文化や知識を得ることは、どの職業においても円滑なコミュニケーションをとるための一助となる。	宗教によって禁忌とされている食べ物(あるいは食べることが許されている食べ物)について調べておく。(90分)	食事に対する宗教上の戒律の理由についてまとめる。(90分)
担当教員	小塚 美由記		
第8回	サイバーセキュリティについて スマートフォンやパソコン等が普及し誰でも気軽にインターネットを利用できるようになっている一方で、インターネットにまつわるトラブルが増加している。本学では全館Wi-Fiが利用できるためインターネットを安全に使用するためには、より注意が必要である。そこで、無線LANにおいてどのような脅威がありどのように対処すればよいのか、また、無線LANを利用するにあたっての注意事項をゲスト講師を招いて学ぶ。 (NTT東日本、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部)	インターネット使用にあたってどのような脅威があるかを調べておく。(90分)	セキュリティ対策や身につけるべき情報モラルを復習しておく。(90分)
担当教員	松岡 審爾		
第9回	学生会・課外活動団体紹介 中央執行委員会の役割と位置付けについて知り、学生としての自覚を持ち、自ら積極的に大学生活をより有意義にするため、各自が出来ることを考える一助とする。(学生会) 各団体の活動内容と団体所属学生の大学生活を紹介し、勉学と課外活動の両立を図るための具体的な方法を把握する。(各団体)	学生便覧で、学生会に関する項目に目を通しておく。また、大学ホームページなどで、本学所属の課外活動団体について調べておく。(90分)	自らの大学生活を有意義なものにするための目標と計画を立てる。また、勉学時間、課外活動、アルバイトなど各自の1日の行動を見直し、有意義な時間を過ごせるよう計画を立てる。(90分)
担当教員	大森 圭		
第10回	大学祭実行委員会紹介 大学祭実行委員会の役割と位置付けと、大学祭の歴史について紹介する。	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)
担当教員	大森 圭		

第11回	SNSの利用上の注意について 大学生活におけるSNSの利用上の注意点について理解を深め、良識あるSNSの利用ができるようになる。	現在までのSNSのトラブルで社会的問題となった内容を調べる。(90分)	大学生活で節度のあるSNSの利用法について復習する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	恵庭市の歴史と特徴 恵庭市役所からゲスト講師を招き、これからの4年間のほとんどの時間を過ごす恵庭市について理解を深め、地域社会との連携を深める。 (恵庭市企画課)	恵庭市のホームページなどから、恵庭市の概要、特長について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で、恵庭市の未来に貢献する施策を考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第13回	えこりん村SDGs研修① (1)肉生産、(2)米生産、(3)資材、(4)再生可能エネルギーのテーマを通して、持続可能なエコロジーの取り組みを学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。年間パスポートにより、再度えこりん村を訪れる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第14回	えこりん村SDGs研修② (1)肉生産、(2)米生産、(3)資材、(4)再生可能エネルギーのテーマを通して、持続可能なエコロジーの取り組みを学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。年間パスポートにより、再度えこりん村を訪れる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第15回	えこりん村SDGs研修③ (1)肉生産、(2)米生産、(3)資材、(4)再生可能エネルギーのテーマを通して、持続可能なエコロジーの取り組みを学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。年間パスポートにより、再度えこりん村を訪れる。研修を受けた感想を提出する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の感想等の提出、および授業参加の積極性から総合的に判断する。	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>指定しない。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>人とつながる「笑いと涙」の40年―恵庭で描く地方大学のプラットフォーム構想／渡部俊弘／丸善プラネット トシさんが行く！～北海道の食の礎を築いた鶴岡トシのパワフル人生記～／渡部俊弘／北海道文教大学出版会</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>ゲスト講師等の都合により、授業計画の順序通りの内容とならない可能性があるため、決定次第、別紙で連絡する。合理的な理由による欠席は点数を考慮するので欠席届を出すこと。13～15回の授業は、えこりん村での日帰り研修を行う。日程は別途、連絡する。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		English I (Speaking & Listening)[E2-2]				ナンバリング	1211
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Todd Robert Enslin						
授業の位置づけ							
北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)							
授業の概要							
この授業は、日常の基本的な場面における英語での口頭による基礎的なコミュニケーション能力の育成を目的とする。授業では、日常場面に即したさまざまなトピックのコミュニケーション活動を提供し、教員と学生の間だけではなく学生同士でのインタラクションを通して、自信をもって英語でのやり取りができるようになることを目標とする。							
到達目標							
By the end of this course, the students will be able to: 1) take part in simple English conversations and discussions with both native and non-native speakers of English; 2) use new vocabulary and proper pronunciation to express themselves correctly in given situations; 3) confidently engage in discussions with both their teacher and other students.							
授業の方法							
There will be activities in class for students to use vocabulary, expressions, grammar and pronunciation from the lessons. It will enhance listening and speaking skills. This will be an active learning class.							
ICT活用							
This course comes with resources on the English Portal and the Practice English App. Students must access both to extend their leaning.							
実務経験のある教員の教育内容							

N/A			
課題に対するフィードバックの方法			
Teacher will give feedback by commenting on common errors related to vocabulary, pronunciation, grammar, conversation and listening.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Introduction to the course. Activity to get to know each other.		
担当教員			
第2回	Unit 1, How's it going? Introduce yourself and others Talk about things in an office		
担当教員			
第3回	Unit 2, Who are they? Talk about friends and family Talk about where people live and work		
担当教員			
第4回	Unit 3, What a beautiful home! Talk about things in the home		
担当教員			

第5回	Unit 3, What a beautiful home! Lesson 2, Describe your neighborhood		
担当教員			
第6回	Unit 4 Where are you now? Lesson 1, Ask about an event		
担当教員			
第7回	Unit 4, Where are you now? Lesson 2, Make plans with someone		
担当教員			
第8回	Unit 5, Do I need an umbrella? Ask about prices Talk about weather		
担当教員			
第9回	Unit 6, What do you like to do? Lesson 1, Talk about music		
担当教員			
第10回	Unit 6, What do you like to do? Lesson 2, Talk about free-time activities		
担当教員			

第11回	Unit 7, Are you ready to order? Talk about food Order in a restaurant		
担当教員			
第12回	Unit 8, Do you have a reservation? Talk about future plans Discuss goals		
担当教員			
第13回	Unit 9, Is everything OK? Talk about what you are doing Talk about daily activities		
担当教員			
第14回	Unit 10, How was your weekend? Final Test		
担当教員			
第15回	Review the final test and wrap-up of the course		
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	60	30% Unit Quizzes 30% Final Test	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	40	20% Homework Assignments 20% Discussion Participation	

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>該当なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>StartUp - Book 1 / 2019 / Sharon Goldstein, Kimberly Russell, Daria Ruzicka, Jenni Currie Santamaria, and Kathleen Thompson / Pearson</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>None</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>This course will be conducted entirely in English.</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		English I (Speaking & Listening)[E2-1]				ナンバリング	1211
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Walzem Allen George						
授業の位置づけ							
北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)							
授業の概要							
この授業は、日常の基本的な場面における英語での口頭による基礎的なコミュニケーション能力の育成を目的とする。授業では、日常場面に即したさまざまなトピックのコミュニケーション活動を提供し、教員と学生の間だけではなく学生同士でのインタラクションを通して、自信をもって英語でのやり取りができるようになることを目標とする。							
到達目標							
By the end of this course, the students will be able to: 1) take part in simple English conversations and discussions with both native and non-native speakers of English; 2) use new vocabulary and proper pronunciation to express themselves correctly in given situations; 3) confidently engage in discussions with both their teacher and other students.							
授業の方法							
There will be activities in class for students to use vocabulary, expressions, grammar and pronunciation from the lessons. It will enhance listening and speaking skills. This will be an active learning class.							
ICT活用							
This course comes with resources on the English Portal and the Practice English App. Students must access both to extend their leaning.							
実務経験のある教員の教育内容							

N/A			
課題に対するフィードバックの方法			
Teacher will give feedback by commenting on common errors related to vocabulary, pronunciation, grammar, conversation and listening.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Introduction to the course. Activity to get to know each other.	Familiarize yourself with the textbook. Read page iv to ix. (90 minutes)	Review the Welcome Unit (90 minutes)
担当教員			
第2回	Unit 1, How's it going? Introduce yourself and others Talk about things in an office	Read Unit 1, and prepare to introduce yourself. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第3回	Unit 2, Who are they? Talk about friends and family Talk about where people live and work	Read Unit 2, and prepare to talk about friends and family. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第4回	Unit 3, What a beautiful home! Talk about things in the home	Read Lesson 1 of Unit 3, and prepare to describe your home. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			

第5回	Unit 3, What a beautiful home! Lesson 2, Describe your neighborhood	Read Lesson 2 of Unit 3, and prepare to describe your neighborhood. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第6回	Unit 4 Where are you now? Lesson 1, Ask about an event	Read Unit 4, and prepare to talk about an event. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第7回	Unit 4, Where are you now? Lesson 2, Make plans with someone	Read Unit 4, and prepare to make plans with someone. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第8回	Unit 5, Do I need an umbrella? Ask about prices Talk about weather	Read Unit 5, Prepare to ask about prices and talk about weather (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第9回	Unit 6, What do you like to do? Lesson 1, Talk about music	Read Unit 6, Lesson 1, Prepare to talk about music (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第10回	Unit 6, What do you like to do? Lesson 2, Talk about free-time activities	Read Unit 6, Lesson 2, Prepare to talk about free-time activities (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			

第11回	Unit 7, Are you ready to order? Talk about food Order in a restaurant	Read Unit 7, Prepare to talk about food (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第12回	Unit 8, Do you have a reservation? Talk about future plans Discuss goals	Read Unit 8, Prepare to answer questions about future plans. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第13回	Unit 9, Is everything OK? Talk about what you are doing Talk about daily activities	Read Unit 9, Prepare to talk about daily activities. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第14回	Unit 10, How was your weekend? Final Test	Read Unit 10, Prepare to talk about your weekend and past vacation. Review the previous chapters in preparation for the test. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第15回	Review the final test and wrap-up of the course	Check your answers from the quiz by reviewing each section in the textbook. (90 minutes)	After Class: Students should do a self-evaluation of how well they have learned the material covered in class. (90 minutes)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合 (%)	内容
定期試験	60	30% Unit Quizzes 30% Final Test
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	40	20% Homework Assignments 20% Discussion Participation

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>該当なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>StartUp - Book 1 / 2019 / Sharon Goldstein, Kimberly Russell, Daria Ruzicka, Jenni Currie Santamaria, and Kathleen Thompson / Pearson</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>None</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>This course will be conducted entirely in English.</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		ことばと心理(外国語学習法入門)				ナンバリング	1200
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣 晴彦						

授業の位置づけ

この講義は、ディプロマポリシーの「世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。(関心・意欲・態度)」、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」と関連している。また、理論に基づいた外国語学習法を身につけることで、大学での外国語学習計画を設定することを目的とした科目で、英語の専門科目や中国語科目、その他の外国語科目の基礎となる科目である。

授業の概要

この授業は、外国語学習を本格的に始めるにあたり、認知心理学の視点から、効果的な外国語学習法を第二言語習得論の知見を通して学ぶことを目的とする。学生たちは高校までの英語学習を振り返り、本講義で学んだことを通して、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングそれぞれの技能についてどのように学習に取り組んでいくかを考え、大学での外国語学習の目標を設定することを最終目標とする。

到達目標

- ・第二言語習得論の知見をもとに、語彙学習や文法、そしてリスニング、リーディング、ライティングそれぞれの技能の効果的な学習法を考えることができる。
- ・講義を通して学習した内容をもとに、大学での外国語学習計画を設定することができる。

授業の方法

基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用して講義形式で進める。今までの英語学習の方法を振り返り、自分の不十分であった部分を考える。その上で理論に基づいた外国語学習方法を学んでいき、合計12回の授業後のレポートを通して、理解を深める。そして、最後にまとめとして、4年間の外国語学習計画を立てて、それについてのプレゼンテーションを行う。

ICT活用

WebアプリのPear Deckを用いて意見を出してもらいながら授業を進めていく。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
適宜、課題の形式に応じたフィードバックを講義やGoogle classroom等を通じて行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション ・高校までの英語学習を評価し、改善が必要な点を考える。	シラバスを読み、教科書を準備する。(90分)	講義の復習をし、次回の授業の準備を行う。(90分)
担当教員			
第2回	「第二言語習得」から英語の学び方を考える。 ・世間一般で言われている英語(外国語)学習についての通説について、「第二言語習得理論」の観点から正しいか考える。	教科書の第1章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第3回	「第二言語」として目指す英語力とは？ ・英語が世界の共通語として地位を確立している時代に、どのように英語に向き合っていけばいいのか考える。	教科書の第2章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第4回	英語を学ぶモチベーションのメカニズム ・英語を学ぶモチベーションはどのように生まれ、どうすれば長期間に渡って維持できるのか考える。	教科書の第3章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第5回	英語学習のプリンシプル ・全ての英語(外国語)の学びの基盤となる「6つのプリンシプル(原則)」について学ぶ。	教科書の第4章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第6回	効果的なボキャブラリーの学び方について考える。 ・覚えるべき語彙の目安や効果的な語彙の学習方法を学ぶ。	教科書の第5章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第7回	効果的な文法の学び方について考える。 ・なぜ英文法を学ぶ必要があるのか、まだどのように学習すれば使える英文法を身につけることができるのかを学ぶ。	教科書の第6章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第8回	効果的なリスニングの学び方について考える。 ・インプットが頭の中でどのように処理されるかを学ぶ。 ・リスニングの効果的な学習方法を学ぶ。	教科書の第7章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第9回	効果的なリーディングの学び方について考える。 ・学習者のリーディングのプロセスについて学び、効果的な学習方法を考える。	教科書の第7章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第10回	効果的なスピーキングの学び方について考える。 ・スピーキングがなぜ困難なのか考え、効果的な学習方法について学ぶ。	教科書の第8章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第11回	効果的なライティングの学び方について考える。 ・ライティング力の重要性について学ぶ。 ・効果的なライティングの学習方法について学ぶ。	教科書の第9章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第12回	効果的な海外留学について考える。 ・英語(外国語)の4技能の能力が伸び、かつ学習者の満足・充実度が高くなる留学はどのようなものか学ぶ。	事前にどのような留学形態があるか調べ、留学をすることでどのような効果があるかを考えてくる。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第13回	スマホアプリやオンライン教材を用いた効果的な外国語学習について考える。 ・外国語学習に用いることができる、スマホアプリやオンライン教材にはどのようなものがあるか学ぶ。 ・アプリやオンライン教材をどのように用いると効果的かを考える。	外国語学習に用いることができるスマホアプリやオンライン教材にはどのようなものがあるか事前に調べておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。また、次の授業でのプレゼンテーションの準備を行う。(90分)
担当教員			
第14回	自分の大学での外国語学習計画についてのプレゼンテーションを行う。 ・1週目から13週目までの学習を基に今後の大学で外国語をどのように学ぶのかについてのプレゼンテーションを行う。	自分のプレゼンテーションのスライドや発表原稿を準備し、確認を行う。(90分)	他の学生の発表と自分の計画を照らし合わせ、足りない部分をまとめ、自分の計画の見直しを行う。(90分)
担当教員			
第15回	講義の振り返り ・1週目から14週目の内容を振り返る。	これまでの講義内容を振り返る。(90分)	講義内容を復習する。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業後の小レポート課題 60% (5%×12) プレゼンテーション 40%

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>新多了著「英語の学び方」入門 (研究社, 2019)</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>講義内で適宜紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>講義には積極的に参加すること。また、課題の提出期限は厳守すること。</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		フランス語 I				ナンバリング	3281
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Nicolas Jegonday						
授業の位置づけ							
この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次後期科目「フランス語Ⅱ」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
この授業は、フランス語を初めて学ぶ学生を対象とし、フランス語の初歩を習得する。まずフランス語のアルファベット、母音字、子音字など発音の規則を習得し理解できるようになる。次に、フランス語の文法の基礎である、名詞の性と数、冠詞、人称代名詞、動詞の活用や形容詞の位置、基本文型、否定文、疑問文などの習得を目指す。世界の広い範囲の国や地域で使用され、国連公用語であるフランス語の表現になれ親しみ、フランス語の簡単な会話ができることでフランス語を使う楽しさを体験する。							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1) フランス語で自己紹介ができる。 2) 簡単な日常会話ができる。 3) フランス語の単語を読めるようになる。 4) フランスやフランス語圏の文化に触れる。 5) 基礎的な文法を身につける 							
授業の方法							
授業は参加型で行います。言葉は使いながら覚える。ほぼ毎回ペアで練習してから、発表をする。比較的ゆっくり進みますが、復習は欠かせません。							
ICT活用							
なし。							
実務経験のある教員の教育内容							

札幌アリアンス・フランセーズ院長。フランスやフランス語圏について幅広い知識を有している。この経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業が始まる前に直接教員に聞く。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	アルファベットと自己紹介	0分	復習:180分
担当教員			
第2回	簡単な挨拶を習って、練習をする。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第3回	フランス語圏の国々を覚える。自分の言語力を伝える。 否定文。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第4回	疑問文を覚えて、相手に質問をする。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第5回	数字を覚えて自分の年齢を伝える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第6回	フランスの地理を習って、大都市の位置と読み方を覚える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第7回	三人称を習って、同級生を紹介する。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第8回	動詞etre,avoir,habiter,parler。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第9回	好きなこと・苦手なことを伝える。動詞aimer,adorer,detester。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第10回	家族に関する表現を習う。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第11回	家族についてはなす。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第12回	持ち物に関する表現を習って、鞆や財布の中身を伝える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第13回	曜日、月、時間に関する表現を覚える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第14回	動詞vouloir,pouvoir. 出来ること、してみたいことを伝える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第15回	まとめと振り返り	復習:90分	復習:90分
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題・参加度・出席態度を総合的に評価します。	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>場面で学ぶフランス語1[三訂版]高橋百代 著/ Nicolas JEGONDAY 著/ 林宏和 著/ Cédric YAHYAOUI 著 三修社 ISBN:978-4-384-22055-1 C1085</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>特になし。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		ロシア語 I				ナンバリング	3291
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	鈴木 理奈						
授業の位置づけ							
<p>この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次後期科目「ロシア語Ⅱ」の基礎となる科目である。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、ヨーロッパ言語のなかでも英語とは多くの点で異なるロシア語を学び、言語の多様性を知ることが目的とする。ロシア語のアルファベットを書き、発音することから始め、簡単な文章を読み、辞書を用いて意味を理解できるようになる。まず、ロシア語の文字の形を理解し、個々の文字が示す音、および単語における発音の法則、イントネーションの規則を覚えて、文を音読できるように、アクセントと発音練習が中心になるが、基本文型を使って日常生活の基本的表現が言えるようになる。</p>							
到達目標							
<p>ロシア語の基礎的学習をふまえて、1. 基本的な単語や文を聞き取れる、2. 単純な文を読んで内容が分かる、3. 簡単な語句や文を使って初歩的な応答ができる、4. 簡単な文章を書ける</p>							
授業の方法							
<p>板書やパワーポイントを用いて講義形式で進める。 配布印刷物および視聴覚メディア(DVD, CDなど)の補足教材も活用し説明を行う。</p>							
ICT活用							
<p>該当なし。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、理解度確認テストを回収後、解答の解説を行う。
レポート課題は、提出後にコメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ロシア語学習への導入	シラバスに目を通して、教科書p8-10「ロシア語ってどんなことば？」を読んでおく(90分)	授業で学習したロシアの言語や文化について復習しておく(90分)
担当教員			
第2回	アルファベット、単語の読み方	教科書p11-14のアルファベットと発音の特徴に目を通しておく(90分)	授業で学習したアルファベットの発音と単語の読み方を復習しておく(90分)
担当教員			
第3回	アルファベット、文字の書き方	教科書p15の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した文字の書き方を復習しておく(90分)
担当教員			
第4回	文字と発音、発音の規則(母音の弱化)	教科書p21の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した発音の規則を復習しておく(90分)
担当教員			

第5回	文字と発音, 発音の規則(子音の同化), 挨拶表現	教科書p16-17の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した発音の規則を復習しておく(90分)
担当教員			
第6回	第1課 簡単な平叙文「～は～です」, 疑問文「これは誰ですか」「これは何ですか」	教科書p18-19の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した単語と表現を復習しておく(90分)
担当教員			
第7回	第2課 簡単な否定文「～は～ではない」, 疑問文「～は～ですか」, 人称代名詞	教科書p22-23の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した単語と表現を復習しておく(90分)
担当教員			
第8回	名詞の性(男性・女性・中性名詞)	教科書p35の新出単語と説明に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第9回	名詞の複数形	教科書p47の新出単語と説明に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第10回	第3課 所有代名詞「私の, あなたの」など, 指示代名詞「この」	教科書p28-29の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第11回	第4課 形容詞「新しい, 古い」など	教科書p32-33の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第12回	第5課 動詞の第1変化「読む, 知る」など	教科書p40-41の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第13回	第6課 動詞の第2変化「話す, 見る」など	教科書p44-45の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第14回	授業まとめ, 練習問題	教科書p18-49練習問題の新出単語, p38-39「単語力アップ」「表現力アップ」に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第15回	達成度確認テスト, 解説	教科書p11-49で学習した単語, 表現, 文法事項を復習しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を確認し復習しておく(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する達成度確認テスト, 授業への参加態度, 出席態度, 授業内の課題, 授業内レポートなど	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>「ニューエクスプレスプラスロシア語」黒田龍之助 著(白水社)</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>辞書は、「パスポート初級露和辞典」米重文樹編/ウラジーミル・タヴリーノフ協力(白水社)を推奨する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		総合中国語 I				ナンバリング	2241
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	楊 志剛						
授業の位置づけ							
<p>読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力高めるための科目である。世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力および世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける。「総合中国語Ⅱ」と関連する科目である。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、1年次に徹底して取り組んだ中国語の発音(ピンイン)をマスターすることを引き続き継続する。これと同時に、中国語の初級レベルの基本的な語彙や、すぐに役に立つ会話句をも紹介し、中国語学習に対する興味を養うことも目指す。中国語の発音と基本文型をさらによく理解し、日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面、生活に根差した場面で使う表現を習得できるようになる。中国語検定4級程度の実力を得ることを目指す。</p>							
到達目標							
<p>初級レベルの中国語文法と表現を実践の場で活用することができる。 中検4級レベルの文法を使用し、作文することができる。 漢詩(2編程度)を詠むことができる。</p>							
授業の方法							
<p>読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、視聴覚資料を用いて、講義形式で授業を進める。2回目の授業から毎回単語テストを行います。 1年次後期科目の初級中国語Ⅱと初級中国語Ⅲと同じ教科書を使うが、本文以外に各課の「チャレンジ」と「拡張表現」で提示されている単語や表現をすべてマスターします。そして、毎回の授業で「+α」として、中検4級レベルの文法ポイントを学習し、練習します</p>							
ICT活用							
<p>Google Formのテスト作成機能を用いて練習問題を解かせて、受講生の理解度を確認する。 Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。課題に対し、解説を行い、受講生にアドバイスをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	I、ガイダンス II、自己紹介(教科書第1課～第3課) + α:動詞を修飾する“地” “的”“地”“得”の練習	これまで勉強した内容の復習 (90分)	①作文(自己紹介) ②作文を朗読する(90分)
担当教員			
第2回	第4課 お誘い + α:存在を示す動詞“有”と所在を表す“在”の区別	学習予定部分(p.66~73)を予習 すること。 「拡張表現」も含めるすべての単 語と表現を覚えること。(90分)	よく復習し、理解度テストを完成 すること。(90分)
担当教員			
第3回	第5課 レストラン + α:助動詞(願望)	学習予定部分(p.74~81)を予習 すること。 「拡張表現」も含めるすべての単 語と表現を覚えること。(90分)	よく復習し、理解度テストを完成 すること。(90分)
担当教員			
第4回	第6課 買い物 + α:助動詞(可能) 副詞“再”と“又”	学習予定部分(p.82~89)を予習 すること。 「拡張表現」も含めるすべての単 語と表現を覚えること。(90分)	よく復習し、理解度テストを完成 すること。(90分)
担当教員			

第5回	まとめ① 第1回～4回までの学習内容を復習し、復習テストを行う	教科書第1課～6課までの内容と「+α」の文法ポイントを復習する(90分)。	復習テストを確認すること(90分)
担当教員			
第6回	第7課 道案内 +α:前置詞句“在”“从”“到”“离” 結果補語の練習	学習予定部分(p.90~97)を予習すること。「拡張表現」も含めるすべての単語と表現を覚えること。(90分)	よく復習し、理解度テストを完成すること。(90分)
担当教員			
第7回	第8課 趣味に関する雑談 +α:二重目的語“給”、“送”、“教”、“问”、“告诉” 様態補語の練習	学習予定部分(p.98~105)を予習すること。「拡張表現」も含めるすべての単語と表現を覚えること。(90分)	よく復習し、理解度テストを完成すること。(90分)
担当教員			
第8回	第9課 旅行の計画 +α:前置詞句“给”“跟” 進行形「在」「正」「正在」「～呢」 「いついつに(時点)は動詞より前に」	学習予定部分(p.106~113)を予習すること。「拡張表現」も含めるすべての単語と表現を覚えること。(90分)	よく復習し、理解度テストを完成すること。(90分)
担当教員			
第9回	第10課 病院 +α:“是～的”構文・近接未来表現「快～了」	学習予定部分(p.114~121)を予習すること。「拡張表現」も含めるすべての単語と表現を覚えること。(90分)	よく復習し、理解度テストを完成すること。(90分)
担当教員			
第10回	まとめ② 第6回～9回までの学習内容を復習し、復習テストを行う。	教科書第7課～10課までの内容と「+α」の文法ポイントを復習する(90分)	復習テストを確認すること(90分)
担当教員			

第11回	第11課 トラブル + α : 動態助詞”了”と目的語 比較の表現	学習予定部分 (p.122~129)を予 習すること。「拡張表現」も含める すべての単語と表現を覚えるこ と。(90分)	よく復習し、理解度テストを完成 すること。(90分)
担当教員			
第12回	第12課 ホテル + α : 方向補語と可能補語の練習 方位詞をマスターする	学習予定部分 (p.130~137)を予 習すること。「拡張表現」も含める すべての単語と表現を覚えるこ と。(90分)	よく復習し、理解度テストを完成 すること。(90分)
担当教員			
第13回	第13課 約束する + α : 因果、仮定、逆接	学習予定部分 (p.138~145)を予 習すること。「拡張表現」も含める すべての単語と表現を覚えるこ と。(90分)	よく復習し、理解度テストを完成 すること。(90分)
担当教員			
第14回	第14課 掲示板を見る + α : 動態助詞(アスペクト助詞)“着”“了”“过” 存現文の練習	学習予定部分 (p.146~153)を予 習すること。「拡張表現」も含める すべての単語と表現を覚えるこ と。(90分)	よく復習し、理解度テストを完成 すること。(90分)
担当教員			
第15回	復習および小テスト	これまで学習した内容を復習す ること(120分)	小テストの確認(60分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験を行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(40%) + 単語テスト(20%) + 小テスト(40%)

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>無断欠席は必ず減点要素とする。</p>
<p>教科書</p>		
<p>『中国語でコミュニケーション』沈国威監修、氷野善寛、小嶋美由紀、海曉芳、紅粉芳恵、阿部慎太郎著 朝日出版社</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>『完全攻略！中検4級5週間の学習プログラム』奥村佳代子・氷野善寛・馮誼光著 アルク</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>初級中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ(1年生後期)のいずれの科目を履修したほうがよい。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		総合中国語Ⅲ				ナンバリング	3243
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	胡 慧君						
授業の位置づけ							
この授業は、中国語を媒介としたコミュニケーション能力を修得する科目である。世界と繋がるために、地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけ、グローバル社会の中で、世界の人々と共生、協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える。「総合中国語Ⅳ」と関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、より高度な中国語表現能力取得を目指す。中国語には複雑な表現であっても表現する内容によって決まった文型がある。授業ではこれらの文型を学習しながら、練習問題を通して定着を目指す。また、それを確実に伝えられるような口頭練習を多用する。よって、2年間で学んだ学習項目を基礎に、より複雑な表現にふさわしい文型が使えるようになり、学んだ文型を実際のオーラル・コミュニケーションの場で使えるようにする。これらの表現に必要な文型や単語をマスターする。							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1.より多く単語や文法を習得し、より複雑な内容を表現できるようになる。 2.中国に関する特定のトピックについての情報を収集することができる。 3.より自然な中国語を話せるようになる。 							
授業の方法							
原則として、教科書に沿って授業を行う。テキストの文章を参加者が各自で解読し、疑問、不明な点があれば授業時に解説する。スピーキング力をつけるために、グループ分けしてたくさんのお話をし、一課ごとの課題に沿って中国語による発表を行う。リスニング力をつけるために、毎回教科書の内容をピックアップして、リスニングの確認を行う。中国語による表現力を確認するために、中国語で作文し、口述テストを行う。							
ICT活用							
公式ラインなどを使用して、スピーキング、ライティング練習課題を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
スピーキングやライティング課題を確認し、発音のアドバイスをし、さらに2課ごとに小テストを行い、小テストについて解説する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス、初級文法復習	初級文法復習(合計の所要時間90分程度)	初級文法音読復習、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第2回	第1課 紹介	第1課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(合計の所要時間90分程度)	第1課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第3回	第1課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(合計の所要時間90分程度)	第1課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第4回	第2課 家庭	第2課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(合計の所要時間90分程度)	第2課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			

第5回	第2課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(合計の所要時間90分程度)	第2課付属のCDの本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第6回	第3課 学校	第3課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(合計の所要時間90分程度)	第3課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第7回	第3課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(合計の所要時間90分程度)	第3課付属のCDの本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第8回	第4課 興味	第4課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(合計の所要時間90分程度)	第4課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第9回	第4課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(合計の所要時間90分程度)	第4課付属のCDの本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第10回	第5課 気候	第5課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(合計の所要時間90分程度)	第5課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			

第11回	第5課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(合計の所要時間90分程度)	第5課付属のCDの本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第12回	第6課 交通	第6課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(合計の所要時間90分程度)	第6課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第13回	第6課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(合計の所要時間90分程度)	第6課付属のCDの本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第14回	第1～6課 総復習と口述テスト	口述テスト作文を作成(合計の所要時間90分程度)	総復習、授業内でのリスニング練習に備え、付属のCD(第1～6課)を聞くこと。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第15回	まとめおよび期末テスト	総復習(第1～6課)(合計の所要時間90分程度)	期末テストの見直し(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期テストは実施しません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト30%、口述テスト20%、期末テスト50%	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>『中文Jump!』人見 豊/李研 金星堂 2019年2月 ISBN978-4-7647-0678-1</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>授業内で適宜指示</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>授業中に行う解説をスムーズに進行するため、文法、語彙、本文などの予習をしてくること。無断欠席は必ず減点要素とする。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語コミュニケーション				ナンバリング	2245
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	胡 耀光						
授業の位置づけ							
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は中国語入門を修得した二年生対象です。 ・更に中級レベルの語彙と文型を丁寧に学習し、中国語の聴く、話す、読む能力を総合的に高めるための科目である。 ・役立つ実用的な日常会話にも触れながら、中国語を聞き話す力を鍛えて、相手と簡単なコミュニケーションを取るための科目である。 ・グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働を可能とし、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につける科目であり、1年次の中国語科目の発展科目であるとともに、「中国語リスニング」「中国語リーディング」「中国語ライティング」と関連する科目である。 							
授業の概要							
<p>この授業は、中国語の日常会話を修得する。中国の文化・習慣・伝統・流行・中国人の考え方などにも触れ、実生活に即した会話の練習を通して、自分の考えや伝えたいことを話せる能力を身につける。各課のポイントに基づく練習問題をこなすことで、基礎を固め応用力を養う。総合中国語Ⅰ、総合中国語Ⅱの授業に続き、中国語のレベルアップを図る。また、中国語で発想する感覚を身に付け、より踏み込んだレベルの生活会話の習得を目指す。</p>							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・正確で自然な発音、中級レベルの語彙および文法を身に付けること。 ・中国人と簡単なコミュニケーションが取れるようになり、聴く、話す、読む能力を総合的に高めること。 ・中国語検定3級、HSK3級レベルに達すること。 ・また、講義とDVDなどによる中国文化・風俗、中国事情の紹介など日中の相互理解も深める。 							
授業の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストに沿って授業を進める。原則として、1課につき1.5～2回で学ぶ。 ・単語、本文の発音と説明の後、文法の学習と練習問題。その後、ペアで会話練習を行う。 ・講義とDVDを通して、中国の文化や生活習慣などを紹介し、中国への理解と関心を高めていく。 							
ICT活用							
必要に応じて、ICTを利用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
提出された課題についての解説を授業の前または後で行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	第一課【自我介绍】 1. 様態補語 2. 助動詞「要」(1) 3. 「正～呢」	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	4. 二重目的語 5. 「太～了」习题	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	第二課【兴趣・爱好】 1. 「无论～, 都～」 2. 「除了～, 还/也/都～」 3. 結果補語	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第4回	4. 「一～就～」 5. 助動詞「要」(2) 习题	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			

第5回	第三课【去学校】 1. 助動詞「得」 2. 「一边～一边～」 3. 「只有～就～」	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	4. 助動詞「还是」 5. 数量補語 习题	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第7回	中間テストおよびまとめ	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	第四课【点菜】 1. 動詞「需要」 2. 副詞「马上」 3. 前置詞「跟」	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	4. 「跟/和～一样」 5. 程度補語 习题	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第10回	第五课【我的梦想】 1. 「越～越～」 2. 「连～都/也～」 3. 「只有～才～」	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			

第11回	4. 動詞+「在」 5. 「从来」 习题	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	第六課【春假早点儿来!】 1. 「可」 2. 「与其~不如~」 3. 「也许~也许~」	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第13回	4. 「得知」 5. 「不但~还/而且~」 习题	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	総合会話(暫定)	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第15回	期末テストおよびまとめ	音声を利用して授業全内容を予習すること。(180分)	なし
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内テスト(中間・期末テスト)60%程度、小テスト・会話・レポート・授業参加度 40%程度

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>話そう！実践中国語／宮本大輔・温琳／朝日出版社</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>Why? にこたえる初めての中国語の文法書／相原茂・石原田知子・戸沼市子／同学社</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席・授業参観を重視する。 ・ 予習、復習、積極的に授業に取り込むこと。 ・ 質問がある場合、いつでも聞くこと。 		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語入門 I [C2-2]				ナンバリング	1231
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	大沼 尚子						
授業の位置づけ							
<p>中国語の特徴を理解し、全体像をつかめるようにする。「聞く、話す、読む、書く」能力を同時に身につけることで、中国語学習の基礎を築く。場面に即して簡単な受け答えができるようにすることで、異文化を理解し、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、国際交流に貢献できる人材を養成する。他の中国語科目と関連するとともに、後期科目「中国語入門Ⅲ」につながる科目である。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、「中国語入門Ⅰ・Ⅱ」に連動し、引き続き発音の基礎と初歩的文法事項及び表現方法を学び、基礎的な「語法と表現」を使って日常場面でのコミュニケーションができるようにする。同時に発音習得に欠かせない、発音符号とピンインの読み方とその表記、さらに声調を結びつけ、中国語の発音表記について完全にマスターできるようにする。発音を完全にマスターすることで、中国語の基礎を固める。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1.ピンイン・発音の習得し、中国語の発音をマスターする。 2.基本語彙・文法の習得する。 3.簡単な日常会話を聞き取れ、簡単な日常会話を話せる。基本的な中国語の運用ができる。 							
授業の方法							
<p>毎回必ず出席をとり、授業時に毎回何名かの学生に発音させたり、練習問題を書かせたりします。さらに各1～2回の授業で1課を終える進度でテキストを学んでいきます。たまには中国に関するビデオを見せます。小テストも行います。詳しいことはガイダンスの時に説明します。 予習:テキスト付属のCDを聞いてくる。教科書を読んでみて分らない単語を調べていく。説明が載っている文法の部分を読んでいく。 復習:その日の授業で習ったところの意味をよく考えながら音読しよう。ノートを見直そう。また、先生に積極的に質問していこう。小テストや定期考査前には、再度、復習する必要があるので取り組もう。</p>							
ICT活用							
<p>時間がある時にICを利用する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

なし			
課題に対するフィードバックの方法			
提出された課題についての解説を授業の前または後で行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス これから勉強する中国語とは	中国と中国語について調べる (90分)	声調の復習 (90分)
担当教員			
第2回	発音編 1) 声調と単母音	声調と母音の予習 (90分)	音声を聴きながら復習すること(90分)
担当教員			
第3回	発音編 2) 複合母音と子音	複母音と子音の予習 (90分)	音声を聴きながら復習すること(90分)
担当教員			
第4回	発音編 3) 鼻母音と発音のルール	鼻母音と発音のルールの予習 (90分)	音声を聴きながら復習すること(90分)
担当教員			

第5回	発音編の総復習	発音全体の復習 (90分)	第一課の予習 (90分)
担当教員			
第6回	第一課 お名前は？	単語・文法の予習 (90分)	習った内容の復習・第二課の予習 (90分)
担当教員			
第7回	第二課 お家はどこですか。	単語・文法の予習 (90分)	習った内容の復習 (90分)
担当教員			
第8回	中間試験及び復習	発音と第一課と第二課の復習 (90分)	第三課の予習 (90分)
担当教員			
第9回	第三課 四人家族です。	単語・文法の予習 (90分)	習った内容の復習・第四課の予習 (90分)
担当教員			
第10回	第四課 映画を見るのが好きです。	単語・文法の予習 (90分)	習った内容の復習 (90分)
担当教員			

第11回	第三課と第四課 復習	単語・文法の予習(続き)(90分)	第三課と第四課 全体の復習(90分)
担当教員			
第12回	第五課 明日は暇ですか。	単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習・第五課の続きの予習(90分)
担当教員			
第13回	第五課 ご飯を食べに行きましょう。(続き)	単語・文法の予習(90分)	口述試験の復習(90分)
担当教員			
第14回	口述試験及びまとめ	口述試験問題の復習(90分)	前期に習った内容の復習(90分)
担当教員			
第15回	期末試験及びまとめ	総復習(180分)	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点は40%(出席10%、課題10%、口述試験20%)、授業中行う3回復習テストは40%。	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>スリム版「表現する中国語」／楊凱榮・張麗群／白帝社</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>Why? にこたえる初めての中国語の文法書／相原茂・石原田知子・戸沼市子／同学社</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>予習:テキスト付属のCDを聞いてくる。教科書を読んでみてわからない単語を調べていく。説明が載っている文法の部分を読んでいく。 復習:その日の授業で習ったところを意味をよく考えながら音読しよう。</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語入門 I [C2-1]				ナンバリング	1231
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	胡 耀光						
授業の位置づけ							
<p>中国語の特徴を理解し、全体像をつかめるようにする。「聞く、話す、読む、書く」能力を同時に身につけることで、中国語学習の基礎を築く。場面に即して簡単な受け答えをできるようにすることで、異文化を理解し、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、国際交流に貢献できる人材を養成する。他の中国語科目と関連するとともに、後期科目「中国語入門Ⅲ」につながる科目である。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、中国語修得の中で、外国人が最も苦勞すると言われる中国語の発音をマスターする(ローマ字を見て発音でき、発音を聞いてローマ字に直せるようになる)。これは中国語の基礎をマスターすることに等しい。この授業では、日本人の習慣を考慮した学習法により、効率的に中国語の発音をマスターすることを目指す。また、それと同時に、基本的な語彙や、すぐに役に立つ会話句をも紹介し、中国語学習に対する興味を養うことも目指す。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1.ピンイン・発音の習得し、中国語の発音をマスターする。 2.基本語彙・文法の習得する。 3.簡単な日常会話を聞き取れ、簡単な日常会話を話せる。基本的な中国語の運用ができる。 							
授業の方法							
<p>毎回必ず出席をとり、授業時に毎回何名かの学生に発音させたり、練習問題を書かせたりします。さらに各1～2回の授業で1課を終える進度でテキストを学んでいきます。たまには中国に関するビデオを見せます。小テストも行います。詳しいことはガイダンスの時に説明します。 予習:テキスト付属のCDを聞いてくる。教科書を読んでみて分らない単語を調べていく。説明が載っている文法の部分を読んでいく。 復習:その日の授業で習ったところの意味をよく考えながら音読しよう。ノートを見直そう。また、先生に積極的に質問していこう。小テストや定期考査前には、再度、復習する必要があるので取り組もう。</p>							
ICT活用							
<p>時間がある時にICを利用する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題についての解説を授業の前または後で行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス これから勉強する中国語とは	中国と中国語について調べる (90分)	声調の復習 (90分)
担当教員			
第2回	発音編 1) 声調と単母音	声調と母音の予習 (90分)	音声を聴きながら復習すること(90分)
担当教員			
第3回	発音編 2) 複合母音と子音	複母音と子音の予習 (90分)	音声を聴きながら復習すること(90分)
担当教員			
第4回	発音編 3) 鼻母音と発音のルール	鼻母音と発音のルールの予習 (90分)	音声を聴きながら復習すること(90分)
担当教員			

第5回	発音編の総復習	発音全体の復習(90分)	第一課の予習(90分)
担当教員			
第6回	第一課 お名前は？	単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習・第二課の予習(90分)
担当教員			
第7回	第二課 お家はどこですか。	単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習(90分)
担当教員			
第8回	中間試験及び復習	発音と第一課と第二課の復習(90分)	第三課の予習(90分)
担当教員			
第9回	第三課 四人家族です。	単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習・第四課の予習(90分)
担当教員			
第10回	第四課 映画を見るのが好きです。	単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習(90分)
担当教員			

第11回	第三課と第四課 復習	第三課と第四課 全体の復習 (90分)	第五課の予習 (90分)
担当教員			
第12回	第五課 明日は暇ですか。	単語・文法の予習 (90分)	習った内容の復習・第五課の続きの予習 (90分)
担当教員			
第13回	第五課 ご飯を食べに行きましょう。(続き)	単語・文法の予習 (90分)	口述試験の復習 (90分)
担当教員			
第14回	口述試験及びまとめ	口述試験問題の復習 (90分)	前期に習った内容の復習 (90分)
担当教員			
第15回	期末試験及びまとめ	総復習 (180分)	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点は40%(出席10%、課題10%、口述試験20%)、授業中行う3回復習テストは60%。	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>スリム版「表現する中国語」／楊凱榮・張麗群／白帝社</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>Why? にこたえる初めての中国語の文法書／相原茂・石原田知子・戸沼市子／同学社</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>予習:テキスト付属のCDを聞いてくる。教科書を読んでみてわからない単語を調べていく。説明が載っている文法の部分を読んでいく。復習:その日の授業で習ったところを意味をよく考えながら音読しよう。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語入門Ⅱ [C2-1]				ナンバリング	1232
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	魯 諱						
授業の位置づけ							
<p>本科目はディプロマポリシーの「世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につける」と、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力および世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける」と関係がある科目である。教養科目に位置づけられた入門レベルの外国語科目であり、前期の「中国語入門Ⅰ、Ⅲ」と関連するとともに、後期の「初級中国語Ⅰ」の基礎となる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、入門レベルの文法、基本会話と表現に関する基礎的事項を総合的に学習することによって、入門レベルの中国語の外観を把握し、特に、文法事項や発音のポイントを把握できるようにする。中国語の発音の学習で重要なことは、発音符号であるピンインの読み方とその表記の方法を理解することであるため、発音表記であるピンインとその表記の関係を理解することに力を入れ、その関係を把握できるようにする。</p>							
到達目標							
<p>中国語の学習を継続的に進めていくための、基礎的な事項であるピンインの読み方や表記の方法を理解し、正確に発音することができる。</p>							
授業の方法							
<p>読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、配布印刷物を用いて、多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。単語テストは6回目の授業から毎回行う。 なお、受講者の学習の状況に合わせて、各回の講義内容を微調整する場合がある。</p>							
ICT活用							
<p>Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。提出された宿題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。また、単語テスト後にも関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション、中国語とは？ 予習・復習に何をすべきか、何に力をいれて授業に臨むべきかなどを具体的に指示する。 発音①、四声、声調符号の付け方を中心にマスターする。	学習予定の部分(p.6-10)について、予習すること。(90分)	オリエンテーションの内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	発音② 単母音及び複母音を中心にマスターする。 単母音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。 単母音をマスターした後に、2重母音、3重母音の複母音について訓練する。	学習予定の部分(p.12-14)について、予習すること。(90分)	母音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、ドリルを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第3回	発音③ 子音(1)を中心にマスターする。 子音(声母)の音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。また、中国語の有気音と無気音の違いについては、徹底して発音訓練を行う。	学習予定の部分(p.16~18)について、予習すること。(90分)	子音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、挨拶語を読み、録音し、次回の授業の前日までに提出。(90分)
担当教員			
第4回	発音④ 子音(2)を中心にマスターする。 子音(声母)の音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。	学習予定の部分(p.20~22)について、予習すること。(90分)	子音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、挨拶語を読み、録音し、次回の授業の前日までに提出。(90分)
担当教員			

第5回	判断を表す“是”を使った表現をマスターする。 S+“是”+O S+“不是”+O	学習予定部分(p.24~27)について、予習すること。(90分)	p.29の振り返りシートを完成すること。p.25の本文をよく読み、録音し、次回授業前日までに提出。(90分)
担当教員			
第6回	自分の名前や同級生の名前を中国語で表現し、相手の名前を尋ねる表現をマスターする。 S(人)+“叫”+フルネーム S(人)+“姓”+苗字	授業の前に学習予定の部分(p.30~33)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.35の振り返りシートを完成すること。p.31の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第7回	動詞を用いた最も基本的な文型と選択疑問文をマスターする。	学習予定の部分(p.36~39)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.41の振り返りシートを完成すること。p.37の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第8回	I、二つ以上の動詞からなる文——連動文 II、希望や願望を表す助動詞“想”	学習予定の部分(p.42~45)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.47の振り返りシートを完成すること。p.43の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第9回	“有”を用いた文型をマスターする。 S+“有”+O S+“没有”+O “在”と“有”を用いた文型の相違を確認し、マスターする。 S+“在”+場所 場所+“有”+S	学習予定の部分(p.48~51)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.53の振り返りシートを完成すること。p.49の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第10回	I、年月日、曜日の言い方 II、助動詞“得”と“要”	学習予定の部分(p.54~57)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.59の振り返りシートを完成すること。p.55の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			

第11回	形容詞述語文と時刻の言い方をマスターする。	学習予定の部分(p.60～63)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.65の振り返りシートを完成すること。p.61の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第12回	中国語のお金の言い方と量詞について学ぶ。	学習予定の部分(p.66～69)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.71の振り返りシートを完成すること。p.67の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第13回	I、年齢の言い方と尋ね方 II、前置詞“在”	学習予定の部分(p.72～75)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.77の振り返りシートを完成すること。p.73の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第14回	I、文末助詞の“了” II、動詞の重ね(AA A“一”A “一下”)	学習予定部分(p.78～81)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.83の振り返りシートを完成すること。p.79の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第15回	小テストおよび授業のまとめを行う。	学習した部分(第1課～14課)を復習すること。(90分)	小テストの内容を確認すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験を行いません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(30%) + 単語テスト(20%) + 小テスト(50%)	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>『いま始めよう！アクティブラーニング—初級中国語—』陳淑梅 張国璐著 朝日出版社</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>『実用現代漢語語法』、劉月華など著、北京、商務印書館。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>1回目の授業に必ず出席すること。出席と宿題を重視する。無断欠席は必ず減点要素になる。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語入門Ⅱ [C2-2]				ナンバリング	1232
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	魯 諱						
授業の位置づけ							
<p>本科目はディプロマポリシーの「世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につける」と、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力および世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける」と関係がある科目である。教養科目に位置づけられた入門レベルの外国語科目であり、前期の「中国語入門Ⅰ、Ⅲ」と関連するとともに、後期の「初級中国語Ⅰ」の基礎となる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、入門レベルの文法、基本会話と表現に関する基礎的事項を総合的に学習することによって、入門レベルの中国語の外観を把握し、特に、文法事項や発音のポイントを把握できるようにする。中国語の発音の学習で重要なことは、発音符号であるピンインの読み方とその表記の方法を理解することであるため、発音表記であるピンインとその表記の関係を理解することに力を入れ、その関係を把握できるようにする。</p>							
到達目標							
<p>中国語の学習を継続的に進めていくための、基礎的な事項であるピンインの読み方や表記の方法を理解し、正確に発音することができる。</p>							
授業の方法							
<p>読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、配布印刷物を用いて、多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。単語テストは6回目の授業から毎回行う。 なお、受講者の学習の状況に合わせて、各回の講義内容を微調整する場合がある。</p>							
ICT活用							
<p>Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。提出された宿題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。また、単語テスト後にも関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション、中国語とは？ 予習・復習に何をすべきか、何に力をいれて授業に臨むべきかなどを具体的に指示する。 発音①、四声、声調符号の付け方を中心にマスターする。	学習予定の部分(p.6-10)について、予習すること。(90分)	オリエンテーションの内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	発音② 単母音及び複母音を中心にマスターする。 単母音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。 単母音をマスターした後に、2重母音、3重母音の複母音について訓練する。	学習予定の部分(p.12-14)について、予習すること。(90分)	母音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、ドリルを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第3回	発音③ 子音(1)を中心にマスターする。 子音(声母)の音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。また、中国語の有気音と無気音の違いについては、徹底して発音訓練を行う。	学習予定の部分(p.16~18)について、予習すること。(90分)	子音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、挨拶語を読み、録音し、次回の授業の前日までに提出。(90分)
担当教員			
第4回	発音④ 子音(2)を中心にマスターする。 子音(声母)の音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。	学習予定の部分(p.20~22)について、予習すること。(90分)	子音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、挨拶語を読み、録音し、次回の授業の前日までに提出。(90分)
担当教員			

第5回	判断を表す“是”を使った表現をマスターする。 S+“是”+O S+“不是”+O	学習予定部分(p.24~27)について、予習すること。(90分)	p.29の振り返りシートを完成すること。p.25の本文をよく読み、録音し、次回授業前日までに提出。(90分)
担当教員			
第6回	自分の名前や同級生の名前を中国語で表現し、相手の名前を尋ねる表現をマスターする。 S(人)+“叫”+フルネーム S(人)+“姓”+苗字	授業の前に学習予定の部分(p.30~33)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.35の振り返りシートを完成すること。p.31の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第7回	動詞を用いた最も基本的な文型と選択疑問文をマスターする。	学習予定の部分(p.36~39)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.41の振り返りシートを完成すること。p.37の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第8回	I、二つ以上の動詞からなる文——連動文 II、希望や願望を表す助動詞“想”	学習予定の部分(p.42~45)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.47の振り返りシートを完成すること。p.43の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第9回	“有”を用いた文型をマスターする。 S+“有”+O S+“没有”+O “在”と“有”を用いた文型の相違を確認し、マスターする。 S+“在”+場所 場所+“有”+S	学習予定の部分(p.48~51)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.53の振り返りシートを完成すること。p.49の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第10回	I、年月日、曜日の言い方 II、助動詞“得”と“要”	学習予定の部分(p.54~57)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.59の振り返りシートを完成すること。p.55の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			

第11回	形容詞述語文と時刻の言い方をマスターする。	学習予定の部分(p.60～63)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.65の振り返りシートを完成すること。p.61の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第12回	中国語のお金の言い方と量詞について学ぶ。	学習予定の部分(p.66～69)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.71の振り返りシートを完成すること。p.67の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第13回	I、年齢の言い方と尋ね方 II、前置詞“在”	学習予定の部分(p.72～75)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.77の振り返りシートを完成すること。p.73の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第14回	I、文末助詞の“了” II、動詞の重ね(AA A“一”A “一下”)	学習予定部分(p.78～81)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.83の振り返りシートを完成すること。p.79の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第15回	小テストおよびまとめを行う。	学習した部分(第1課～14課)を復習すること。(90分)	小テストの内容を確認すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験を行いません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(30%) + 単語テスト(20%) + 小テスト(50%)	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>『いま始めよう！アクティブラーニング—初級中国語—』陳淑梅 張国璐著 朝日出版社</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>『実用現代漢語語法』、劉月華など著、北京、商務印書館。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>1回目の授業に必ず出席すること。出席と宿題を重視する。無断欠席は必ず減点要素になる。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		朝鮮語 I				ナンバリング	3271
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	崔 鉉鎮						
授業の位置づけ							
この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次後期科目「朝鮮語Ⅱ」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
この授業は、朝鮮語を初めて学ぶ学生を対象とし、朝鮮語の初歩を習得する。ハングル文字表記を学び、その音韻体系と基本的な音韻規則を理解し、朝鮮語の基本文型を使って、簡単な挨拶表現や自己紹介をはじめ、初対面の人との出会いと交流場面での表現の習得を通して、韓国文化を学ぶとともに朝鮮語で話すことの楽しさを体験する。							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. ハングル文字の読み書きができる。 2. 単語・文レベルにみられる発音変化規則を理解して適用できる。 3. 挨拶や自己紹介をはじめ、日常生活でよく使われる簡単な会話表現ができる。 							
授業の方法							
パワーポイントと視聴覚資料などを活用しながら講義形式で進める。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時に解説を行う。質問や感想などは出席カードを通して随時受け付けて課題と同様、次回の授業に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	① ガイダンス(授業の流れ、履修上の留意事項、成績評価など)を行う。 ② ハングル文字の仕組み及び母音字①(単母音)について学ぶ。	韓国と韓国語について調べる(90分)。	学んだ文字を暗記する(90分)。
担当教員			
第2回	母音字②(二重母音)について学ぶ。	学習する文字(配布プリント)を予習する(90分)。	学んだ文字を暗記する(90分)。
担当教員			
第3回	子音字①(カ、サ、タ、ナ行に類似した子音)について学ぶ。	学習する文字(配布プリント)を予習する(90分)。	学んだ文字を暗記する(90分)。
担当教員			
第4回	子音字②(ハ、パ、マ、ラ、チャ行に類似した子音)について学ぶ。	学習する文字(配布プリント)を予習する(90分)。	学んだ文字を暗記する(90分)。
担当教員			

第5回	パッチム(日本語の「ン、ル、ッ」に類似)について学ぶ。	学習する文字(配布プリント)を予習する(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第6回	① 発音変化規則「連音化」を理解し、単語と文章に適用して読む。 ② 仮名のハングル表記法に基づいて日本の人名や地名などを書く。	p12「連音化」とp21「仮名のハングル表記」を予習する(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第7回	① 4課-1 主題・トピックを表す助詞について学ぶ。 ② 4課-2 丁寧表現「名詞+です(か)」(ハムニダ体)について学習する。 ③ 「鼻音化」について学ぶ。	学習項目に出てくる新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第8回	① 4課-3 自己紹介・ものの名前を言う時に使う表現について学ぶ。 ② 会話文と復習問題を用いて4課の内容をまとめる。	学習項目に出てくる新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第9回	① 5課-1 文の主語を表す助詞について学ぶ。 ② 5課-2 丁寧表現「名詞+です(か)」(ヘヨ体)について学習する。	学習項目に出てくる新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第10回	① 5課-3 否定表現「名詞+ではありません」について学ぶ。 ② 「激音化」について学習する。 ③ 会話文と復習問題を用いて5課の内容をまとめる。	学習項目に出てくる新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			

第11回	視聴覚資料を活用して「生きた韓国語」に触れる。これまで学んできた語彙や表現などの聞き取り練習を行うとともに韓国の文化についても知る。	4・5課の学習内容を復習する(120分)。	視聴覚資料に出てきた単語と表現の表記・発音を復習し、疑問に思った韓国の文化などがあれば調べる(60分)。
担当教員			
第12回	6課-1 漢数詞の数え方と漢数詞に付く助数詞(年、月、日など)について学ぶ。	学習項目に出てくる新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第13回	① 6課-2 時間・場所を表す助詞および位置の表現について学ぶ。 ② 6課-3 存在を表す表現について学習する。	学習項目に出てくる新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第14回	① 二つ文字バッチムの発音と連音化について学習する。 ② 会話文と復習問題を用いて6課の内容をまとめる。	p37の内容を予習する(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第15回	今学期の学習内容を総まとめした後、到達度確認テストを行う。	理解が十分にできていない内容を中心に復習する(90分)。	今学期の学習内容を総復習する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度(10%)、課題・小テスト(30%)、学期末試験(60%)で総合的に評価する。	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>『三訂版・韓国語の世界へ 入門編 -コツコツ学び、カジュアルに話そう- 』／李潤玉・酒匂康裕・須賀井義教・睦宗均・山田恭子 著／朝日出版社</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>必要に応じて紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>1～5回目(教科書の1-3課に相当)は教科書を基に作成したオリジナル資料を使って授業を進める。</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		日本語 I				ナンバリング	1251
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	阿部 仁美						
授業の位置づけ							
<p>日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅱ・Ⅱ」と並行して授業を進め、かつ1年次後期科目「アカデミックジャパニーズⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎科目となる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、外国人留学生のための科目で、中級レベルの日本語の4技能を総合的に学ぶ。留学生が学生生活および日本での社会生活を送る上で、日本語で情報が入手でき、対人関係が築けるようにするために、ここでは主に文章表現と口頭表現力を伸ばすためにピアラーニングで教室活動していく。まず受講生がこれまでに学習した初中級レベルの文法項目が定着しているか確認・復習の上、中級から上級レベルへの移行を図る。読み漢字1,500字程度、語彙8,000語程度を習得し、相手や場面に合わせた日本語コミュニケーション能力を修得する。</p>							
到達目標							
<p>日本での学生生活、および社会生活を送る上で、必要な文法・表現・ストラテジーを学び、4つのスキルを身につけることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 読解を通して、文型表現を讀みのストラテジーを学ぶことができる。 2) 読んで学んだことをもとに実際に作文を書くことができる。 3) 様々な場面で必要な話し方ができる。 4) 日常会話やスピーチを聞いて、質問に答えることができる。 							
授業の方法							
<p>教科書、配布物などを活用しながら、授業を進める。 グループワークやペアワーク活動を取り入れる。 小テストを実施する。</p>							
ICT活用							
<p>課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード/スライドで添付送信する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして小テストや作文の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	文法復習① 助詞・動詞の活用と文型	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	文法復習④ 他動詞・自動詞	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	L1 読み物 日本を代表する有名人①	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第4回	L1 読み物 日本を代表する有名人②	読み物の熟読・理解をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第5回	L1 書く 私が尊敬する有名人 ・書き言葉の文体	モデル作文を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L2 読み物 メールと手紙②	読み物の熟読・理解をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第7回	L2 書く お礼の手紙	モデル作文を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L3 読み物 日本を楽しむ②	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L3 書く 私の好きな町	モデル作文を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第10回	L4 読み物 外国での経験②	読み物の熟読・理解をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第11回	L4 書く 座談会の記事	モデル作文を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L5 読み物 和食のすすめ②	読み物の熟読・理解をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第13回	L5 文型・表現②	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L6 読み物 日本社会への声②	読み物の熟読・理解をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	L6 文型・表現②	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	このコースで学んだことを復習しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	作文(5%)*6回、小テスト(20%)*3回、小テスト(話す・聞く)(10%)	

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>出席率70%以上を評価対象とする。</p>
<p>教科書</p>		
<p>『4技能でひろがる中級日本語カルテット1』／安井 朱美ほか／The Japan Times 『4技能でひろがる中級日本語カルテット1 ワークブック』／安井 朱美ほか／The Japan Times</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>適宜、紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		日本語Ⅱ				ナンバリング	1252
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	富田 麻知子						
授業の位置づけ							
<p>日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅲ」と並行して授業を進め、かつ1年次後期科目「アカデミックジャパニーズⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎科目となる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、「日本語Ⅰ」を併せて学び、中級レベルの日本語の4技能を総合的に学ぶ。外国人留学生が学生生活および日本での社会生活を送る上で、日本語を用いて対人関係が築けるようにするために、ここでは特に口頭表現力を伸ばすことを目的に、会話と聴解練習の教室活動が中心となる。受講生がこれまでに学習した初中級レベルの文法や語句・語法項目が定着しているか確認・復習しながら、中級レベルの日本語学習項目の定着をはかる。読み漢字1,500字程度、語彙8,000語程度を習得し、相手や場面に合わせた日本語コミュニケーション能力を修得する。</p>							
到達目標							
<p>日本での学生生活、および社会生活を送る上で、必要な文法・表現・ストラテジーを学び、4つのスキルを身につけることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 読解を通して、文型表現を讀みのストラテジーを学ぶことができる。 2) 読んで学んだことをもとに実際に作文を書くことができる。 3) 様々な場面で必要な話し方ができる。 4) 日常会話やスピーチを聞いて、質問に答えることができる。 							
授業の方法							
<p>教科書、配布物などを活用しながら、授業を進める。 グループワークやペアワーク活動を取り入れる。 小テストを実施する。</p>							
ICT活用							
<p>課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード/スライドで添付送信する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして小テストや作文の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	文法復習② 助詞・動詞の活用と文型	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	文法復習⑤ 可能表現	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	L1 文型・表現・「そうだ」「らしい」「ようだ」	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第4回	L2 読み物 メールと手紙①	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第5回	L2 文型・表現・「敬語」	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L3 読み物 日本を楽しむ① 小テスト(L1・L2)	小テストの準備をしておくこと(60分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第7回	L3 文型・表現・「授受表現」	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L4 読み物 外国での経験①	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L4 文型・表現・「受け身形」「使役形」「使役受け身形」	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第10回	L5 読み物 和食のすすめ① 小テスト(L3・L4)	小テストの準備をしておくこと(40分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第11回	L5 文型・表現①・「条件文」	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L5 書く 私のおすすめ料理	モデル作文を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第13回	L6 読み物 日本社会への声①	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L6 文型・表現①・「助詞 は・が」	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	書く 投書文を書く 小テスト(L5・L6)	小テストの準備をしておくこと。(60分)	このコースで学んだことを復習しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	作文(5%)*6回、小テスト(20%)*3回、小テスト(話す・聞く)(10%)	

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>出席率70%以上を評価対象とする。</p>
<p>教科書</p>		
<p>『4技能でひろがる中級日本語カルテット1』／安井 朱美ほか／The Japan Times 『4技能でひろがる中級日本語カルテット1 ワークブック』／安井 朱美ほか／The Japan Times</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>適宜、紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		日本語Ⅲ				ナンバリング	1253
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	傳法 智恵美						
授業の位置づけ							
<p>日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅱ」と並行して授業を進め、かつ1年次後期科目「アカデミックジャパニーズⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎科目となる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、「日本語Ⅰ・Ⅱ」と共に、中級レベルの日本語の4技能を総合的に学ぶ。外国人留学生が学生生活および日本での社会生活を送る上で、日本語を用いて対人関係が築けるようにするために、ここでは口頭表現だけでなく文章表現能力を伸ばすことを目的に授業を進めていく。受講生の初中級レベルの学習項目定着を確認しつつ、中上級レベルの日本語表現文型や語法と多義語や抽象語彙を使って、敬意表現や公的なメール文が書けるようになり、日本語の多様な表現を理解する。</p>							
到達目標							
<p>日本での学生生活、および社会生活を送る上で、必要な文法・表現・ストラテジーを学び、4つのスキルを身につけることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 読解を通して、文型表現を読み取るストラテジーを学ぶことができる。 2) 読んで学んだことをもとに実際に作文を書くことができる。 3) 様々な場面で必要な話し方ができる。 4) 日常会話やスピーチを聞いて、質問に答えることができる。 							
授業の方法							
<p>教科書、配布物などを活用しながら、授業を進める。 グループワークやペアワーク活動を取り入れる。 小テストを実施する。</p>							
ICT活用							
<p>課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして小テストや作文の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション、レベルチェック	初級文法の基礎知識を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	文法復習③ 瞬間動詞・継続動詞	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	文法復習⑥ 事実文	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第4回	L1 話す 新しい出会い	モデル会話の確認をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第5回	L1 聞く アメリカ人留学生から見た日本	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L2 話す 先生とのやりとり	モデル会話の確認をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第7回	L2 聞く フランス人留学生から見た日本	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L3 話す 友人との集まり	モデル会話の確認をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L3 聞く イタリア人留学生から見た日本	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第10回	L4 話す 困った時には	モデル会話の確認をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第11回	L4 聞くドイツ人留学生から見た日本	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L5 話す 週末の予定	モデル会話の確認をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第13回	L5 聞く 韓国人留学生から見た日本	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L6 聞く 中国人留学生から見た日本	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	L6 日本小テスト(話す・聞く)	小テストの準備をしておくこと。(60分)	このコースで学んだことを復習しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	作文(5%)*6回、小テスト(20%)*3回、小テスト(話す・聞く)(10%)	

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>出席率70%以上を評価対象とする。</p>
<p>教科書</p>		
<p>『4技能でひろがる中級日本語カルテット1』／安井 朱美ほか／The Japan Times 『4技能でひろがる中級日本語カルテット1 ワークブック』／安井 朱美ほか／The Japan Times</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>適宜、紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		アウトドア・ツーリズム研修				ナンバリング	1520
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	2
担当教員	小山田 健、小西 正人、宮本 融						
授業の位置づけ							
<p>世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての専門知識を身につける。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。世界各地域の活性化につながるための異文化コミュニケーション能力を身につける。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につける。問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができる(思考・判断・表現)。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、集中講義と研修で北海道の観光産業におけるアウトドアスポーツ観光の開発とその観光プロモーションを考えていく。訪日外国人観光客の旅行目的は多様化しており、体験型テーマ旅行の提供が求められているが、北海道はスキー、スノーボードなど、冬季のスポーツを楽しむ場所としては海外でも知名度が高い。近年は、グリーンシーズンのアウトドア・スポーツはニセコ、富良野、キロロなどでのラフティングやカヌー、ハイキング、登山、ゴルフで外国人観光客誘致が活発化しているが、その英語・中国語のガイドやインストラクターが不足している。ここでは、近い将来、アウトドア観光の担い手となる二言語併用人材育成として、ニセコ等でのアウトドア・アクティビティのガイド体験を行う。</p>							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・アウトドアスポーツの体験を通し、その魅力を把握する。 ・体験したアウトドアスポーツのなりえるターゲットについて考えることができるようになる。 ・新しいアウトドア体験プログラムのツアー開発や、そのプロモーションができるようになる。 ・チームビルディングを理解し、実践をとおして、チームで働く力を身につける。また、その過程で、自らが主体性を持って前に進める力や、考え抜く力も身につけていく。 ・問いや仮説を立てて現状を分析し、課題解決案を考える力を身につける。 ・PBL学習(Project/Problem Based Learning)について理解する。 							
授業の方法							
<p>「事前研修」「実施研修」「事後研修」の3つの方式で行う。</p> <p>*「実施研修」や「事後研修」は、PBL(Project/Problem Based Learning)方式で行う。そして、編成するチームでグループワークを重ね、新しいアウトドアスポーツの開発やプロモーション方法を考え、プレゼンテーションを行う。</p>							
ICT活用							
<p>オリエンテーション時に説明する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション →授業の進め方など	北海道で行われているアウトドアスポーツについて調べておくこと(90分)	全世界で行われているアウトドアスポーツについて調べておくこと(90分)
担当教員			
第2回	[集中講義・事前研修] →地域の事前調査と研修内容の準備 I	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	[集中講義・事前研修] →地域の事前調査と研修内容の準備 II	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第4回	[実施研修] →アウトドア体験1-1/実施と調査 *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			

第5回	[実施研修] →アウトドア体験1-2/実施と調査 *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	[実施研修] →アウトドア体験2-1/実施と調査 *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第7回	[実施研修] →アウトドア体験2-2/実施と調査 *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	[実施研修] →アウトドア体験3-1/実施と調査 *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	[実施研修] →アウトドア体験3-2/実施と調査 *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第10回	[実施研修] →地域調査1-1(あるもの探し/受講生全員での調査) *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			

第11回	[実施研修] →地域調査1-2(あるもの探し/受講生全員での調査) *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	[実施研修] →地域調査2-1(あるもの探し/編成するチームでの調査) *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第13回	[実施研修] →地域調査2-2(あるもの探し/編成するチームでの調査) *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	[集中講義・事後研修] アウトドアスポーツの開発とプロモーション I →グループワーク 編成したチームでグループワークを行い、実施研修の内容をもとに、新しいアウトドア体験プログラムのツアー開発と、プロモーションの方法を考える。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	[集中講義・事後研修] アウトドアスポーツの開発とプロモーション II →プレゼンテーションと講評 グループワークで検討した、新しいアウトドア体験プログラムのツアー開発とプロモーションについて、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションにおいては、外部からゲスト(予定)をお招きし、オンライン又は対面で参加をいただき講評をいただく。 →最終レポートの提出 これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分) これまで取り組んだことを復習しまとめておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	事前研修、実施研修、事後研修[アウトドアスポーツの開発とプロモーション]を総合的に判断して(詳細はオリエンテーション時に報告する)

<p>その他</p>	<p>20</p>	<p>最終レポート(これまでの授業の取り組みを確認。レポートの内容については、最終授業に伝える)</p>
<p>教科書</p>		
<p>なし</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>なし</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>留意事項等 学外での研修や宿泊時に、他者へ迷惑をかける行為などを行った場合には、受講の取り消しとする場合がある。 コロナ禍であるため、授業内容や日程については、間際で変更される場合もある。状況については、入学時のオリエンテーションや、学内の掲示板等を活用し報告していく。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		世界と北海道				ナンバリング	1500/3504
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健						
授業の位置づけ							
<p>世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての専門知識を身につける。世界各地域の活性化につながるための異文化コミュニケーション能力を身につける。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えていく。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につける。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。(思考・判断・表現)</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、私たちが暮らす北海道と世界がどのようにつながっているのか理解を深め、北海道知識を深めていく科目である。北海道の主力産業である第一次産業の産品は今や世界の高級ブランドとして消費され、北海道には世界中から観光客や旅行者が訪れるようになった。また外国人生活者も増加しており、北海道のグローバル化の現状について、学生はさまざまな分野の統計や詳細データを収集し、その資料を多角的な視点で分析し、データの裏付けから現状と課題を映し出す手法を身につける。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1.北海道と世界のつながりを、観光の視点から述べるようになる。 2.前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を身につける。 3.PBL学習(Project/Problem Based Learning)について論じることができるようになる。 4.北海道について知るための統計やデータの収集方法を身につける。 5.データの初歩的な分析方法を身につける。 6.北海道全体と地域の問題を述べるようになる。 7.地元学を理解し、課題解決の手法を身につける。 							
授業の方法							
<p>パワーポイントと配布資料などを使用し講義を進める。また、授業ごとに編成するチームでのグループワークやプレゼンテーションなども行っていく。</p>							
ICT活用							
<p>資料提示や情報収集のために、スマートフォンなどを使用する場合がある。本学が推奨するものや、zoomなども取り入れていく。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(授業の進め方) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる内容が理解できるようになる	世界の人口、世界各国の人口、日本の人口、日本各都道府県の人口、北海道の人口、北海道各市町村の人口を調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第2回	北海道の戦略と取り組み I →世界水準の価値創造空間を目指す開発計画についての把握(統計やデータの収集)	「北海道総合開発計画」について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第3回	北海道の戦略と取り組み II →世界水準の価値創造空間を目指す開発計画と、北海道グローバル戦略についての把握(統計やデータの収集)	「北海道グローバル戦略」指定箇所について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第4回	北海道の戦略と取り組み III →北海道グローバル戦略についての把握(統計やデータの収集)	「北海道グローバル戦略」指定箇所について調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

第5回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅰ →地域資源カードの作成法	「地元学」について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第6回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅱ →モノ(自然)についての考察 *情報の質と数を高めていく	北海道内のモノ(自然)について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第7回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅲ →モノ(他)についての考察 *情報の質と数を高めていく	北海道内のモノ(他)について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅳ →コト(イベント)についての考察 *情報の質と数を高めていく	北海道内のコト(イベント)について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第9回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅴ →コト(他)についての考察 *情報の質と数を高めていく	北海道内のコト(他)について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第10回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅵ →ヒトについての考察 *情報の質と数を高めていく	北海道内のヒトについて調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

第11回	地域資源カードを使った課題解決の検討 I →北海道各地域の、強みや弱みを考えていく * 目的、目標、手段の違いを明確にする * 情報収集、分析、課題解決などの初歩的なフレームワークを理解し、実践できるようにする	SWOT分析について調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第12回	地域資源カードを使った戦略立案 II →情報発信手段について考えていく * 目的、目標、手段の違いを明確にする * 情報収集、分析、課題解決などの初歩的なフレームワークを理解し、実践できるようにする	考えられる情報発信手段について調べ事前提出すること(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第13回	地域資源カードを使った戦略立案 III →恵庭市についての考察 * 目的、目標、手段の違いを明確にする * 情報収集、分析、課題解決などの初歩的なフレームワークを理解し、実践できるようにする	恵庭市の取り組みについて調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第14回	地域資源カードを使った戦略立案 IV →恵庭市周辺地域の考察 * 目的、目標、手段の違いを明確にする * 情報収集、分析、課題解決などの初歩的なフレームワークを理解し、実践できるようにする	恵庭市周辺の市町村の取り組みについて調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第15回	これまでの講義の振り返りと最終レポート →チーム編成をして、これまでの振り返りのためのディスカッションと発表を行う →最終レポート提出	これまでの授業内容を復習しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	準備学習の状況、授業態度、授業意欲、グループディスカッション、各授業内でのレポート、プレゼンテーション、事後学習の状況

<p>その他</p>	<p>20</p>	<p>最終レポート(これまでの授業の理解度を確認。レポートのテーマについては、最終授業日に伝える)</p>
<p>教科書</p>		
<p>教科書はなし。講義資料等については各回で随時配布。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>授業ごとに紹介していく。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>授業は、グループワークを中心に構成しているため、遅刻は原則欠席扱いとする。ただし、本学の規定に沿った理由で遅刻となる場合は、用紙などを添えて提出すれば出席とする。詳細はオリエンテーション時に報告する。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		北海道の食文化				ナンバリング	2530
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 俊弘、藤井 駿吾、松田 祐						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーにおける「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」こととも関係がある。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、北海道の先住民であるアイヌ民族の生活からの食文化について。シヤケなどを例に挙げ、生活様式と食文化の関連をアイヌ文化の観点から講述する。一方、明治2年、蝦夷地は北海道に改名され、開拓とともに日本各地から人々が移住してきた。そのような歴史的背景と地域特性から食生活が多様化し、ジンギスカンや石狩鍋、鮭のちゃんちゃん焼きなどの郷土料理が生まれた。その観点からも北海道の食文化を講述する。</p>							
到達目標							
<p>学園創設の時代背景を踏まえ、いま再び不安定になっている世界情勢に鑑み、食文化(食べること)が各所に与える影響の大きさやその質については、VUCAの時代を生きる上で理解する必要がある。本授業では「食べること/食文化」を多角的に観察し、国際的かつ歴史的に、食が文化の創造に不可欠な要素である点や、それらの要素が現代社会の基盤を形成している点について学習する。履修者は絶えず変化を求められる時代を生きていく中において、社会構造を再考するために必要な素養と基礎知識の獲得を目標とする。</p>							
授業の方法							
<p>教員作成パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いて講義形式で展開し、社会の実務者による講義も行う。また、学生間での対話(ディスカッション)を含むチーム学習も行う。</p>							
ICT活用							
<p>授業内容に関連するホームページや動画を用いる。課題などのやり取りにGoogle classroomを使用する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

なし			
課題に対するフィードバックの方法			
ディスカッションなどのフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	(導入)「北海道の食文化を理解するために」 北海道の食文化や、食べることは総合的な学問体系の基礎につながると考える。人々の食生活はその国や地域の歴史や地形、気候等を基礎として決定づけられており、例えばそこに派生する「農業」を理解するためには、食文化が総合的な学びであることへの理解が必須である。その他、民族や食生活、産業や海外文化等の要素と関連づけて講述する。	シラバスをよく読み、自らの問題意識を整理すること。また、「北海道の食文化」の自分なりのイメージを持っておくこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員			
第2回	(序論)「ガイダンス/その他の学びへと派生する(北海道の)食」 ・ガイダンス(授業に臨む時の姿勢やコツ、ノートの取り方、授業の進め方) ・「(北海道の)食や食べること×その他の総合的な学問体系」の関係性 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員			
第3回	「北海道の食文化の誕生と郷土料理」 ・北海道の食文化と郷土料理(ジンギスカン、石狩鍋、鮭のちゃんちゃん焼き等) ・北海道の食文化の歴史 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員			
第4回	「北海道の食を支える人と産業」 ・北海道の食を支える主な食産業、歴史 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員			

第5回	「北海道の成り立ちと食生活(仮)(恵庭市郷土資料館 長町 章弘 学芸員)」 北海道及び恵庭市の歴史について展示等を通して学びに繋げる取組を行っている社会教育施設の現場に従事する実務者による実践的な講義を通して、北海道の歴史や民族について考察する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員			
第6回	「地理と食産地の関係」 ・実は暗記科目ではない「地理」 ・「地理」から見つめてみる世界の食産地 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員			
第7回	「チェコ共和国の歴史と食文化～ビールに焦点をあてて～(仮)(在札幌チェコ共和国名誉領事館 野村 真弘 名誉領事)」 今年3月に開催された、野球の祭典・WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)において、日本代表チームと対戦した際に注目されたチェコ共和国について、実際に食料生産の現場で北海道の食産業を支えてきた実務者による実践的な講義を通して知り、歴史や食文化やビールについて考察する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員			
第8回	〈中間まとめ〉「〈食べること〉がなぜ重要なのか？」 ・食糧自給率の仕組み ・学園のルーツである「食」と多様性を認める時代の「食」など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員			
第9回	「北海道の食文化とアイヌ～漫画『ゴールデンカムイ』から～」 アイヌ民族と食との関係についての理解深化を目指し、アイヌ関連資料を用いて講述する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員			
第10回	「北海道内各地の食文化を比較する(道北・道南・道東・道央など)」「食を支える栄養学」 ・道内各地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員			

第11回	「北海道の食と日本各地の食文化を比較する(関東・東北地方など)」/「食を支える栄養学」 ・関東・東北地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員			
第12回	「北海道の食と日本各地の食文化を比較する(関西・九州・四国地方など)」/「食を支える栄養学」 ・関西・九州・四国地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員			
第13回	「北海道の食と世界の食文化を比較する(ヨーロッパ編)」 ・イタリア:スローフード(Citta Slow)の考え方 ・フランス:食の都パリ、国が食を大事にする精神性 ・スペイン:食を柱とした地域の活性化の成功例 ・鶴岡新太郎とフランス料理(料理法百たい(1)、料理法百たいに学ぶ) など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員			
第14回	「北海道の食と世界の食文化を比較する(アジア編)」 ・中国、韓国:日中韓の食事様式について	これまでの授業の全体像を見つめ直し、自分にとって必要な栄養や知識について整理しておくこと。(90分)	これまでの授業を踏まえ、今後自分にとって何が重要なポイントか、必要に応じて文献などを用いて調べること。(90分)
担当教員			
第15回	(まとめ)「食糧難の時代 2050年に備えて」 ・人口増大のピークにむかう地球(総人口90億人へ) ・世界情勢と食糧危機 ・国際学部生として大切なこと など	これまでの授業の全体像を見つめ直し、自分にとって必要な栄養や知識について整理しておくこと。(90分)	これまでの授業を踏まえ、今後自分にとって何が重要なポイントか、必要に応じて文献などを用いて調べること。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業に取り組む姿勢やレポートなどを中心に総合的に評価する。

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>特に指定しない。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>「食の歴史」(ジャック・アタリ著、プレジデント社)、「ゴールデンカムイ」シリーズ(野田サトル著、集英社)。その他は授業中に適宜提示する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>本授業は国際教養学科および国際コミュニケーション学科2年次の選択科目であるが履修することが望ましい。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p>ゲストスピーカー(実務者)の講義内容、講義日程は変更となる場合がある。</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 言語プロフェッショナル科目					
科目名		Basic Oral Communication[E2-2]				ナンバリング	1600
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

この科目はディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている」、「世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。(関心・意欲・態度)」、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」と関連している。また他の英語系のコミュニケーション科目と関連する。

授業の概要

この授業は、さまざまなトピックの課題を英語のみを用いて、他の学生や教員とのインタラクションを通しながら遂行できるようになること目標とする。授業では、流暢に、より正確な英語を用いてコミュニケーションを行うスキルを身に付けるだけでなく、言語能力の不足を補うために用いるコミュニケーションストラテジーに関わる指導も行う。

到達目標

Communicate more accurately in English around a variety of topical issues, using communication strategies to compensate for deficiencies in language skills when necessary.

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	In this lesson, we will discuss the class procedures, assignments and assessments.	Check the LMS, read the syllabus, read the textbook and create questions for the teacher (90 minutes)	Reflect on the notes, reflect on the syllabus, reflect on the discussion (90 minutes)
担当教員			
第2回	In this lesson, we will talk about the people and things in your life, introduce yourself in person and through email, as well as talk about what you have in common.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第3回	In this lesson, we will talk about your daily and weekly routines, discuss your workspace, write opinions about a podcast, and practice giving advice about useful apps for work and study.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第4回	In this lesson, we will talk about what you're doing at the moment, about sports and exercise, learn to ask for information, write short messages to a company and create a fitness program.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			

第5回	In this lesson, we will talk about your plans, learn about giving and receiving gifts, make and respond to invitations, write an online event announcement and chose gifts for your host.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第6回	In this lesson, we will talk about past events in your life, ask questions about the past, congratulate and sympathize with people, write a comment agreeing or disagreeing with an online post and summarize a story.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第7回	In this lesson, we will talk about your plans for a shopping trip, talk about shopping habits, describe what you want in a store, write a script for a vlog and present your idea for a new invention.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第8回	During this lesson, we will review our progress so far, as well as learn about strategies for preventing, identifying, and repairing communication difficulties.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第9回	In this lesson, we will talk about your favorite comfort food, design a food truck, explain what you want in a restaurant, write a comment about an online article and plan a party.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第10回	In this lesson, we will talk discuss what to do in your town, talk about a trip you went on, give advice and make suggestions, write advice on living in another country and plan a short trip.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			

第11回	In this lesson, we will compare stores and what they sell, talk about people in photos, ask for and give opinions, write a paragraph describing a photo as well as create and present an advertisement.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第12回	In this lesson, we will talk about how to avoid danger at work, make predictions about your future, describe a medical problem, ask for help, write an email to your future self and plan a reality TV show.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第13回	In this lesson, we will talk about talk about what you've done and what you've never done, talk about what you've done and when, make and respond to requests, write comments about an infographic and create a video or vlog	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第14回	In this lesson, we will talk about the weather, describe places, people and things, ask for and give directions, write simple instructions and create a tourism campaign for your country.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第15回	During this lesson, we will review the learning in this class and take the in-class test.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and reflect on study plan (90 minutes)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Participation 30 Weekly quizzes 30 In-class text 40

その他	0	Not applicable
教科書		
EVOLVE 2, Lindsay Clanfield, Ben Goldstein, Ceri Jones, and Philip Kerr, Cambridge		
参考文献		
Will be handed out in class		
履修条件・留意事項等		
Not applicable		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 言語プロフェッショナル科目					
科目名		Basic Oral Communication[E2-1]				ナンバリング	1600
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Joseph S Tomasine						
授業の位置づけ							
<p>この科目はディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている」、「世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。(関心・意欲・態度)」、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」と関連している。また他の英語系のコミュニケーション科目と関連する。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、さまざまなトピックの課題を英語のみを用いて、他の学生や教員とのインタラクションを通しながら遂行できるようになること目標とする。授業では、流暢に、より正確な英語を用いてコミュニケーションを行うスキルを身に付けるだけでなく、言語能力の不足を補うために用いるコミュニケーションストラテジーに関わる指導も行う。</p>							
到達目標							
<p>Communicate more accurately in English around a variety of topical issues, using communication strategies to compensate for deficiencies in language skills when necessary.</p>							
授業の方法							
<p>This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.</p>							
ICT活用							
<p>This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	In this lesson, we will discuss the class procedures, assignments and assessments.	Check the LMS, read the syllabus, read the textbook and create questions for the teacher (90 minutes)	Reflect on the notes, reflect on the syllabus, reflect on the discussion (90 minutes)
担当教員			
第2回	In this lesson, we will talk about the people and things in your life, introduce yourself in person and through email, as well as talk about what you have in common.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第3回	In this lesson, we will talk about your daily and weekly routines, discuss your workspace, write opinions about a podcast, and practice giving advice about useful apps for work and study.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第4回	In this lesson, we will talk about what you're doing at the moment, about sports and exercise, learn to ask for information, write short messages to a company and create a fitness program.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			

第5回	In this lesson, we will talk about your plans, learn about giving and receiving gifts, make and respond to invitations, write an online event announcement and chose gifts for your host.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第6回	In this lesson, we will talk about past events in your life, ask questions about the past, congratulate and sympathize with people, write a comment agreeing or disagreeing with an online post and summarize a story.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第7回	In this lesson, we will talk about your plans for a shopping trip, talk about shopping habits, describe what you want in a store, write a script for a vlog and present your idea for a new invention.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第8回	During this lesson, we will review our progress so far, as well as learn about strategies for preventing, identifying, and repairing communication difficulties.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第9回	In this lesson, we will talk about your favorite comfort food, design a food truck, explain what you want in a restaurant, write a comment about an online article and plan a party.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第10回	In this lesson, we will talk discuss what to do in your town, talk about a trip you went on, give advice and make suggestions, write advice on living in another country and plan a short trip.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			

第11回	In this lesson, we will compare stores and what they sell, talk about people in photos, ask for and give opinions, write a paragraph describing a photo as well as create and present an advertisement.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第12回	In this lesson, we will talk about how to avoid danger at work, make predictions about your future, describe a medical problem, ask for help, write an email to your future self and plan a reality TV show.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第13回	In this lesson, we will talk about talk about what you've done and what you've never done, talk about what you've done and when, make and respond to requests, write comments about an infographic and create a video or vlog	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第14回	In this lesson, we will talk about the weather, describe places, people and things, ask for and give directions, write simple instructions and create a tourism campaign for your country.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第15回	During this lesson, we will review the learning in this class and take the in-class test.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and reflect on study plan (90 minutes)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Participation 30 Weekly quizzes 30 In-class text 40

その他	0	Not applicable
教科書		
EVOLVE 2, Lindsay Clanfield, Ben Goldstein, Ceri Jones, and Philip Kerr, Cambridge		
参考文献		
Will be handed out in class		
履修条件・留意事項等		
Not applicable		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 言語プロフェッショナル科目					
科目名		English Literature I				ナンバリング	2616
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	及川 陽子						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「英語を実践的に運用できる能力とスキルを身につけている(知識・技能)」とともに、「グローバル社会の人々との信頼関係を構築し、異文化社会に対する正しい理解と協調の精神を持つことができる(関心・意欲・態度)」に特に関係がある科目である。当然その他のポリシーとも連動する。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、アングロ・サクソン時代からルネッサンス時代、エリザベス朝、ピューリタンの時代、ロマン派、ビクトリア朝から現代までの英文学の歴史と植民地時代からロマンティズム時代、リアリズム時代までの米文学の歴史を駆け足で概観する。ごく少数ではあるが、実際に代表的な作品に触れることによって(もちろん古い時代のものは現代英語の対訳付き)、学生は努力することによって深く読む力が付くことを実感し、大きな喜びを得る。同時に文学とは人生についての英知を与えてくれるものであるということを理解する。</p>							
到達目標							
<p>1) 文学作品において使用されている様々な英語表現について知り、使いこなすことができる。 2) 文学作品で描かれている、英語が使われている国や地域の文化について主体的に学び、知識として得ることができる。 3) 英語で書かれた代表的な文学について知り、考えを深めることができる。</p>							
授業の方法							
<p>教科書を中心として作品を読むことはもちろん、文学を理解するための講義を随時取り入れていく。また、グループ学習や小テストもしくは作品についての感想提出などの主体的方法をとる。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
ある作品についての感想などは驚くほど多様なものとなるはずである。したがって、それぞれの学生たちの意見をできるだけ教室内で共有し、個々の視野を広げていく。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業の実施方法に関するオリエンテーション	これまで読んできた、あるいは知っている英語で書かれた作品について訊くので答えられるよう準備しておくこと。 90分	学んだ知識を整理して今後の学習のために定着させておくこと。 90分
担当教員			
第2回	英語文学についての概論(1) 文学に関する用語や分野などについて確認する。	英語文学について知るべきことを確認し、作品を読む準備をすること。90分	学んだ知識を整理しておくこと。 90分
担当教員			
第3回	マザー・グースの動物たち(1) 英文学における代表的な一分野、詩の大本となるマザー・グースの詩を味わう。具体的には単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。考えを発表しあい、議論する。「がちょうおばさん」「フィドルを弾くねこ」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみる。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第4回	マザー・グースの動物たち(2) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。考えを発表しあい、議論する。「めえめえ黒い羊」「てんとう虫」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみる。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			

第5回	マザー・グースの自然 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。 考えを発表しあい、議論する。「きらきら星」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみる。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第6回	マザー・グースの男と女(1) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。 考えを発表しあい、議論する。「金髪巻き毛のお嬢さん」「いないいないばあ」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみる。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第7回	マザー・グースの男と女(2) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。 考えを発表しあい、議論する。「ジャックとジル」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみる。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第8回	マザー・グースの男と女(3) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。 考えを発表しあい、議論する。「笛吹きトム」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみる。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第9回	歴史を伝えるマザー・グース(1) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。 考えを発表しあい、議論する。「ロンドン橋落ちた」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみる。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第10回	歴史を伝えるマザー・グース(2) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。 考えを発表しあい、議論する。「誰が駒鳥殺したの」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみる。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			

第11回	遊び歌とナンセンス歌(1) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。 考えを発表しあい、議論する。「ハンプティ・ダンプティ」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみる。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第12回	遊び歌とナンセンス歌(2) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。 考えを発表しあい、議論する。「ぺったん、ぺったん」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみる。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第13回	遊び歌とナンセンス歌(3) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。 考えを発表しあい、議論する。「ジャックのおうち」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみる。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第14回	遊び歌とナンセンス歌(4) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。 考えを発表しあい、議論する。「きりなし歌」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	学んだ知識を整理して今後の学習のために定着させておくこと。90分
担当教員			
第15回	英語文学についての概論(2)文学史の流れを知る。 授業内試験 学んだ内容について筆記試験を行う。	今までの内容についてしっかりと理解しておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	復習しておくこと。90分
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度、小テスト、課題や口頭発表 50% 授業内試験 50%	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>The Illustrated World of Mother Goose Poetry, Makiko Miyahara, Hisayo Nakashima, Maki Ito, Naomi Miki and Yumiko Kida, eds. EIKO-SHA.</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>『現代イギリス読本』川成洋・長尾輝彦 編、丸善。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>辞書を活用すること。また、積極的に授業に参加すること。</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 言語プロフェッショナル科目					
科目名		English for Workplace Communication I [E2-2]			ナンバリング	3621	
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Patrick Hall						
授業の位置づけ							
この科目は学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、および世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目で、「関心・意欲・態度」と関連する							
授業の概要							
この授業は、実際のビジネスの場面での英語を用いたコミュニケーション能力の育成を目的としたものである。授業では、職場での同僚とコミュニケーション、顧客とのコミュニケーションを想定した言語活動を通し、主にスピーキング、リスニング能力の向上を目標とする。							
到達目標							
この授業は、実際のビジネスの場面での英語を用いたコミュニケーション能力の育成を目的としたものである。授業では、職場での同僚とコミュニケーション、顧客とのコミュニケーションを想定した言語活動を通し、主にスピーキング、リスニング能力の向上を目標とする。							
授業の方法							
This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.							
ICT活用							
This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).							
実務経験のある教員の教育内容							

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers to the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments, as applicable.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	今回の授業では、授業の進め方、課題、評価について。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み質問を作成する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を立てる。(90分)
担当教員			
第2回	このレッスンでは、自己紹介、挨拶、握手などの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第3回	このレッスンでは、会話を作るなどの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第4回	このレッスンでは、動画や読み物を通して会社のことを知るなどの課題に参加していきます。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			

第5回	このレッスンでは、レッスン2-5で学んだことを復習しながら、自己紹介や、挨拶、握手、会話を作ること、動画や読み物の活用の仕方等を様々な場面や相手に合わせて応用する課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第6回	このレッスンでは、商品提案書の作成などの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第7回	このレッスンでは、エレベーターピッチの動画を1本作成するなどの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第8回	このレッスンでは、1本目のエレベーターピッチ動画の作成で覚えたこととその出来を反省し、計画を建ててから2本目のエレベーターピッチ動画を作成する課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第9回	このレッスンでは、エレベーターピッチ動画を作成するプロセスを振り返って、コミュニケーションのツールとしての動画という媒体の性質を考え直す課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第10回	このレッスンでは、レッスン6-9で学んだことを復習しながら、エレベーターピッチの動画作成で覚えたスキルを、様々な相手に合わせて動画コンテンツの作成を行うことによって、応用する課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			

第11回	今回のレッスンでは、SWOT分析レポートの企画・アウトライン化などの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第12回	このレッスンでは、SWOT分析レポートの作成や編集などの課題に参加します	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第13回	この授業では、ポスター発表の意義、必要なスキル、プロセス等を検討する課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第14回	この授業では、ポスター発表とフィードバック提供を相互に行う課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第15回	この授業では、今まで習ったことを復習して、授業内試験を受けます。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を反省する。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Weekly quizzes 50 In-class test 50

その他	0	Not applicable
教科書		
Widgets Inc. A task-based course in workplace English, Marcos Benevides & Chris Valvona, ATAMA-ii BOOKS		
参考文献		
Will be handed out in class		
履修条件・留意事項等		
Not applicable		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 言語プロフェッショナル科目					
科目名		English for Workplace Communication I [E2-1]			ナンバリング	3621	
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Joseph S Tomasine						
授業の位置づけ							
この科目は学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、および世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目で、「関心・意欲・態度」と関連する							
授業の概要							
この授業は、実際のビジネスの場面での英語を用いたコミュニケーション能力の育成を目的としたものである。授業では、職場での同僚とコミュニケーション、顧客とのコミュニケーションを想定した言語活動を通し、主にスピーキング、リスニング能力の向上を目標とする。							
到達目標							
この授業は、実際のビジネスの場面での英語を用いたコミュニケーション能力の育成を目的としたものである。授業では、職場での同僚とコミュニケーション、顧客とのコミュニケーションを想定した言語活動を通し、主にスピーキング、リスニング能力の向上を目標とする。							
授業の方法							
This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.							
ICT活用							
This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).							
実務経験のある教員の教育内容							

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers to the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments, as applicable.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	今回の授業では、授業の進め方、課題、評価について。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み質問を作成する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を立てる。(90分)
担当教員			
第2回	このレッスンでは、自己紹介、挨拶、握手などの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第3回	このレッスンでは、会話を作るなどの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第4回	このレッスンでは、動画や読み物を通して会社のことを知るなどの課題に参加していきます。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			

第5回	このレッスンでは、レッスン2-5で学んだことを復習しながら、自己紹介や、挨拶、握手、会話を作ること、動画や読み物の活用の仕方等を様々な場面や相手に合わせて応用する課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第6回	このレッスンでは、商品提案書の作成などの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第7回	このレッスンでは、エレベーターピッチの動画を1本作成するなどの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第8回	このレッスンでは、1本目のエレベーターピッチ動画の作成で覚えたこととその出来を反省し、計画を建ててから2本目のエレベーターピッチ動画を作成する課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第9回	このレッスンでは、エレベーターピッチ動画を作成するプロセスを振り返って、コミュニケーションのツールとしての動画という媒体の性質を考え直す課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第10回	このレッスンでは、レッスン6-9で学んだことを復習しながら、エレベーターピッチの動画作成で覚えたスキルを、様々な相手に合わせて動画コンテンツの作成を行うことによって、応用する課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			

第11回	今回のレッスンでは、SWOT分析レポートの企画・アウトライン化などの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第12回	このレッスンでは、SWOT分析レポートの作成や編集などの課題に参加します	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第13回	この授業では、ポスター発表の意義、必要なスキル、プロセス等を検討する課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第14回	この授業では、ポスター発表とフィードバック提供を相互に行う課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第15回	この授業では、今まで習ったことを復習して、授業内試験を受けます。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を反省する。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Weekly quizzes 50 In-class test 50

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>Not applicable</p>
<p>教科書</p>		
<p>Widgets Inc. A task-based course in workplace English, Marcos Benevides & Chris Valvona, ATAMA-ii BOOKS</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>Will be handed out in class</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>Not applicable</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 言語プロフェッショナル科目					
科目名		Integrated English Communication skills [E2-1]			ナンバリング	3618	
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Patrick Hall						
授業の位置づけ							
北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)							
授業の概要							
この授業は、国際コミュニケーション学科の英語科目の総まとめになる授業と位置付けられる。ここまでは英語を用いたやり取りに焦点をあてた学習が主だったが、この授業では、日常場面やビジネスの場面などにおいて、音声を聴いてその内容の概要を発表したりなど口頭での複数の技能を組み合わせることが必要な言語活動を通して、より高度な英語能力の育成を図ることを目標とする。							
到達目標							
By the end of this course, the students will be able to (1) take part in English conversations and discussions with both their teacher and classmates; (2) use learned vocabulary and expressions to enhance their speaking and listening; (3) make well organized presentations about the topics discussed in class.							
授業の方法							
We will be using a textbook based on TED Talks, through which students will be exposed to new ideas and ways of making presentations. We will study the first five chapters of the book in the first semester. Each unit will include listening, speaking, critical thinking, pronunciation, note-taking, and presentation skills. All audio and video used in class are available online at https://eltngl.com/sites/21st-century-communication/student/book-2/							
ICT活用							
Google Classroom will only be used to send announcements or supplementary materials to the students. All assignments should be done on paper and turn in at the beginning of class.							
実務経験のある教員の教育内容							

N/A			
課題に対するフィードバックの方法			
Feedback will be given in each class regarding discussions and presentations. Any homework will be graded and return the following week.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Orientation to the class. Begin work on Unit 1 (Listening, Note-taking, Critical Thinking) Students will briefly review the syllabus and be given the schedule and rules related to the course. Begin Unit 1 by thinking about the topic, working in groups on the vocabulary, and completing the listening exercises. Students will listen for main ideas while using an outline to take notes. After listening, students will critical thinking skills to interpret an infographic and apply those ideas to responses.	Students should purchase the textbook from the school store and preview the book before coming to class. Read pages viii - ix. (90分)	Students will briefly review the vocabulary and listening from Unit 1. (90分) pages 2-10
担当教員			
第2回	Unit 1 Message on a Wall - Speaking, Pronunciation, Preparing to watch the TED Talk video. Students will learn key phrases for agreeing and disagreeing and use them to express their opinions on topics. In addition, they will practice using stress appropriately to improve communication. Finally, they will prepare to watch the video.	Students will do part "D Communicate" on page 6 for homework. They will write their a short conversation and share their answer in the next class. (90分)	Students will review key vocabulary and pronunciation covered in pages 11-15 (90分)
担当教員			
第3回	Unit 1 - Message on a Wall - Watching the TED Talk video and preparing for discussion/presentation. They will watch the TED Talk video focusing on details, main ideas, and recognizing examples. Then, they will begin preparing for a short presentation on how communities can share their hopes, thoughts, and ideas.	Review the vocabulary and critical thinking skills from the chapter in preparation for watching the TED Talk video. Listen to the audio from class again. Students will do part "D Communicate" on page 15 for homework. They will write their a short conversation and share their answer in the next class. (90分)	Students will review the TED Talk video focusing on details, main ideas, and recognizing examples. (90分) pages 16 -21
担当教員			
第4回	Unit 1 Messages on a Wall - Short vocabulary Quiz, Presentation, Unit 2 Changing Climate, Changing Minds - Introduction, Vocabulary Students will take a vocabulary quiz, present and then begin thinking about the topic for Unit 2.	Review the video and further prepare presentation ideas. (90分)	Students review the vocabulary for Unit 2. (90分) pages 22 - 26
担当教員			

第5回	Unit 2 – Changing Climate, Changing Minds – Listening, Speaking, Pronunciation Students will listen for main ideas and focus on understanding details. They will learn how to talk about cause and effect and discuss reduced vowel sounds. If time permits, we will prepare to watch the video.	Students will do part “C Communicate” on page 26 for homework. They will write their a short conversation and share their answer in the next class. (90 分)	Students will review the listening and cause and effect words. (90分) pages 26 – 34
担当教員			
第6回	Unit 2 Changing Climate, Changing Minds (Watch video, Prepare for group discussion/presentation) Review the homework. They will watch the TED Talk video focusing on note-taking skills. Then, they will begin preparing for a short presentation on environmental or social topic important to you.	Students will do part “D Communicate” on page 34 for homework. They will write their a short answers and share them in the next class. (90 分)	Students will review and further develop their presentations for the next class. (90分) pages 35 – 40
担当教員			
第7回	Unit 2 Changing Climate, Changing Minds (Presentation) Unit 3 Unexpected Discoveries (Introduction, Vocabulary, Listening) Students will take a vocabulary quiz, present and then begin thinking about the topic for Unit 3.	Review the video and further prepare presentation ideas. (90 分)	Students will review the vocabulary and listening from class. (90分) pages 42 – 47
担当教員			
第8回	Unit 3 - Unexpected Discoveries – Listening, Speaking, Pronunciation, preparing to watch the TED Talk video Students will listen for main ideas and details focusing on inferred meaning. They will also work on ways to check understanding through their speech. If time permits, students will also prepare to listen to the TED Talk video.	Students will do part “C Communicate” on page 46 for homework. They will write their a short conversation and share their answer in the next class. (90 分)	Students will will review the listening, speaking , and pronunciation sections of the book presented in class. (90分) pages 47 – 56
担当教員			
第9回	Unit 3 - Unexpected Discoveries – Watch TED Talk video and prepare for discussions/presentation Students will review the homework. They will watch the TED Talk video focusing on note-taking skills (making a time line). Then, they will begin preparing for a short presentation on environmental or social topic important to you	Students will do part “C Communicate” on page 56 for homework. They will write their a short conversations and share them in the next class. (90 分)	The students should watch the video again and further prepare for their presentations. (90分) pages 56 – 61
担当教員			
第10回	Unit 3 Changing Climate, Changing Minds – Presentation/Vocabulary Quiz Unit 4 The Business of Style – Introduction, Vocabulary, Listening Students will take a vocabulary quiz, present and then begin thinking about the topic for Unit 4.	Review the video and further prepare presentation ideas. (90 分)	Review vocabulary and listening that were discussed in class. (90分) pages 62 – 68
担当教員			

第11回	Unit 4 - The Business of Style - Listening, Speaking, Pronunciation, preparing to watch the TED Talk video Students will listen for main ideas and details focusing on inferred meaning. They will also work on ways to check understanding through their speech. If time permits, students will also prepare to listen to the TED Talk video.	Students will do part "D Communicate" on page 66 for homework. They will write their answers and share their answers in the next class. (90分)	Students should review the listening speaking and pronunciation that was discussed in class. (90分) pages 67 - 76
担当教員			
第12回	Unit 4 - The Business of Style - Watch TED Talk video and prepare for discussions/presentation Review the homework. They will watch the TED Talk video focusing on watching for detail. Then, they will begin preparing for a short presentation on environmental or social topic important to you.	Do "E Communicate" on page 76. Write your answers on a piece of paper and be prepared to share them in groups at the beginning of class. (90分)	Students should review the chapter and prepare for their presentations. (90分) pages 76 - 81
担当教員			
第13回	Unit 4 The Business of Style - Presentation and Vocabulary Quiz Unit 5 Engineered by Nature - Introduction, Vocabulary Listening Students will take a vocabulary quiz, present and then begin thinking about the topic for Unit 4.	Review the video and further prepare presentation ideas. (90分)	Students should review the key sections of Unit 5 presented in class. (90分) pages 82 - 88
担当教員			
第14回	Unit 5 - Engineered by Nature - Listening, Speaking, Pronunciation, preparing to watch the TED Talk video Students will listen for main ideas and references to key terms. In addition, they will understand how to use those key terms in taking notes. They will also work on using signal words and linking sounds. If time permits, students will also prepare to listen to the TED Talk video.	Students will do part "D Communicate" on page 86 for homework. They will write their answers and share their answers in the next class. (90分)	Students should review the vocabulary, speaking tips, and pronunciation for all of the chapters covered for the final quiz the following week. (90分) pages 88 - 95
担当教員			
第15回	Unit 5 - Engineered by Nature - Watch the TED Talk video Take a final vocabulary quiz over units 1 - 5 The students will watch the TED Talk video and complete the exercises on page 95 - 98. They will then complete a comprehensive vocabulary quiz over units 1-5.	Write your answers to "D Communicate" on page 95. Be prepared to share your answers in groups when you come to class. (90分)	Even though the class is finished, students can continue their learning individually by doing units 6-8. (90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	30	Vocabulary Quizzes / Homework	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	4 Group Discussions/Presentations @ 10% = 40% Participation in class activities and discussions = 30%	

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>該当なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>21st Century Communication Book 2/ 2017 / Jessica Williams / National Geographic Learning – Cengage Learning.</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>Students should always bring a bilingual dictionary to class.</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>Only English will be used in class.</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 言語プロフェッショナル科目					
科目名		Integrated English Communication skills [E2-2]			ナンバリング	3618	
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Todd Robert Enslin						
授業の位置づけ							
北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)							
授業の概要							
この授業は、国際コミュニケーション学科の英語科目の総まとめになる授業と位置付けられる。ここまでは英語を用いたやり取りに焦点をあてた学習が主だったが、この授業では、日常場面やビジネスの場面などにおいて、音声を聴いてその内容の概要を発表したりなど口頭での複数の技能を組み合わせることが必要な言語活動を通して、より高度な英語能力の育成を図ることを目標とする							
到達目標							
By the end of this course, the students will be able to (1) take part in English conversations and discussions with both their teacher and classmates; (2) use learned vocabulary and expressions to enhance their speaking and listening; (3) make well organized presentations about the topics discussed in class.							
授業の方法							
We will be using a textbook based on TED Talks, through which students will be exposed to new ideas and ways of making presentations. We will study the first five chapters of the book in the first semester. Each unit will include listening, speaking, critical thinking, pronunciation, note-taking, and presentation skills. All audio and video used in class are available online at https://eltngl.com/sites/21st-century-communication/student/book-2/							
ICT活用							
Google Classroom will only be used to send announcements or supplementary materials to the students. All assignments should be done on paper and turn in at the beginning of class.							
実務経験のある教員の教育内容							

N/A			
課題に対するフィードバックの方法			
Feedback will be given in each class regarding discussions and presentations. Any homework will be graded and return the following week.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Orientation to the class. Begin work on Unit 1 (Listening, Note-taking, Critical Thinking) Students will briefly review the syllabus and be given the schedule and rules related to the course. Begin Unit 1 by thinking about the topic, working in groups on the vocabulary, and completing the listening exercises. Students will listen for main ideas while using an outline to take notes. After listening, students will critical thinking skills to interpret an infographic and apply those ideas to responses.	Students should purchase the textbook from the school store and preview the book before coming to class. Read pages viii - ix. (90分)	Students will briefly review the vocabulary and listening from Unit 1. (90分) pages 2-10
担当教員			
第2回	Unit 1 Message on a Wall - Speaking, Pronunciation, Preparing to watch the TED Talk video. Students will learn key phrases for agreeing and disagreeing and use them to express their opinions on topics. In addition, they will practice using stress appropriately to improve communication. Finally, they will prepare to watch the video.	Students will do part "D Communicate" on page 6 for homework. They will write their a short conversation and share their answer in the next class. (90分)	Students will review key vocabulary and pronunciation covered in pages 11-15 (90分)
担当教員			
第3回	Unit 1 - Message on a Wall - Watching the TED Talk video and preparing for discussion/presentation. They will watch the TED Talk video focusing on details, main ideas, and recognizing examples. Then, they will begin preparing for a short presentation on how communities can share their hopes, thoughts, and ideas.	Review the vocabulary and critical thinking skills from the chapter in preparation for watching the TED Talk video. Listen to the audio from class again. Students will do part "D Communicate" on page 15 for homework. They will write their a short conversation and share their answer in the next class. (90分)	Students will review the TED Talk video focusing on details, main ideas, and recognizing examples. (90分) pages 16 -21
担当教員			
第4回	Unit 1 Messages on a Wall - Short vocabulary Quiz, Presentation, Unit 2 Changing Climate, Changing Minds - Introduction, Vocabulary Students will take a vocabulary quiz, present and then begin thinking about the topic for Unit 2.	Review the video and further prepare presentation ideas. (90分)	Students review the vocabulary for Unit 2. (90分) pages 22 - 26
担当教員			

第5回	Unit 2 – Changing Climate, Changing Minds – Listening, Speaking, Pronunciation Students will listen for main ideas and focus on understanding details. They will learn how to talk about cause and effect and discuss reduced vowel sounds. If time permits, we will prepare to watch the video.	Students will do part “C Communicate” on page 26 for homework. They will write their a short conversation and share their answer in the next class. (90 分)	Students will review the listening and cause and effect words. (90分) pages 26 – 34
担当教員			
第6回	Unit 2 Changing Climate, Changing Minds (Watch video, Prepare for group discussion/presentation) Review the homework. They will watch the TED Talk video focusing on note-taking skills. Then, they will begin preparing for a short presentation on environmental or social topic important to you.	Students will do part “D Communicate” on page 34 for homework. They will write their a short answers and share them in the next class. (90 分)	Students will review and further develop their presentations for the next class. (90分) pages 35 – 40
担当教員			
第7回	Unit 2 Changing Climate, Changing Minds (Presentation) Unit 3 Unexpected Discoveries (Introduction, Vocabulary, Listening) Students will take a vocabulary quiz, present and then begin thinking about the topic for Unit 3.	Review the video and further prepare presentation ideas. (90 分)	Students will review the vocabulary and listening from class. (90分) pages 42 – 47
担当教員			
第8回	Unit 3 - Unexpected Discoveries – Listening, Speaking, Pronunciation, preparing to watch the TED Talk video Students will listen for main ideas and details focusing on inferred meaning. They will also work on ways to check understanding through their speech. If time permits, students will also prepare to listen to the TED Talk video.	Students will do part “C Communicate” on page 46 for homework. They will write their a short conversation and share their answer in the next class. (90 分)	Students will will review the listening, speaking , and pronunciation sections of the book presented in class. (90分) pages 47 – 56
担当教員			
第9回	Unit 3 - Unexpected Discoveries – Watch TED Talk video and prepare for discussions/presentation Students will review the homework. They will watch the TED Talk video focusing on note-taking skills (making a time line). Then, they will begin preparing for a short presentation on environmental or social topic important to you	Students will do part “C Communicate” on page 56 for homework. They will write their a short conversations and share them in the next class. (90 分)	The students should watch the video again and further prepare for their presentations. (90分) pages 56 – 61
担当教員			
第10回	Unit 3 Changing Climate, Changing Minds – Presentation/Vocabulary Quiz Unit 4 The Business of Style – Introduction, Vocabulary, Listening Students will take a vocabulary quiz, present and then begin thinking about the topic for Unit 4.	Review the video and further prepare presentation ideas. (90 分)	Review vocabulary and listening that were discussed in class. (90分) pages 62 – 68
担当教員			

第11回	Unit 4 - The Business of Style - Listening, Speaking, Pronunciation, preparing to watch the TED Talk video Students will listen for main ideas and details focusing on inferred meaning. They will also work on ways to check understanding through their speech. If time permits, students will also prepare to listen to the TED Talk video.	Students will do part "D Communicate" on page 66 for homework. They will write their answers and share their answers in the next class. (90分)	Students should review the listening speaking and pronunciation that was discussed in class. (90分) pages 67 - 76
担当教員			
第12回	Unit 4 - The Business of Style - Watch TED Talk video and prepare for discussions/presentation Review the homework. They will watch the TED Talk video focusing on watching for detail. Then, they will begin preparing for a short presentation on environmental or social topic important to you.	Do "E Communicate" on page 76. Write your answers on a piece of paper and be prepared to share them in groups at the beginning of class. (90分)	Students should review the chapter and prepare for their presentations. (90分) pages 76 - 81
担当教員			
第13回	Unit 4 The Business of Style - Presentation and Vocabulary Quiz Unit 5 Engineered by Nature - Introduction, Vocabulary Listening Students will take a vocabulary quiz, present and then begin thinking about the topic for Unit 4.	Review the video and further prepare presentation ideas. (90分)	Students should review the key sections of Unit 5 presented in class. (90分) pages 82 - 88
担当教員			
第14回	Unit 5 - Engineered by Nature - Listening, Speaking, Pronunciation, preparing to watch the TED Talk video Students will listen for main ideas and references to key terms. In addition, they will understand how to use those key terms in taking notes. They will also work on using signal words and linking sounds. If time permits, students will also prepare to listen to the TED Talk video.	Students will do part "D Communicate" on page 86 for homework. They will write their answers and share their answers in the next class. (90分)	Students should review the vocabulary, speaking tips, and pronunciation for all of the chapters covered for the final quiz the following week. (90分) pages 88 - 95
担当教員			
第15回	Unit 5 - Engineered by Nature - Watch the TED Talk video Take a final vocabulary quiz over units 1 - 5 The students will watch the TED Talk video and complete the exercises on page 95 - 98. They will then complete a comprehensive vocabulary quiz over units 1-5.	Write your answers to "D Communicate" on page 95. Be prepared to share your answers in groups when you come to class. (90分)	Even though the class is finished, students can continue their learning individually by doing units 6-8. (90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	30	Vocabulary Quizzes / Homework
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	4 Group Discussions/Presentations @ 10% = 40% Participation in class activities and discussions = 30%

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>該当なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>21st Century Communication Book 2/ 2017 / Jessica Williams / National Geographic Learning – Cengage Learning.</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>Students should always bring a bilingual dictionary to class.</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>Only English will be used in class.</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 言語プロフェッショナル科目					
科目名		Introduction to English Linguistics				ナンバリング	2614
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋 保夫						
授業の位置づけ							
<p>学術目的の言語使用に主眼を置いた科目である。【知識・技能】と関連する。科目の関連性から言えば、この科目は英語という言語はどのような言語であるかを学ぶ科目であるので、すべての英語科目に関連しているといえることができる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、英語学概論という科目の守備範囲は驚くほど広いものである。中核的な統語論、意味論、形態論、音韻論、英語史などに加えて、語用論、文体論、英語の変種、言語習得、言語と社会、コミュニケーションなども含まれるだろう。しかし、時間が限られているので、この授業では扱う範囲を、英語の世界に果たす役割と英語の変種、英語史、英語音声学、統語論、意味論に限定する。とくに統語論に比較的多くの時間があてられ、学生は統語論から英語学の世界へいざなわれる。</p>							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> 英語学に関する基礎的な知識を得ることができる。 統語分析から日常のさまざまな現象を科学的に分析できる目を養うことができる。 英語のみならず、日本語に関しても敏感になることができる。 							
授業の方法							
<p>教科書、板書、配布印刷物を使った講義形式で授業を行う。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
授業中に確認テストを行い、その解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 授業内容を説明する。評価方法を説明する。実際に少し進めながら、授業方法を説明する。 第1章 世界の中の英語(1) 世界語としての英語について学ぶ。	英語の地理的分布、使用人口、使用分野について確認しておく。(90分)	古英語の背景について確認しておく。(90分)
担当教員			
第2回	英語の歴史(1) 古英語について学ぶ。	古英語の背景について確認しておく。(90分)	ごく大雑把でいいので古英語と現代英語の違いを記憶しておく。(90分)
担当教員			
第3回	英語の歴史(2) 中英語、近代英語について学ぶ。	中英語とフランス語の影響について確認しておく。(90分)	中英語と近代英語の発音の違いの原因、大母音推移について整理しておく。(90分)
担当教員			
第4回	音声学 発音器官、母音と子音について学ぶ。	英語にはどのような母音と子音があるのか、確認しておく。(90分)	調音位置、調音法による音の分類を整理しておく。(90分)
担当教員			

第5回	第5章 音韻論 音韻過程について学ぶ。	英語にはどのような母音と子音があるのか、確認しておく。(90分)	連結、同化、脱落などの音変化について整理しておく(90分)
担当教員			
第6回	第6章 形態論 語の内部構造について学ぶ。	形態素とはどのようなものなのか、確認しておく。(90分)	語形成の方法について整理しておく。(90分)
担当教員			
第7回	第7章 統語論(1) 文の構造 構成素、統語範疇、樹形図などを学ぶ。	各統語範疇の英語名、略記を覚えてくる。(90分)	樹形図に盛り込まれている情報を理解しておく。(90分)
担当教員			
第8回	第8章 統語論(2) 句の構造 句構造規則を学ぶ。	教科書を読んでくる。(90分)	いろいろな句を句構造規則で表せるようにしておく。(90分)
担当教員			
第9回	第9章 統語論(3) Xバー理論 句の間の共通性について学ぶ。	句の種類に関係なく、構成が似ていることを確認しておく。(90分)	Xバー原型が句の構成に関して明らかにしていることを整理しておくこと。(90分)
担当教員			
第10回	第10章 統語論(4) 節の構造 Xバー原型に合わせて、文は助動詞中心に構成され、従属節は補文標識中心に構成されていることを学ぶ。(90分)	参考文献で助動詞と時制要素が二者択一であることを確認しておく。(90分)	主要部、補部、付加部、指定部などをすぐに区別できるようにしておく。(90分)
担当教員			

第11回	第11章 統語論(5) 文と文との近縁関係からD構造とS構造を仮定したことを学ぶ。	参考文献でD構造とS構造を結びつける操作を確認しておく。(90分)	移動があった証拠となるものをいくつか記憶しておく。(90分)
担当教員			
第12回	第12章 意味論(1) さまざまな意味関係のうち、多義性と同義性について学ぶ。	多義性の多様性について確認しておく。(90分)	能動文と受動文の同義性について考えてみる。(90分)
担当教員			
第13回	第13章 意味論(2) 意味変化について学ぶ。	意味変化の種類について確認する。(90分)	意味変化のメカニズムについて考えてみる。(90分)
担当教員			
第14回	第14章 意味論(3) 意味役割について学ぶ。	素性で表したほうが、共通性を捉えることができることを理解してくる。(90分)	項と意味役割の受け渡しについて復習しておく。(90分)
担当教員			
第15回	第15章 まとめ 総まとめをする	総復習をしていくこと。(90分)	この授業のポイントを整理しておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内試験 60% 課題提出 20% 小テスト 20%	

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし。</p>
<p>教科書</p>		
<p>『新 えいご・エイゴ・英語学』稲木昭子 堀田知子 沖田知子著 松柏社</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>授業内で指示する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>事前事後学習をしっかりとすること。</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 言語プロフェッショナル科目					
科目名		TOEIC Preparation I				ナンバリング	1611
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋 保夫						
授業の位置づけ							
グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につけるための科目で【関心・意欲・態度】と関連する。本科目はTOEIC500点対策科目であるが、TOEIC600点対策科目の「TOEIC Preparation II」がある。							
授業の概要							
この授業は、英語によるコミュニケーション能力を評価するために世界の多くの国で実施されているテスト、TOEIC(Test of English for International Communication)で500点程度の得点を取ることができる英語力の習得を目指すものである。実際のTOEICの出題形式に沿った教材を使い、出題分野を網羅する総合的なTOEIC対策の授業である。英語力を伸ばすことに加えて、TOEICで高得点を取るためのポイントをつかむことにより、短期間で効率よくTOEIC対策ができる。							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・学生は文法や語彙、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングなど総合的かつ実践的英語力を高めることができる。 ・TOEICで解答するためのポイントをつかむことにより、短期間で効率よく得点を伸ばすことができるようになる。 ・学生は英語学習への興味・関心を高めることができる。 							
授業の方法							
教科書、板書、配布印刷物を使って授業を行う。また、単語テストを毎回行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
授業中、質問を受け、解説を行う。また、単語テスト後には関連語彙について解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 評価の仕方の説明を受ける。 その後、Pre-testの実施により、学習を始める前の実力を確認する。	教科書の構成と使い方を読んでおくこと。(100分)	pre-testの単語を確認しておくこと。(80分)
担当教員			
第2回	Unit 1 リスニング問題を学習する。	Unit1の音声を聴いてくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの単語を覚えてくること。(50分)	Unit1の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			
第3回	Unit 2 リーディング問題を学習する。	Unit2を読んてくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの単語を覚えてくること。(50分)	Unit2の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			
第4回	Unit3 リスニング問題を学習する。	Unit3の音声を聴いてくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの単語を覚えてくること。(50分)	Unit3の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			

第5回	Unit4 リーディング問題を学習する。	Unit4を読んてくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの 単語を覚えてくること。(50分)	Unit4の復習をしておくこと。(80 分)
担当教員			
第6回	Unit 5 リスニング問題を学習する。	Unit5の音声を聴いてくること。 (50分) 指定された範囲の単語テストの 単語を覚えてくること。(50分)	Unit5の復習をしておくこと。(80 分)
担当教員			
第7回	Unit6 リーディング問題を学習する。	Unit6を読んてくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの 単語を覚えてくること。(50分)	Unit6の復習をしておくこと。(80 分)
担当教員			
第8回	Unit7 リスニング問題を学習する。	Unit7の音声を聴いてくること。 (50分) 指定された範囲の単語テストの 単語を覚えてくること。(50分)	Unit7の復習をしておくこと。(80 分)
担当教員			
第9回	Unit8 リーディング問題を学習する。	Unit8を読んてくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの 単語を覚えてくること。(50分)	Unit8の復習をしておくこと。(80 分)
担当教員			
第10回	Unit9 リスニング問題を学習する。	Unit9の音声を聴いてくること。 (50分) 指定された範囲の単語テストの 単語を覚えてくること。(50分)	Unit9の復習をしておくこと。(80 分)
担当教員			

第11回	Unit10 リーディング問題を学習する。	Unit10を読んてくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの 単語を覚えてくること。(50分)	Unit10の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			
第12回	Unit11 リスニング問題を学習する。	Unit11の音声を聴いてくること。 (50分) 指定された範囲の単語テストの 単語を覚えてくること。(50分)	Unit11の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			
第13回	Unit12 リーディング問題を学習する。	Unit12を読んてくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの 単語を覚えてくること。(50分)	Unit12の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			
第14回	Unit13 リスニング問題を学習する。	Unit13の音声を聴いてくること。 (50分) 指定された範囲の単語テストの 単語を覚えてくること。(50分)。	Unit13までの復習をしておくこと。 (80分)
担当教員			
第15回	Unit1からUnit13までのまとめをする。	Unit1からUnit13までを見返して おくこと。(100分)	Unit1からUnit13までを復習する こと。(80分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない。
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	授業内試験50% 単語テスト30% 授業内発表、課題等20%

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>特になし</p>
<p>教科書</p>		
<p>BEFORE-AFTER PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST<Revised Edition> /Jonathan Lynch他/センゲージラーニング株式会社</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>授業内で指示する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>しっかりと事前、事後学習を行うこと。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 言語プロフェッショナル科目					
科目名		TOEIC Preparation II				ナンバリング	2612
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋 保夫						
授業の位置づけ							
グローバル社会の中で、世界の人々と共生・共働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につけるための科目で【関心・意欲・態度】と関連する。本科目はTOEIC600点対策科目であるが、TOEIC500点対策科目の「TOEIC Preparation I」がある。							
授業の概要							
この授業は、英語によるコミュニケーション能力を評価するために世界の多くの国で実施されているテスト、TOEIC(Test of English for International Communication)で600点程度の得点を取ることができる英語力の習得を目指すものである。実際のTOEICの出題形式に沿った教材を使い、出題分野を網羅する総合的なTOEIC対策の授業である。英語力を伸ばすことに加えて、TOEICで高得点を取るためのポイントをつかむことにより、短期間で効率よくTOEIC対策ができる。							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・学生は文法や語彙、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングなど総合的かつ実践的英語力を高めることができる。 ・TOEICで解答するためのポイントをつかむことにより、短期間で効率よく得点を伸ばすことができるようになる。 ・学生はこのTOEIC対策授業が役に立ったと実感することができる。 							
授業の方法							
教科書、板書、配布印刷物を使って授業を行う。また、単語テストを毎回行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
授業中、質問を受け、解説を行う。また、単語テスト後には関連語彙について解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Unit 1 高得点ポイントとして名詞・代名詞に関わる注意点を学ぶ。	Word Check、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第2回	Unit 2 高得点ポイントとして形容詞・副詞に関わる注意点を学ぶ。	Word Check、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第3回	Unit 3 高得点ポイントとして比較に関わる注意点を学ぶ。	Word Check、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第4回	Unit 4 高得点ポイントとして現在形・過去形・未来形に関わる注意点を学ぶ。	Word Check、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			

第5回	Unit 5 高得点ポイントとして完了形・進行形に関わる注意点を学ぶ。	Word Check、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第6回	Unit 6 高得点ポイントとして受動態・使役に関わる注意点を学ぶ。	Word Check、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第7回	Unit 7 高得点ポイントとして主語動詞の一致に関わる注意点を学ぶ。	Word Check、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第8回	Unit 8 高得点ポイントとして前置詞に関わる注意点を学ぶ。	Word Check、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第9回	Unit 9 高得点ポイントとして接続詞に関わる注意点を学ぶ。	Word Check、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第10回	Unit 10 高得点ポイントとして分詞に関わる注意点を学ぶ。	Word Check、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			

第11回	Unit 11 高得点ポイントとしてto不定詞に関わる注意点を学ぶ。	Word Check、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第12回	Unit 12 高得点ポイントとして動名詞に関わる注意点を学ぶ。	Word Check、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第13回	Unit 13 高得点ポイントとして関係詞に関わる注意点を学ぶ。	Word Check、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第14回	Unit 14 高得点ポイントとして仮定法に関わる注意点を学ぶ。	Word Check、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第15回	Unit 15 まとめをする。 授業内試験をする。	総復習をしておく。(90分)	模擬試験を受けてみる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内試験50% 単語テスト30% 授業内発表、課題等20%	

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>特になし。</p>
<p>教科書</p>		
<p>ADVANCE YOUR PRACTICALSKILLS FOR THE TOEIC L&R TEST TOEIC L&Rテスト パート別トレーニング 鈴木淳 / 高橋哲徳 / Simon Cooke / 徳永慎也 著 松柏社</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>授業内で指示する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>事前学習、事後学習をしっかりとすること。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 言語プロフェッショナル科目					
科目名		World Englishes				ナンバリング	2606
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣 晴彦						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている。(知識・技能)」、「世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」等に関連する科目である。この講義は、初年次に学習したBasic oral communication等の科目を礎に、その後に学習する英語科目や国際・異文化コミュニケーション科目の基礎となる科目である。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、世界の多様な英語の学習を通して、グローバル化の進む世界の人々とのコミュニケーションをとるために必要な英語能力を見つめなおすことを1番の目的とする。授業では、それぞれの国で話される多様な英語を用いた学習で、英語の4技能の能力の向上を目指し、学生同士のディスカッションなどといった能動的な学習を中心とした授業を進める。</p>							
到達目標							
<p>世界の多様なアクセントで話された英語を理解することができるようになることを1番の目的とし、英語の4技能の能力の向上を様々な言語活動を通して目指す。</p>							
授業の方法							
<p>基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用して講義形式を進める。また、講義内で行われるさまざまな言語活動を通して、英語の4技能の能力の向上を目指す。各Unit終了後には小テストを行い、学習した語彙や表現の確認を行う。講義のまとめとして、与えられたテーマに応じた英語のプレゼンテーションを行う。</p>							
ICT活用							
<p>様々なWebアプリを用いた双方向授業を取り入れる。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
適宜、課題の形式に応じたフィードバックを講義やGoogle classroom等を通じて行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション グローバル社会の中で、世界の人々とのコミュニケーションをとるためにはどのような英語力が求められるか考える。	シラバスと教科書を事前に確認する。また、世界の人々とコミュニケーションをとるためにはどのような英語力が必要になるか事前に考えておく。(90分)	教科書のUnit 1を参照し、次の授業への準備を行う。(90分)
担当教員			
第2回	Unit 1 College Life Japan ① ・挨拶やお互いを知るための表現を、リスニング・スピーキングを通して学ぶ。 ・Three circles of Englishについて学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。Three circles of Englishについて自分で調べておく。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第3回	Unit 1 College Life Japan ② ・大学生活に関するトピックのリスニング、リーディング、スピーキング活動を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第4回	Unit 2 Mobile Phones England ① ・予定を決める際、電話の会話に使う表現を、リスニング・スピーキングを通して学ぶ。 ・世界の英語話者の割合について学ぶ。	小テストの準備をする。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第5回	Unit 2 Mobile Phones England ② ・携帯電話に関するトピックのリスニング、リーディング、スピーキング活動を行う。 ・第4回で学んだ表現などを用いた発展的なスピーキング活動を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第6回	Unit 3 Movies India ① ・招待に関する表現を、リスニング・スピーキングを通して学ぶ。	小テストの準備をする。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第7回	Unit 3 Movies India ② ・映画に関するトピックのリスニング、リーディング、スピーキング活動を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第8回	Unit 4 Dating Mexico ① ・誰かを描写する表現や語彙を、リスニング・スピーキングを通して学ぶ。	小テストの準備をする。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第9回	Unit 4 Dating Mexico ② ・メキシコに関するトピックのリスニング、リーディング活動を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第10回	Unit 5 International Food Korea ① ・リクエスト・レストランで用いる表現を、リスニング・スピーキングを通して学ぶ。	小テストの準備をする。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第11回	Unit 5 International Food Korea ② ・海外の料理・レストランに関するトピックのリスニング、リーディング、スピーキング活動を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第12回	Unit 6 World Englishes Singapore ① ・繰り返しや明確化要求に使う表現を、リスニング・スピーキングを通して学ぶ。	小テストの準備をする。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第13回	Unit 6 World Englishes Singapore ② ・シンガポールに関するトピックのリスニング、リーディング、スピーキング活動を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の復習を行い、次の授業でのプレゼンテーションの準備を行う。(90分)
担当教員			
第14回	Oral Presentation ・1週目から13週目までに学習した内容を基に、与えられたテーマに応じた英語のプレゼンテーションを行う。	自分のプレゼンテーションの準備し、確認を行う。(90分)	これまでの講義内容を振り返りまとめの試験の準備をする。(90分)
担当教員			
第15回	講義のまとめ(授業内試験) ・Unit 1から6までの内容のまとめを行う。	まとめの試験の準備をする。(90分)	講義全体の振り返りを行う。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト・課題:40%、Oral presentation:20%、授業内試験:40%

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>特になし。</p>
<p>教科書</p>		
<p>塩澤正、Gregory A. King 著『Global Activator - Your English, My English, World Englishes!: 大学生のためのグローバル時代の英会話』金星堂</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>講義中に紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>授業には真剣に取り組み、課題の締め切りは厳守すること。</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 言語プロフェッショナル科目					
科目名		メディア中国語				ナンバリング	3658
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	魯 諱						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマポリシーの「世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につける」ことや、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける」と特に関係がある科目である。言語プロフェッショナル科目に位置づけられた外国語科目として、「中国語リーディング」「中国語ライティング」とも関連する科目である。中国の新聞、テレビ、インターネットなどのメディアに使用される言葉と表現を理解し、それぞれのメディアで情報を発信する能力を高める。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、外国語教育におけるメディアの果たす役割は、年々重要になっているが、新聞、放送、映像などのマスメディア及びインターネット通信では、一般的に使われる中国語とは異なる特殊な語彙や語法が用いられることが多い。この授業では、メディアの中で使われる中国語に注目する。中国語の新聞、出版物などから文字による世界、中国映画、ドラマなど映像の描く世界、放送などから放送による世界を理解し、同時にメディアで使われる専門的な中国語を理解できるようにする。</p>							
到達目標							
<p>二年の勉強で身につけた初級レベルの「会話と表現」能力の上に、準中級レベルにふさわしい、より高度な表現能力を身につけることができる。中国のメディアによく使われている用語と表現を理解し、SNSなどで情報を発信するときに応用できるようになる。</p>							
授業の方法							
<p>初回の授業はガイダンスを行う(授業の進め方・テキストの指示など)。第2回から、毎回の授業の前半は教科書に沿って、文章を書くための中国語表現を学ぶ。そして、後半は中国の新聞、テレビ(ドラマやバラエティー番組も含む)、インターネットなど、各種メディアからのコンテンツを使い、学生たちの中国語の応用能力を鍛える。なお、受講者の関心に沿って、各回のテーマと内容を微調整する場合がある。</p>							
ICT活用							
<p>Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。オンライン動画やライブ配信などの視聴覚コンテンツを取り入れる。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。提出された課題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	①オリエンテーション 授業の進め方を説明する。予習・復習に何をすべきか、何に力をいれて授業に臨むべきかなどを具体的に指示する。 ②教科書p6`p9の内容(おさえておきたい初級文法)を学習する。	教科書のp6`p9の内容をよく読み、理解すること。(90分)	ガイダンスの内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	①「第一課 大学生的周末」を学習する。 ② 中国の大学生生活に関する記事を読む。	学習予定の部分(p.10-13)について、予習すること。(90分)	課題(作文)を完成し、提出すること。(90分)
担当教員			
第3回	①「第二課 饮食习惯」を学習する。 ② 中国人の飲食に対する理解を反映する動画を見る。	学習予定の部分(p.14~17)について、予習すること。(90分)	課題(作文)を完成し、提出すること。(90分)
担当教員			
第4回	①「第三課 北京的交通」を学習する。 ② 北京の通勤事情に関する報道を読む(視聴する)。	学習予定の部分(p.18~21)について、予習すること。(90分)	課題(作文)を完成し、提出すること。(90分)
担当教員			

第5回	①「第四課 对数字的喜好」を学習する。 ②「縁起を担ぐ」をめぐる中国人の考え方に注目する報道を読む(視聴する)。	学習予定の部分(p.22～25)について、予習すること。(90分)	課題(作文)を完成し、提出する。(90分)
担当教員			
第6回	①「第五課 大学生的打工现状」を学習する。 ②「打工人」という用語の使い方を学ぶ。	学習予定の部分(p.26～29)について、予習すること。(90分)	課題(作文)を完成し、提出する。(90分)
担当教員			
第7回	①「第六課 集体生活的好处」を学習する。 ②教科書では集団生活のメリットを紹介したが、集団生活によるトラブルもよくメディアに取り上げられている。関連記事を読む。	学習予定の部分(p.30～33)について、予習すること。(90分)	課題(作文)を完成し、提出する。(90分)
担当教員			
第8回	①「第七課 讨价还价」を学習する。 ②中国のネットショッピング事情を紹介する記事を読む。	学習予定の部分(p.34～37)について、予習すること。(90分)	課題(作文)を完成し、提出する。(90分)
担当教員			
第9回	①「第八課 送礼的讲究」を学習する。 ②「送礼(贈り物をする)」という現象に対する批判的な報道を読む(視聴する)。	学習予定の部分(p.38～41)について、予習すること。(90分)	課題(作文)を完成し、提出する。(90分)
担当教員			
第10回	①「第九課 “中国式”結婚」を学習する。 ②中国の若い世代の結婚に対する意識を紹介する記事を読む。	学習予定の部分(p.42～45)について、予習すること。(90分)	課題(作文)を完成し、提出する。(90分)
担当教員			

第11回	①「第十課 双职工家庭」を学習する。 ② 中国の女性の社会進出に関する報道を読む(視聴する)。	学習予定の部分(p.46～49)について、予習すること。(90分)	課題(作文)を完成し、提出する。(90分)
担当教員			
第12回	①「第十一課 中国人的称呼」を学習する。 ② SNSでの人の呼び方を学ぶ。	学習予定の部分(p.50～53)について、予習すること。(90分)	課題(作文)を完成し、提出する。(90分)
担当教員			
第13回	①「第十二課 理想職業」を学習する。 ② 就職に関する報道を読む(視聴する)。	学習予定の部分(p.54～57)について、予習すること。(90分)	課題(作文)を完成し、提出する。(90分)
担当教員			
第14回	小テスト:教科書の補充問題1, 2, 3を回答する。	教科書p. 58～60の内容について、予習すること。(90分)	プレゼンテーションを準備すること(90分)
担当教員			
第15回	プレゼンテーション:グループワークで北海道の観光スポットやグルメなどについて紹介するコンテンツ(記事、動画など)を作成し、発表する。	プレゼンテーションを準備すること。(90分)	プレゼンテーションの内容を確認すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行いません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(30%) + プレゼンテーション(40%) + 小テスト(30%)	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>『知っておきたい中国事情 改訂版』吉田泰謙 相原里美 葛婧 著 白水社</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>適宜授業中に指示する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>1回目の授業に必ず出席すること(やむを得ず出席できない場合、事前に教員に連絡すること)。無断欠席は必ず減点要素となる。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 言語プロフェッショナル科目					
科目名		英文法研究				ナンバリング	3634
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋 保夫						
授業の位置づけ							
<p>学術目的の言語使用に主眼を置いた科目である。【知識・技能】と関連する。科目の関連性から言えば、とくにIntroduction to English Linguistics に関連している。</p>							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> ・英文法研究の大切さ、面白さを理解している。 ・統語分析からさまざまな現象を科学的に分析できる目を養うことができている。 							
到達目標							
<p>外国語学習にとって文法は極めて重要なものである。その外国語がどのような仕組みになっているのか、その知識がなければその言語を正確に使いこなすことはできない。文法を軽視しては外国語学習の効果をあげることなど望むべくもない。しかし、文法を無味乾燥でおもしろくないものと思っている人がいることも事実である。この授業では、いくつかの英文法のトピックを取り上げ、高校までとは一味違う観点から分析し、文法研究の面白さを体験する。</p>							
授業の方法							
<p>教科書、板書、配布印刷物を使った講義形式で授業を行う。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
授業中に確認テストを行い、その解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 文法記述	教科書の構成を確認し、文法記述について読んでおく。(90分)	文法記述について確認しておく。(90分)
担当教員			
第2回	基本文型と動詞句の構造(1) 動詞句型	教科書の基本文型と動詞句の構造(2) 動詞+前置詞と動詞+不変化詞の違いについて読んでおく。(90分)	基本文型と動詞句の構造(2) 動詞+前置詞と動詞+不変化詞の違いについて確認しておく。(90分)
担当教員			
第3回	基本文型と動詞句の構造(2) 動詞+前置詞と動詞+不変化詞の違い	教科書の基本文型と動詞句の構造(2) 動詞+前置詞と動詞+不変化詞の違いについて読んでおく。(90分)	基本文型と動詞句の構造(2) 動詞+前置詞と動詞+不変化詞の違いについて確認しておく。(90分)
担当教員			
第4回	主部と名詞句の内部構造(1) 名詞句の内部構造	教科書の主部と名詞句の内部構造(1) 名詞句の内部構造について読んでおく。(90分)	主部と名詞句の内部構造(1) 名詞句の内部構造について確認しておく。(90分)
担当教員			

第5回	主部と名詞句の内部構造(2) 限定詞と属格	教科書の主部と名詞句の内部構造(2) 限定詞と属格について読んでおく。(90分)	主部と名詞句の内部構造(2) 限定詞と属格について確認しておく。(90分)
担当教員			
第6回	付加部	教科書の付加部について読んでおく。(90分)	付加部について確認しておく。(90分)
担当教員			
第7回	前置詞の機能と前置詞句の構造	教科書の前置詞の機能と前置詞句の構造について読んでおく。(90分)	前置詞の機能と前置詞句の構造について確認しておく。(90分)
担当教員			
第8回	否定と助動詞(1) 助動詞の分析と否定節の構造 助動詞の英米語の違い	教科書の否定と助動詞(1) 助動詞の分析と否定節の構造 助動詞の英米語の違いについて読んでおく。(90分)	否定と助動詞(1) 助動詞の分析と否定節の構造 助動詞の英米語の違いについて確認しておく。(90分)
担当教員			
第9回	否定と助動詞(2) 法助動詞の意味と否定の作用域 法助動詞の出現年代	教科書の否定と助動詞(2) 法助動詞の意味と否定の作用域 法助動詞の出現年代について読んでおく。(90分)	否定と助動詞(2) 法助動詞の意味と否定の作用域 法助動詞の出現年代について確認しておく。(90分)
担当教員			
第10回	節タイプ(1) 疑問節 様々な疑問文の音調	節タイプ(1) 疑問節 様々な疑問文の音調について読んでおく。(90分)	節タイプ(1) 疑問節 様々な疑問文の音調について確認しておく。(90分)
担当教員			

第11回	節タイプ(1) 命令節	教科書の節タイプ(1) 命令節について読んでおく。(90分)	節タイプ(1) 命令節について確認しておく。(90分)
担当教員			
第12回	関係節と比較節(1) 関係節の特徴	教科書の関係節と比較節(1) 関係節の特徴について読んでおく。(90分)	関係節と比較節(1) 関係節の特徴について確認しておく。(90分)
担当教員			
第13回	関係節と比較節(2) 比較節の特徴	教科書の関係節と比較節(2) 比較節の特徴について読んでおく。(90分)	関係節と比較節(2) 比較節の特徴について確認しておく。(90分)
担当教員			
第14回	動詞補完節の諸相	教科書の動詞補完節の諸相について読んでおく。(90分)	動詞補完節の諸相について確認しておく。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ	総復習をしておく。(90分)	総復習をしておく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内試験 60% 課題提出 20% 小テスト 20%	

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし。</p>
<p>教科書</p>		
<p>『英米の文法書に学ぶ英文法基礎論』田子内健介著 開拓社</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>授業内で指示する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>事前事後学習をしっかりとすること。</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 言語プロフェッショナル科目					
科目名		中国語リーディング				ナンバリング	2655
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	董 子昂						
授業の位置づけ							
<p>中級レベルの中国語の読解力を養成する科目である。ディプロマポリシーとの関連でいえば、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働を可能とし、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につける科目である。1年次の中国語科目の発展科目であるとともに、2年次の中国語科目「総合中国語Ⅰ・Ⅱ」「中国語リスニング」「中国語コミュニケーション」「中国語ライティング」など関連する科目である。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、中国語の文章を正しく理解する能力を養成する。現代中国における様々な話題を集めた文章を、その内容が表現されるように音読したり、書かれた内容を考えながら黙読したりする。また、各話題に基づく文章を理解するために、各話題の社会的、文化的背景などを解説する。これらの理解を踏まえて、話しの内容や書き手の意見、書かれた内容や考え方などを理解し、「読む・書く・話す・聞く」の4技能の総合的な能力の育成につなげられるようにする。目的を持って熟読したり、読んだ後に感想などを中国語で表現するなど、目的に合った練習問題に取り組んだりする。</p>							
到達目標							
<p>ピンイン表記、語の使い分け、正確な語順、やや長い文章の読解と日中対訳など、「読む技術」を用いて基本的な文章を読むことができる。</p>							
授業の方法							
<p>生活・学習・仕事などの場面で基本的な読解力を育成するため、配布資料などを用いて、板書と視聴覚メディアを活用しながら講義形式で進める。履修者の理解度によって、講義の内容と授業の進捗状況を微調整する可能性がある。</p>							
ICT活用							
<p>Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。理解度テストの完成度・問題点に対し、解説を行い、受講生にアドバイスをする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 簡単な自己紹介をする。 第一課「自己紹介」①を学び、新出単語と「上」の用法、方向補語、存在文を勉強する。	教科書第一課前半の内容を予習すること。(90分)	よく復習し、テストを完成し、次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第2回	第一課「自己紹介」②を学び、テキストの内容を理解した上で、日本語に訳し、練習問題を完成する。	教科書第一課後半の内容を予習すること。(90分)	よく復習し、テストを完成し、次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第3回	第二課「仕事を探す」①を学び、新出単語と進行表現、結果補語①、禁止表現と「把」構文を勉強する。	教科書第二課前半の内容を予習すること。(90分)	よく復習し、テストを完成し、次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第4回	第二課「仕事を探す」②を学び、テキストの内容を理解した上で、日本語に訳し、練習問題を完成する。	教科書第二課後半の内容を予習すること。(90分)	よく復習し、テストを完成し、次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			

第5回	第三課「私の新しい仕事」①を学び、新出単語と方位詞、累加複文などを勉強する。	教科書第三課前半の内容を予習すること。(90分)	よく復習し、テストを完成し、次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第6回	第三課「私の新しい仕事」②を学び、テキストの内容を理解した上で、日本語に訳し、練習問題を完成する。	教科書第三課後半の内容を予習すること。(90分)	よく復習し、テストを完成し、次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第7回	第四課「学校の図書館」①を学び、新出単語と間接引用、「請」構文などを勉強する。	教科書第四課前半の内容を予習すること。(90分)	よく復習し、テストを完成し、次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第8回	第四課「学校の図書館」②を学び、テキストの内容を理解した上で、日本語に訳し、練習問題を完成する。	教科書第四課後半の内容を予習すること。(90分)	よく復習し、テストを完成し、次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第9回	第五課「期末テストの準備」を学び、新出単語と条件関係①、受身文などを勉強し、テキストの内容を日本語に訳し、練習問題を完成する。	教科書第五課の内容を予習すること。(90分)	よく復習し、テストを完成し、次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第10回	第六課「試験後のリフレッシュ」を学び、条件関係②、様態補語、疑問詞「吗」などを勉強し、テキストの内容を把握し、練習問題を完成する。	教科書第六課の内容を予習すること。(90分)	よく復習し、テストを完成し、次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員			

第11回	第七課「夏休み」を学び、使役構文、比喻、離合詞などを勉強し、テキストの内容を把握し、練習問題を完成する。	教科書第七課の内容を予習すること。(90分)	よく復習し、テストを完成し、次の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第12回	第八課「一日インターンシップ」を学び、排除、方向を表す「向」などを勉強し、テキストの内容を把握し、練習問題を完成する。	教科書第八課の内容を予習すること。(90分)	よく復習し、テストを完成し、次の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第13回	第九課「パワポ資料の作成」を学び、結果補語②、程度を表す表現、動量詞「遍」などを勉強し、テキストの内容を把握し、練習問題を完成する。	教科書第九課の内容を予習すること。(90分)	よく復習し、テストを完成し、次の授業で提出すること。(90分)
担当教員			
第14回	第十課「クリスマス」を学び、「是…的」構文、順番、結果補語③を勉強し、テキストの内容を把握し、練習問題を完成する。	教科書第十課の内容を予習すること。(90分)	よく復習し、テストを完成し、次の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ、復習、テスト これまで学習した内容を復習した後、テストをする。	これまで学習した内容を復習し、テストを準備すること。(90分)	よく復習し、テストを完成し、次の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	予習・復習・課題の完成度及授業への参加度(40%) + 宿題(30%) + テスト(30%)

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>無断欠席は必ず減点要素になる。</p>
<p>教科書</p>		
<p>『自分のことばで表現する中国語 準中級編』、奥村佳代子；塩山正純；張軼欧著、金星堂</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>『基礎から発展までよくわかる中国語文法』、丸尾誠、アスク出版</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>1回目の授業に必ず出席すること。出席と宿題を重視する。</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 国際・異文化コミュニケーション科目					
科目名		English for Tourism Hospitality				ナンバリング	1720
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Richardson Peter						
授業の位置づけ							
<p>学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている。(知識・技能) 世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識を身につけている。(知識・技能)</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、日常場面から接客の場面において訪日外国人に対応する際の英語による会話能力の向上を目的とする。授業では、想定される「おもてなし」の場面のロールプレイなどの言語活動を通して、英語能力の向上を図るほか、海外にはない日本の「おもてなし」とはどのようなものなのかを理解することを最終目標とする。</p>							
到達目標							
<p>この授業は、海外からの観光客を相手にした日本のサービス業に参加するための準備のためのものである。観光業に関連した幅広い実践的な場面で、自然に英語でコミュニケーションがとれるようになることを目標とする。</p>							
授業の方法							
Text analysis, vocabulary building, group discussions, and dialogue preparation and practice will be the main components of this course.							
ICT活用							
The class will make use of Google Classroom to provide access to course material.							
実務経験のある教員の教育内容							

none			
課題に対するフィードバックの方法			
Answers to vocabulary tests will be given after the tests have been completed and individual and class feedback will be provided on the midterm writing assignment and group dialogues.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コースのテーマや目標を知り、シラバスを確認し、オリエンテーションを行う。	Read the syllabus and note down any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90分
担当教員			
第2回	交通機関に関する重要な語彙を学習する。また、パートナーとの対話を練習する。ホテルのチェックインカウンターに関する重要な語彙を学習する。	Study the course content for week 2 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第3回	チェックインに関する会話やアクティビティを練習し、部屋のタイプや、インターネットやシャトルバスの利用、朝食やルームサービスの案内などのサービスの説明に重点を置く。ホテルの主要な施設やサービスに関連した重要な語彙を習得する。	Study the course content for week 3 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第4回	宿泊客からの様々な施設やサービスに関する質問を聞き取り、効果的に対応する能力を身につける。メニューやガイドを理解し、その内容を相手に伝えることができるようになる。日本語に訳さずに英語で直接説明する方法を頭の中で考える。指示に関連した重要な語彙を学習する。	Study the course content for week 4 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第5回	ダイアログを使って、様々な場面での道案内を練習する。また、観光地の情報を理解し、相手に伝えることができるようになる。旅行を勧める際に必要な語彙を身につける。	Study the course content for week 5 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第6回	本を読んで観光地の情報を吸収し、対話をして観光客へのアドバイスできる力を養う。食事に関連した語彙を勉強し、料理の勧め方を練習します。	Study the course content for week 6 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第7回	料理の英語名を知っているだけでなく、その料理がどんなもので、どのように調理されているのかを説明できるように。ヴィーガンとベジタリアンの違い、コーシヤやオーガニックフードなどのカテゴリーなど、レストランで使われる重要な用語を理解する。日本での食事に必要な語彙を調べ、パートナーとの会話の中でその語彙を練習する。	Study the course content for week 7 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第8回	前半の復習と中間テストを行う。	Review the content for the first half of the course and prepare for the midterm test and group dialogue. 90分	Reflect on the test and group dialogue. Try to identify your weaknesses and the gaps in your knowledge and how to address them. 90分
担当教員			
第9回	日本の一般的な米料理やおやつについて学び、自然な会話の中でそれらの料理について話す練習をする。ツアーを手配する際に必要な単語を覚える。ツアーのスケジュールや電車やホテルの情報を調べ、それらのスケジュールやパッケージについて話す練習をする。	Study the course content for week 9 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第10回	旅館に泊まる際に必要な語彙を中心に学習する。旅館の特徴やルール、マナーなどを探り、相手に自然に説明できるように練習する。日本の文化を説明するのに役立つ語彙について考える。	Study the course content for week 10 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第11回	日本文化の体験談を英語で読み、海外からのお客さんにお祭りやショー、イベントなどを勧めるロールプレイの練習をする。	Study the course content for week 11 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第12回	日本文化体験に関連した会話の練習を通して、日本のお土産の種類に関連した重要な語彙に慣れる。また、英語で説明する練習をした上で、海外からの観光客からのお土産や購入先についての質問に答える力を養う。	Study the course content for week 12 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第13回	健康上の問題や緊急時に対応するための重要な語彙を中心に学習する。様々な症状や予期せぬ事態についての話し方を学び、健康に問題を抱えた人を効果的に助けたり、緊急時に人に指示を出したりするための対話の練習をする。	Study the course content for week 13 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第14回	苦情やアクシデントに関する語彙を覚える。宿泊客が自分の部屋やホテルのサービス、紛失物などについての様々な心配事を調べ、そのような状況にどのように対応するかに焦点を当てたダイアログを練習する。	Study the course content for week 14 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第15回	講義の振り返りを行う。また、確認のための授業内試験を行う。 定期試験: 実施しない	Review the content of the course and prepare for the final test and group dialogue. 90分	Consolidate the course content. 90分
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	participation score: 10%; group dialogues: 20% (2x10%), first test: 35%, second test: 35%.

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>Hospitality on the Scene by Megumi Uesugi, Kay Abe, Chikae Ito, Yasuhiko Matsushima, Takehiro Kozue, and Jacob Schere. Publisher: Kinseido. ISBN: 978-4-7647-4067-9.</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>大修館書店; Taishukan's Genius English - Japanese Dictionary, 第5 edition</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 国際・異文化コミュニケーション科目					
科目名		コミュニケーション学概論				ナンバリング	1700
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
授業の位置づけ							
<p>グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている(関心・意欲・態度)人材育成の動機付け科目である。</p> <p>国際コミュニケーション学科で学ぶための基礎科目として、コミュニケーションとはなにか、どのようなしくみであるかを理解し(知識・技能)、言語による対人コミュニケーションのあり方を意識化し、円滑なコミュニケーションの方策を考えていく。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、グローバルなコミュニケーションスキル養成のための入門科目である。コミュニケーションとは何か、コンテキストごとに求められるコミュニケーション能力とは何か、事例を通して考えていくことで、多様な人々との伝え合いやわかり合いのための方策を自ら考えていく姿勢が身につくようになることを目的とする。授業では、コミュニケーションのしくみに始まり、日本人の対人コミュニケーションの特性を中心に、集団(組織)コミュニケーションからメディアコミュニケーションまでを概説していく。受講者はグループワークを通して日本人のコミュニケーションスタイルを言語および非言語行動から確認し、異言語話者の対人関係や情報に対するコミュニケーションへの「気づき」を共有していく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的なコミュニケーションのしくみが説明できる。 2. 対人コミュニケーションで起こった誤解が客観的に描写できる。 3. 英語母語話者と日本語母語話者のコミュニケーションの特徴を述べるができる。 							
授業の方法							
<p>各授業の前半はコミュニケーションに関するさまざまな理論を講義する。後半はグループワークやペアワークで事例課題に取り組み、その疑似体験を各理論に重ねて振り返る。</p>							
ICT活用							
<p>事前学習をはじめ、授業内や課外の課題においても、文献資料収集は公的な情報サイトで事例検索や調査活動を行う。Google Classroomを活用し、課題と関連資料をアップする。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題は次回の授業までにコメントを添えて個別返却し、授業内で全体を講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コミュニケーションとは 膨大なコミュニケーションの定義から、コミュニケーションとはなにか、異なる目的と場、対象に共通する定義を考えていく。	インターネットから、コミュニケーションとはなにか、説明できるように調べておく。(90分)	コミュニケーションの障壁をまとめておく(90分)
担当教員			
第2回	コミュニケーションのしくみ I コミュニケーションにおける記号、記号解釈とノイズの介入を概説する。	コミュニケーションにおける記号を調べておくこと。(90分)	専門用語を確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	コミュニケーションのしくみ II 非言語コミュニケーションのなかでも、日本人の「準言語」の特徴と事例をみていく。 学生は非言語メッセージのいろいろを発表する。	日本人の非言語コミュニケーションの種類を調べ、発表準備をしておくこと。(120分)	非言語コミュニケーションの分類表を作成しておくこと。(60分)
担当教員			
第4回	コミュニケーションのしくみ III 異言語間のコミュニケーションにおける文化に起因する誤訳を考える。	プリントを読んでおくこと。(90分)	日本語ならではの表現をまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	ステレオタイプ 集団に対するステレオタイプと偏見の構図を概説する。 また、無意識のバイアスと差別事例をシミュレーションをとおして自覚する。	プリントを讀んでおくこと。(90分)	タスクシートを完成すること。(90分)
担当教員			
第6回	メディアコミュニケーション 商品セールスにおける言語表現を比較し、その発信者の目的と隠れた意味を分析する。 学生は指定課題CMの表現を分析して発表する。	発表用課題を作成しておくこと。(90分)	メディアリテラシーを確認しておく。(90分)
担当教員			
第7回	言語コミュニケーションの機能 I 日本語と英語を対比しながら、断りや勧誘、励ましのいろいろな表現方法が使えるようになる。	家族、友人、先輩を誉める文を各5つ考えておく。(90分)	クラスメート3人を誉める文を各5つ作成する。(90分)
担当教員			
第8回	言語コミュニケーションの機能 II マイクロアグレッションをどこまで管理できるか、グループディスカッションと発表で考えて行く。	他者に言われて、自分が傷ついたことばを思い出しておく。(90分)	自分が他者に無意識のうちに傷つけていたことをまとめておく。(90分)
担当教員			
第9回	コンテキストと会話 高コンテキスト文化と低コンテキスト文化の特徴が説明できる。	プリントを讀んでおくこと(90分)	低コンテキスト会話文を完成しておくこと。(90分)
担当教員			
第10回	低コンテキスト文化 学生は高低コンテキスト文化の会話を発表することばですべてを伝えることの難しさを共有する。	プリントを讀んでおくこと。(90分)	低コンテキスト文化の会話文を完成しておくこと。(90分)
担当教員			

第11回	アサーティブコミュニケーション アクティブリスニングとアイスブレイク	傾聴とはどのようなことか、具体的に説明できるように調べておく。(90分)	「聴く」をまとめておく(90分)
担当教員			
第12回	日本語の手話Ⅰ 日本手話と日本語対应手話入門	動画サイトや書籍で日本語対应手話の表現を10以上覚える。(90分)	手話の基礎を復習しておくこと(90分)
担当教員			
第13回	日本語の手話Ⅱ ゲスト講師から学ぼう文化	日本語対应手話でかんたんな自己紹介ができるようにしておく。(120分)	ろう文化のコミュニケーションを復習しておくこと(60分)
担当教員			
第14回	日本語の手話Ⅲ ゲスト講師から学ぼう文化コミュニケーション	ろう者に緊急時の情報伝達する方法や必要事項を調べておく。(90分)	緊急時の手話表現を復習しておく。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 確認テストと解説(復習)	授業時のプリントやノート等を復習しておくこと。(150分)	確認テストの訂正と補足説明を記しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題30%、授業内での課題発表50%、確認テスト20%	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>プリントを配布する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>池田理知子『現代コミュニケーション学』有斐閣、デラルド・ウィン・スー『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション』明石書店、ほか授業で適宜紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 国際・異文化コミュニケーション科目					
科目名		ビジネス中国語				ナンバリング	3742
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	邢 玉芝						
授業の位置づけ							
<p>この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。1年次科目「中国語入門Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、2年次科目「総合中国語Ⅰ・Ⅱ」などの実用発展科目である。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、中国の急速な経済成長に伴い、世界における中国の地位も高まり、日中貿易は飛躍的な広がりを見せている。日本企業の中国への進出に伴い、貿易、ビジネスの場面で中国語を操ることができる人材が急速に求められている。この授業では、ビジネスの場面で必要となる用語の修得、ビジネスの場面で使われる公文書作成に必要な技能の修得、ビジネス会話に必要な技能の修得を念頭に、実際の場面を想定して講義を進める。講義修了時には、国際ビジネスの舞台で即戦力として役立つ技能を身につけることができるようにする。</p>							
到達目標							
<p>講義修了時には、正確で自然な発音、中級レベルの語彙および文法を身に付け、中国語検定3級レベルに到達するほか、貿易、ビジネスの場面の専門用語を操ることができる。ビジネスの場面で使われる公文書作成に必要な技能も修得できる。</p>							
授業の方法							
<p>教科書を中心に一回の授業で1課を進みむ。インプットよりもアウトプットをできるだけ取り入れる。授業の前半は会話本文と文法の説明をしてから、作文、書き換え、ヒアリングを練習する。後半はグループ分けして役柄を演じる練習と発表をする。</p>							
ICT活用							
<p>Google Formのテスト作成機能を用いて練習問題を解かせて、受講生の理解度を確認する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
合評をする			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1 ガイダンス:授業の進み方、評価の説明 2 第1課 オフィスを訪ねる。 中国のオフィスの水準	中国語で自己紹介を含む2分間スピーチを準備すること(90分)	前回の授業においての自分の発表の完成度をより高くする。(90分)
担当教員			
第2回	前回の習得度確認小テスト 第2課 レストランに食事に行く 中国のレストランの看板	予習:P6~P9 (90分)	前回の授業においての自分の発表の完成度をより高くする。(90分)
担当教員			
第3回	前回の習得度確認小テスト 第3課 銀行にて 中国の銀行	予習:P10~P13 (90分)	前回の授業においての自分の発表の完成度をより高くする。(90分)
担当教員			
第4回	前回の習得度確認小テスト 第4課 商談をする 商売上手な中国人	予習:P14~P17 (90分)	前回の授業においての自分の発表の完成度をより高くする。(90分)
担当教員			

第5回	第5課 宴会をセッティングする 中国の宴会ルール	予習:P18～P21 (90分)	前回の授業においての自分の発表の完成度をより高くする。(90分)
担当教員			
第6回	前回の習得度確認小テスト 第6課 有給休暇を取る 中国の祭日休日	予習:P22～P25 (90分)	前回の授業においての自分の発表の完成度をより高くする。(90分)
担当教員			
第7回	前回の習得度確認小テスト 第7課 フライトを待つ 中国の航空会社	予習:P26～P29 (90分)	前回の授業においての自分の発表の完成度をより高くする。(90分)
担当教員			
第8回	前回の習得度確認小テスト 第8課 アフターサービス 家電の迅速修理	予習:P30～P33 (90分)	前回の授業においての自分の発表の完成度をより高くする。(90分)
担当教員			
第9回	第9課 コンテナ運送 世界一のコンテナ取扱量	予習:P34～P37 (90分)	前回の授業においての自分の発表の完成度をより高くする。(90分)
担当教員			
第10回	前回の習得度確認小テスト 第10課 待遇 就労契約書	予習:P38～P41 (90分)	前回の授業においての自分の発表の完成度をより高くする。(90分)
担当教員			

第11回	前回の習得度確認小テスト 第11課 病院にて 個人開業医	予習:P42~P45 (90分)	前回の授業においての自分の発表の完成度をより高くする。(90分)
担当教員			
第12回	前回の習得度確認小テスト 第12課 国際入札 ODA	予習:P46~P49 (90分)	前回の授業においての自分の発表の完成度をより高くする。(90分)
担当教員			
第13回	前回の習得度確認小テスト 第13課 財務 株式上場企業	予習:P50~P53 (90分)	前回の授業においての自分の発表の完成度をより高くする。(90分)
担当教員			
第14回	前回の習得度確認小テスト 補充教材 ビジネス公文書の作成(1)	ビジネス公文書の作成(1) 予習 (90分)	作文(90分)
担当教員			
第15回	補充教材 ビジネス公文書の作成(2)	ビジネス公文書の作成(2) 予習 (90分)	先生のアドバイスを参考に、作文を修正する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(20%) + ペアワーク(40%) + 小テスト(40%)	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>『やさしいビジネス中国語』三瀧正道、金子伸一著 朝日出版社</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>授業内で適宜指示する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>「総合中国語Ⅱ」を終了することが望ましい</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部 国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目 国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	異文化コミュニケーション論					ナンバリング	3784
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、「コミュニケーション学概論」「国際コミュニケーション論」「異文化接触論」と関連し、グローバル社会のなかで、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備え(関心・意欲・態度)、地域社会の活性化につなげるために異文化コミュニケーション能力を身につける(思考・判断・表現)科目である。この授業の実践として「異文化ビジネスコミュニケーション」に発展する。

授業の概要

この授業は、主義や信条、思考様式、コミュニケーションスタイルなど文化の異なる人々との対人コミュニケーションに焦点を当て、その理論講義と演習で異文化コミュニケーション能力を養成する。異文化に起因するトラブルや誤解、ミスコミュニケーション、対立の問題は、日本人と外国人の間だけでなく日本人同士でも起こる。本授業では、これまで学んだ「異文化間理解」「異文化接触論」授業の知識をもとに、異文化間のコミュニケーション理論をさらに発展させ、文化の違いがどのような問題を引き起こすのか、それをどう受容・解決していけばよいか、対人レベルから集団間レベルまでの異文化シミュレーションゲームで振り返っていく。その疑似体験から、名著ホフステードらの多文化理論を批判的に読み、文化相対主義の意識化をはかる。

到達目標

1. 文化の異なりに気づき、異文化へのアウェアネスが意識できる。
2. 自文化を客観的に分析できる。
3. 異文化コミュニケーションの代表的な理論を述べることができる。

授業の方法

授業では、配布プリントとスライドでホフステード等の代表的な理論を概説し、その各理論を深めるために、事例やシミュレーション等を通して、文化の異なりによる問題点と対応方法をディスカッションやグループ発表で共有していく。これらの教室活動の振り返りを課題・評価する。また各理論の復習として確認テストを1回行う。

ICT活用

学生は授業の事前準備や課題調査・発表資料には公的機関のインターネット情報を活用する。課題や学生からの質問にはGoogle Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題は次回の授業時までコメントを添えて個別に返却し、授業内で全体を講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション コミュニケーションとはなにか、1年次で学んだ復習と確認をする。	コミュニケーションの定義としくみを復習しておく。(90分)	コミュニケーションの問題点を確認しておく。(90分)
担当教員			
第2回	異文化コミュニケーションとは 「文化の島」を再現し、見えない文化を再考する。	異文化コミュニケーションの定義を2つ以上調べておく。(90分)	異文化間でのコミュニケーション問題の主な要因をまとめておく。(90分)
担当教員			
第3回	異文化接触と適応の諸相 アドラー、ヤングらの異文化適応曲線と適応モデル	これまでの異文化体験ととまどいを振り返っておく。(90分)	海外語学研修時の異文化適応曲線を作成する。(90分)
担当教員			
第4回	カルチャーショックと適応のプロセス D.マツモト理論と石井の適応曲線モデルから	配布プリントをよく読んでおくこと。(90分)	海外語学研修時の異文化適応曲線に詳細な描写を記し、各自の適応段階を振り返っておく。(90分)
担当教員			

第5回	集団主義的文化と個人主義的文化 パーソナリティ、行動における個人主義的と集団主義的 文化の特徴	個人主義と自己中心・利己主義 の違いを確認しておく。(90分)	集団主義的文化と個人主義的 文化の基本的な価値観の違い を整理しておく。(90分)
担当教員			
第6回	集団の形成過程 日本の学校教育、職場での価値観と規律から	義務教育から高校までの学校の 規則を思い出し、共通する事項 を記しておく。(90分)	集団主義的社会と個人主義的 社会の社会問題をまとめておく 。(90分)
担当教員			
第7回	不確実性回避の弱い文化と強い文化 家庭、企業、組織、市民、国家の価値観から	初対面の外国人にどのような質 問をして交流するか、質問を10 以上挙げておく。(90分)	不確実性の回避の弱い社会と 強い社会の基本的な違いを整 理しておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	価値観形成を創り出すもの 女らしさ的文化と男らしさ的文化のゆれ	子どものころに読んで影響を受 けた童話や昔話を一つ選び、読 み直しておく。(90分)	各自が所属する組織や社会に おけるジェンダーレスの文化移 行状況を確認しておく。(90分)
担当教員			
第9回	権力格差の大きい社会と小さい社会 家庭における平等と不平等から	アルバイト先など職場で不平等 だと思うことを3つ挙げておく。 (90分)	組織における権力格差と男らし さ社会の共通点をまとめておく。 (90分)
担当教員			
第10回	権力格差の大きい社会のシミュレーション(ワークショップ) を行う	社会生活で不平等であると思 うことを5つ挙げておくこと。(90分)	権力格差の大きい社会と小さい 社会の基本的な違いを確認して おく。(90分)
担当教員			

第11回	メディアリテラシーの確認 情報発信者のバイアスを読む	ネットニュースから、ゴシップやスキャンダルニュースの伝播をたどってみよう。(90分)	ネットでのフェイク記事を探してみよう。(90分)
担当教員			
第12回	メディアが作る偏見 思い込みというステレオタイプ 議題設定理論と培養理論	自身の職業に関するステレオタイプを6つ挙げておく。(90分)	ニュースサイトや新聞の紙面構成からゲートキーパーの価値観を読み解く。(90分)
担当教員			
第13回	多文化社会のコミュニケーション I クラックホンとストロドベックの価値志向 アサーティブなコミュニケーションの手法	傾聴するための具体例を調べておく。(90分)	各自の「さく」行動を振り返っておく。(90分)
担当教員			
第14回	多文化社会のコミュニケーション II アイステートメントの適切な方法を事例別に考える。	アイメッセージ/アイステートメントとは何かを調べておく。(90分)	アイステートメントでコミュニケーションするための方法をまとめておく。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 確認テストと授業の復習を行う。	これまでの異文化コミュニケーション理論の専門用語と意味、具体例を復習しておく。(120分)	確認テストの誤答訂正と補足説明を記入しておく。(60分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題30%、課題発表を含めた授業参加度40%、確認テスト30%。	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>講義プリントを配布する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>池田理知子・埴幸枝『グローバル社会における異文化コミュニケーション』2019、三修社。石井敏・久米昭元他『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション: 多文化共生と平和構築に向けて』2013、有斐閣選書。G. ホフステード他著、岩井八郎他訳『多文化世界 原書第3版』有斐閣。ほか、授業で適宜紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 国際・異文化コミュニケーション科目					
科目名		異文化接触論				ナンバリング	1780
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Richardson Peter						
授業の位置づけ							
世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識を身につけている。(知識・技能)							
授業の概要							
この授業は、異文化接触とその適応を中心に学んでいく。受講者の興味関心がある国・地域、集団・組織等を想定し、その集団の宗教や信条、価値観、思考様式、規範などを調べ、そこで自分を失わずに適応していくには、どのような文化受容が求められるかを考えていく。異文化接触は外国に限らず、入学や転校、就職、結婚など人生の節目ごとに新たな集団文化への適応が求められる。適応には個人差があるものの、各人がマインドフルでレジリエントであるための方法を演習を通して学んでいく。							
到達目標							
The goal of the course is: (1) Introduce students to the notion of intercultural contact. (2) Develop students' abilities to understand and appreciate different ways of looking at the world. (3) Improve students' awareness of their own culture by getting them to think about other cultures.							
授業の方法							
Text analysis, lectures, and group discussions will be the main components of this course.							
ICT活用							
The class will make use of Google Classroom to provide access to course material.							
実務経験のある教員の教育内容							

none			
課題に対するフィードバックの方法			
Model answers to test questions will be given after the tests have been completed and feedback will be provided with a focus on questions the students found difficult.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Familiarize yourself with the course theme and goals and orientate yourself through a series of activities to the cultures of the target countries explored in these classes.	Read the syllabus and note down any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90分
担当教員			
第2回	Explore the relationship between language and different cultures and the challenges this creates for using dictionaries and trying to guess the meaning of unfamiliar words and concepts in a foreign language.	Study the course content for week 2 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第3回	Examine the notions of culture shock and reverse culture shock and the situations where these are likely to be experienced. Read and listen to accounts of culture shock in a range of different countries. Discuss strategies for managing and overcoming the negative aspects of these experiences.	Study the course content for week 3 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第4回	Explore different styles and ways of greeting and communicating through speech, body language, touch, and positioning. Discuss key differences between Japanese, Thai, Turkish, and British styles.	Study the course content for week 4 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第5回	Investigate the notion of face and the importance of appearances and how some Western cultures respond to these elements. Discuss the case of traditional British society where elements of face appear to coexist in tension with other ways of managing relationships and presenting yourself to others.	Study the course content for week 5 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第6回	Examine the connections and overlapping relationships between individualism, collective thinking, and national identity in different cultures with a particular focus on the United States, the United Kingdom, Japan, and Thailand.	Study the course content for week 6 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第7回	First part of the lesson: Student presentations related to topics covered so far in the course. Explore the importance of equality and hierarchy, formality and informality in different cultures and social contexts. Discuss why hierarchy and formality are so crucial in some cultures, such as Japan, while the principle of egalitarianism and the appearance of informality are so important in others, such as the United Kingdom and the United States.	Study the course content for week 7 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第8回	Review the first half of the course and complete the midterm test.	Prepare by studying the vocabulary and main topics from the first half of the course. 90分	Reflect on the test and try to identify your weaknesses and the gaps in your knowledge and how to address them.
担当教員			
第9回	Think about the difficult relationship between social harmony and critical thinking and examine different approaches to conflict and conflict resolution among different cultures. Discuss some case studies related to these aspects from various countries.	Study the course content for week 9 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第10回	Explore alternative approaches to education and language learning across different cultures and variations within a single culture in terms of the goal of studying, the relationship between education and morality, the role and status of the teacher, and how we should define a good or bad student and a good or bad lesson.	Study the course content for week 10 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第11回	Think about different traditional and progressive cultural dimensions within society and apply them to varying attitudes and approaches to work and leisure time. Compare Japanese attitudes to attitudes in some European countries.	Study the course content for week 11 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第12回	Continue to explore various traditional and progressive cultural dimensions within society by examining attitudes towards marriage and family and the cultural shift from being single to being married and possibly being divorced. Consider case studies from Japan, Thailand, Turkey, and the United Kingdom.	Study the course content for week 12 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第13回	Student presentations related to topics covered so far in the course.	Study the course content for week 13 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第14回	Student presentations related to topics covered so far in the course.	Study the course content for week 14 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第15回	Complete presentations and review the content of the course and reflect on the core concepts related to intercultural communication that you have explored.	Prepare by studying the vocabulary and topics covered during this course. 90分	Consolidate the course content. 90分
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	participation: 20%; midterm presentation and test: 40% final presentation and test: 40%	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>none</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>none</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 国際・異文化コミュニケーション科目					
科目名		国際コミュニケーション演習 I				ナンバリング	2704
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Todd Robert Enslin						
授業の位置づけ							
この科目での学習を通して学術目的の言語使用に主眼をおいた英語の高度な運用能力を身につけることが期待される。							
授業の概要							
この授業は、国際コミュニケーションにおける言語と異文化コミュニケーションについて演習を通じてその理解を深化させる科目である。したがって、授業での達成目標は、「外国語の実践的運用」と「自分の文脈での異文化理解」を掲げる。授業では、外国人留学生と日本人学生が混在する協働学習を軸とし、教員から提示される時事問題(SDGsを参照とする)についてグループで意見を集約し、2回のプレゼンテーションを行う。なお一回目のプレゼンテーションの使用言語は英語、二回目は日本語とするが、作業過程での使用言語は問わないことで複言語環境に慣れることを目指す。このことで、本学科で提供される外国語とそのコミュニケーション関連科目等の有機的な連携を実現し、異文化理解とはどのようなものなのか、グループ内で起こるコンフリクトを自分の文脈で理解できるようにする。							
到達目標							
After completing this course, students will be able to: 1. Better understand the communication process. 2. Negotiate meaning through both language and recasting. 3. Use English in meaningful ways to explain processes and accomplish a goal.							
授業の方法							
We will be using three different types of games: cooperative, competitive and pair games. Thus, students will be divided into groups where they will keep a journal to record information, such as vocabulary, the back story and rules about the game. Once the students understand their games, they will present their game to students from other groups, write a summary of the game, take a quiz about the game and also present the game to the teacher.							
ICT活用							
Students will use Google Classroom to access class information and to receive directions regarding the class.							
実務経験のある教員の教育内容							

なし			
課題に対するフィードバックの方法			
Students will receive immediate feedback from other students and the teacher during their group work in class. They will also have individual feedback regarding quizzes, summaries and presentations to the teacher.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Orientation to the class and what PBL is.	Think of games that you enjoy playing and write down how you would explain this to someone. (90分)	Learn what PBL is and how we will use this with games. Understand the syllabus and expectations. (90分)
担当教員			
第2回	Cooperative Games - Learning the basics - Flash Point - Castle Panic - Magic Maze - Forbidden Island	Do a Google search to understand what cooperative games are. Write a brief description of a cooperative game. Give an example. (90分)	Check understanding of PBL and Cooperative Games. Get into group assignments and decide on the game for each group. Begin going over the rules. Enter information into journals. (90分)
担当教員			
第3回	Cooperative Games - Understanding you game	Watch YouTube tutorial on how the game is played. Review vocabulary that is new to you. (90分)	Share what you learned about the game with group members. Make notes in journal. Set up games and begin play. (90分)
担当教員			
第4回	Cooperative Games - Teaching your game to others	Write a summary of the game to be handed in for grading. (90分)	Play the game again to make sure you have a clear understanding of how it is played and the rules. Get into new groups and teach your game to others and learn about other games. (90分)
担当教員			

第5回	Cooperative Games - Demonstrating knowledge	Review journal and summary. Compare with other group members and revise accordingly. Prepare for quiz. (90 分)	Take a quiz on the game contents. Continue teaching your game and learning about other group members' games. (90 分)
担当教員			
第6回	Cooperative Games - Test of English and Game knowledge	Review notes and summary. Watch the game being played on YouTube. (90 分)	With a partner, explain the game to the teacher. You will be graded on game knowledge and the English you used to explain. (90 分)
担当教員			
第7回	Competitive Games - Learning the basics - Ticket to Ride - Broom Service - Niagara - Stella Dixit	Do a Google search to understand what competitive games are. Write a brief description of a competitive game. Give an example. (90分)	Get into group assignments and decide on the game for each group. Begin going over the rules. Enter information into journals. (90 分)
担当教員			
第8回	Competitive Games - Understanding your game	Watch YouTube tutorial on how the game is played. Review vocabulary that is new to you. (90分)	Share what you learned about the game with group members. Make notes in journal. Set up games and begin play. (90 分)
担当教員			
第9回	Competitive Games - Teaching your game to others	Write a summary of the game to be handed in for grading. (90 分)	Play the game again to make sure you have a clear understanding of how it is played and the rules. Get into new groups and teach your game to others and learn about other games. (90 分)
担当教員			
第10回	Competitive Games - Demonstrate knowledge	Review journal and summary. Compare with other group members and revise accordingly. Prepare for quiz. (90 分)	Take a quiz on the game contents. Continue teaching your game and learning about other group members' games. (90 分)
担当教員			

第11回	Competitive Games - Test of English and Game Knowledge	Review notes and summary. Watch the game being played on YouTube. (90 分)	With a partner, explain the game to the teacher. You will be graded on game knowledge and the English you used to explain. (90 分)
担当教員			
第12回	Pair Games - Understanding the Game - Battle Lines - Hive - Herbaceous - Truffle Shuffle - Jaipur	Watch YouTube tutorial on how the game is played. Review vocabulary that is new to you. (90分)	Share what you learned about the game with group members. Make notes in journal. Review the instructions. Set up games and begin play. (90 分)
担当教員			
第13回	Pair Games - Teaching Your Game to Others	Write a summary of the game to be handed in for grading. (90 分)	Play the game again to make sure you have a clear understanding of how it is played and the rules. Get into new groups and teach your game to others and learn about other games. (90 分)
担当教員			
第14回	Pair Games - Test of English and Game Knowledge	Review notes and summary. Watch the game being played on YouTube. (90 分)	With a partner, explain the game to the teacher. You will be graded on game knowledge and the English you used to explain. (90 分)
担当教員			
第15回	Comprehensive Test/ Class Questionnaire	Review the three game types and specific points. (90 分)	Take the test. (90 分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	該当しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	25% Quiz of each type of game 25% Written summary of the game 50% Presentation of the game 30% Participation in the class discussions.	

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>該当しない</p>
<p>教科書</p>		
<p>All of the games will be provide by the teacher. Handouts will also be distributed in the class.</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>Reference materials will be introduced in the class.</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部 国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目 国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	国際コミュニケーション論					ナンバリング	2702
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力を身につける(思考・判断・表現)ために、主として移民の社会統合を考えて行く。伝統的な移民受入れ国の社会背景や日本の現状を、適切な情報収集によって理解する。移民受入れ国の課題は、文化差ことばの壁が大きい。言語習得が難しいとされる言語間の構造等の違いを学び(知識・技能)、多様な価値観の人々との共生を目指して、自己の異文化コミュニケーション能力(思考・判断・表現)を養成する。なによりも、世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて行動できる国際感覚(関心・意欲・態度)を身につけるための科目である。

授業の概要

この授業では、多岐分野にわたる国際コミュニケーション学をメディア社会の共生と連携から考察していく。国家と国家の情報の入手・開示の仕方と世論操作・イメージ形成の問題を、メディアコミュニケーション理論を中心に概説する。世界の国々は、どんな大国であつてもすべてを自給自足することは難しく互いに依存し合いながら発展している。相互依存は、単に経済面だけではなく、政治、文化、その他の面でも世界は一つの有機体として結びついている。このような国際関係の下、国家レベルの接触・交流機会の増加とともに、その適切な情報分析が必要不可欠となっている。ここでは、現代の日本の外交からヒト・モノ・カネ・コトがどのような情報で人々のイメージや経済・文化交流意識を作り上げているのかを見ていく。

到達目標

1. 日本の外国人受入れ政策の現状とその概要が説明できる。
2. 日本の多文化共生社会への実現に何が問題かを述べることができる。
3. 外国・外国人とコミュニケーションするために、自国・自文化について説明できる。

授業の方法

授業は資料配付やパワーポイントによる講義形式と、学生のグループワークによる調査とプレゼンテーションを行う。(全3回)
プレゼンテーション後にはグループディスカッションを行い、各グループで内容をまとめて発表し、全体で共有する。

ICT活用

学生のプレゼンテーションはパワーポイントを使用し、その参考資料は著作権やファクトチェック等に留意し、公的機関のサイトから収集していく。課題や資料配付、質問等はGoogle Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題は、次回の授業時まで個別に返却するし、授業内で全体の講評を行う。プレゼンテーション等の発表は授業内に学生相互で評価を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 「国際コミュニケーション」とは何か	国際コミュニケーションとは何かをウェブサイトで検索しておく。(90分)	国際コミュニケーションのいろいろな定義をまとめておく。(90分)
担当教員			
第2回	世界の移民人口 「移動の時代」の外国人労働力	世界の人口問題について情報収集しておくこと。(90分)	難民も含めた移民受入れの動向をEU加盟国のサイト等で確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	世界の移民政策 多文化主義と同化主義	多文化主義とは何か、調べておく。(90分)	多文化主義、同化主義の弊害を確認しておく。(90分)
担当教員			
第4回	日本の労働力人口 深刻な労働力不足と外国人労働者	日本の総人口の推移、外国人構成比、留学生数等の身分割合を調べておく。(90分)	日本の労働力不足の産業分野における外国人受入れ環境を調べておく。(90分)
担当教員			

第5回	多文化共生社会の実現に向かって移民の社会統合課題から何を学ぶか。	外国人居住者の多い地域社会の問題点をサイトで調べておく。(90分)	欧米の移民政策の歴史を確認しておく。(90分)
担当教員			
第6回	ことばの壁 英語母語話者から見た外国語の難易度を踏まえ、日本語学習者にとっての日本語の難しさをディスカッションし、日本国内にリンガフランカを考える。	文化庁「外国人生活者のための日本語教育」サイトをよく読んでおく(90分)	日本語はどこが難しいのかをまとめておく。(90分)
担当教員			
第7回	多文化共生社会の実現に向かって地方自治体と企業の取り組み事例	文化庁「外国人生活者のための日本語」、厚労省「外国人とのコミュニケーション」サイトを見ておく。(90分)	「やさしい日本語」の話し方・書き方を復習しておく。(90分)
担当教員			
第8回	多言語情報の壁 日本における多言語情報媒体と情報格差	東京都をはじめ政令都市の多言語情報や災害時の「やさしい日本語」サイトをチェックしておく。(90分)	西日本新聞の「やさしい日本語」ニュースサイトを読んで、文章で伝える方法を復習しておく。(90分)
担当教員			
第9回	「やさしい日本語」と「ブレイン・イングリッシュ」 「やさしい日本語」の運用と在留外国人とのコミュニケーションのあり方を演習を通して考えていく。	やさしい日本語研究会ほか、東京都等の「やさしい日本語」の言い換えサイトを見ておくこと。(90分)	「やさしい日本語」の基礎知識を復習し、言い換えができるようにしておく。(90分)
担当教員			
第10回	確認テスト 「やさしい日本語」の基礎知識と運用	「やさしい日本語」の書き換え方法を各種サイト、または市販書で確認しておく。(90分)	クリア「やさしい日本語」等、各自治体サイトのやさしい日本語の表現方法ポイントと用例を確認しておく。(90分)
担当教員			

第11回	日本の社会事情 I 学生のプレゼンテーション: 人口減少社会に突入した日本の労働力不足と外国人労働者受入れ	日本の外国人材受入れの現状と課題について、人手不足産業分野に関するプレゼン準備。(150分)	SDGsと日本の共生社会づくりについてをまとめておく。(30分)
担当教員			
第12回	日本の社会事情 II 学生のプレゼンテーション: 日本が海外から影響を受けている大衆文化と、世界に発信していくべき大衆文化	プレゼン準備 (90分)	プレゼン後のディスカッションをレポートにする。(90分)
担当教員			
第13回	日本の難民受入れと法整備 日本の外国人労働者受入れの歴史	日本で暮らす外国人が困難に感じていることを調べておく。(90分)	日本の難民受入れと、世界の難民受入れ国の動向についてのデータをまとめておく。(90分)
担当教員			
第14回	国際コミュニケーションにおけるコンフリクト 世界の紛争地図をつくろう	現在の紛争をネットで調べておく。(90分)	各対立の要因をまとめておく。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 確認テストと復習	これまでの授業を復習しておく。(120分)	確認テストの誤答には補足説明を記しておく。(60分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	プレゼン、ディスカッション等を含めた授業参加度60%、課題20%、確認テスト20%	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>講義プリントを配布／配信する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>国連「International Migration 2020」、文化庁の日本語教育施策、出入国在留管理庁「在留外国人統計」ほか、授業でサイトや書籍を適宜紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 国際・異文化コミュニケーション科目					
科目名		中華圏の文化				ナンバリング	2760
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	魯 諱						
授業の位置づけ							
<p>1年次の中国語学習で触れた中国の文化を踏まえながら、さらに広い「中華圏」の文化について学び、実際に中華圏の人々とのコミュニケーションに活かす方法を理解するための科目である。世界と地域の視点からの自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識、および世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力および世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、これまでの中国語学習で得た中国の文化知識をさらに深めるため、中華圏での伝統や習慣、社会を中国語で学んでいく。世界中で中国語話者ネットワークが広がっているが、その地域や国、集団の文化や社会は、中国本土の文化とはやや異なっている。香港、台湾、シンガポール、マレーシア、オーストラリアにおける中国文化の特徴と、中国本土の文化様式を調査発表したり、ディスカッションを行い、現代の中国文化を眺める。</p>							
到達目標							
<p>中華圏の文化に関する歴史的な理解を獲得し、講義で取り上げる内容について、自らの意見を述べるとともに議論に貢献することができる。</p>							
授業の方法							
<p>週2回で行う授業であるため、1回目は主として配布プリントや視聴覚資料を用いて講義形式で進め、2回目は討論を中心とする授業を展開する。受講者は前回の講義内容にコメントし、課題とした文献についての報告も行う。そして、受講者のプレゼンテーションも2回行う(第8回と第14回)。なお、受講者の関心に沿って、各回のテーマと内容を微調整する場合がある。</p>							
ICT活用							
<p>Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。教員自らの取材資料、SNS上の動画等を取り入れる。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業で、受講者と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。プレゼンテーションについては事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	①オリエンテーション ②「文化」や「中華」などの概念について学ぶ。	シラバスをよく読み、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	第2回: 前回の講義内容に対し、議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第3回	第3回 漢字文化圏と文学 中華圏のみならず、日本や韓国における漢字の影響力について考察する。そして、詩歌や、<注釈>という言説形態の影響についても説明する。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第4回	第4回 前回の講義内容に対し、議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			

第5回	第5回 服飾と化粧 「漢服」、「呉服」、「韓服」、「チャイナドレス」の歴史について学ぶ。そして、近年「漢服」と「韓服」を巡る中韓両国の若者の論争について説明し、論争の問題点を考える。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第6回	第6回 前回の講義内容に対し、議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第7回	第7回 食文化 食文化からみる中国の南北差異 小籠包、餃子、飲茶、麻婆豆腐など、日本人にもよく知られている中華料理はそれぞれの地域のものなのかを紹介する。各地の食事マナーも紹介する。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第8回	プレゼンテーション I : 関心を持つテーマについて、グループワークで口頭発表を行う。	問題意識を整理し、プレゼンテーションの準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	第9回: 仏教と儒教の伝播と受容 儒教は「宗教」なのかを考える。北伝仏教の特徴を説明する。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第10回	第10回 前回の講義内容に対し、議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			

第11回	第11回 祝祭日 日本の季節や農耕、通過儀礼に関する祝祭日の多くは中国に起源を持ち、日本で土着の風習と混じり合い継承、発展してきた。日中両国の文化交流の歴史について学ぶ。ユネスコ世界無形文化遺産に登録された韓国の「江陵端午祭」と中国の「端午節」との関係の説明する。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第12回	第12回 前回の講義内容に対し、議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第13回	第13回 中華圏と他の国や地域との文化交流について学ぶ。 例:東洋と西洋を繋ぐシルクロード	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第14回	プレゼンテーションⅡ:関心を持つテーマについて、グループワークで口頭発表を行う。	問題意識を整理し、プレゼンテーションの準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第15回	講義のまとめ:講義全体を振り返り、最終レポート課題を提示する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行いません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(30%)、文献の報告及び口頭発表(30%)、期末レポート(40%)

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>プリントを配布または配信する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>1回目の授業に必ず出席すること(やむを得ず出席できない場合、事前に教員に連絡すること)。指定する文献には参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。無断欠席は必ず減点要素になる。</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		国際コミュニケーション科目 国際・異文化コミュニケーション科目					
科目名		日中文化比較				ナンバリング	3762
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	魯 諄						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている」と関係がある科目である。この授業では、異文化間コミュニケーション(intercultural communication)の視点から、日中両国の文化的交渉の歴史的過程を考察する方法を学ぶ。日本と中国の文化における共通点や相違点を見出し、両国の文化の交流に関する諸問題を考察する。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、日本と中国の交流、市民レベルでの「共生」を図っていくためには、ステレオタイプから脱却し、両国の文化を理解することが必要である。何よりも異文化交流の視点から「中国文化」を理解することが不可欠である。中国文化を知ること、グローバル社会の中で自国の「日本文化」を再発見し、自己認識を深めていくことになる。ここでは中国語で、中国文化と中国現代社会の概要を把握していく。まず、中国的” ” 日本的” ”な文化とはなにか、日中交流史からみた中国人の対日イメージ、日本人の対中イメージの変遷を概観し、結婚式、酒文化、美意識などから比較文化の分析と検討を行う。</p>							
到達目標							
<p>日本と中国の文化交流の様々な現象あるいは論点について、調べ、考察した内容を、論理的にかつ明快に説明することができる。</p>							
授業の方法							
<p>週2回で行う授業であるため、1回目は主として配布プリントや視聴覚資料を用いて講義形式で進め、2回目は討論を中心とする授業を展開する。受講者は前回の講義内容にコメントし、課題とした文献についての報告も行う。そして、受講者のプレゼンテーションも2回行う(第8回と第14回)。 なお、受講者の関心に沿って、各回のテーマと内容を微調整する場合がある。</p>							
ICT活用							
<p>Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。教員自らの取材資料、SNS上の動画等を取り入れる。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
通常の授業で、受講生と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。プレゼンテーションについては事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	①オリエンテーション(授業の進め方や成績評価などについて説明する) ②文化の概念について学ぶ。 ③日中漢字文化の循環関係Ⅰ:音読み(呉音と漢音)や簡体字比較と日本の「国字」について学ぶ 日本語の漢字の音読みには呉音と漢音があり、それが中国の古語に由来することを認識することは、日中言語文化のうち漢字文化を理解する基礎となる。 近代以降、日中ともに漢字の簡略化が進んだが、中国大陸がより徹底して行われ、台湾と香港と異なる簡体字文化を持つことになる。日本もまた独自の簡略化が進み、中国	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容を復習し、指示する文献を読むこと。(90分)
担当教員			
第2回	第2回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第3回	第3回 日中漢字文化の循環関係Ⅱ:近代の翻訳語と外来語について学ぶ。 近代において西洋の概念を翻訳する際、「四書五経」に親しんだ当時の知識人(旧武士階級)が中国の古典から多くを引用し、かつ中国がそれをスムーズに受け入れたことは、日中漢字文化の循環関係を示す顕著な例である。「権利」「科学」「哲学」「社会主義」など、その数は1000を超えるといわれる。しかし現代では、日本においては欧米の先端科学技術や文化の外来語を中心にカタカナの多用が目立つ一方、中国では意識が主流である。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第4回	第4回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			

第5回	第5回 日中漢字文化の循環関係Ⅱ:インターネット時代における日中の言語の変化について学ぶ。 インターネットによって瞬時に情報が行き交う中、日中間で漢字の共有も急速に進んでいる。「元氣」「居酒屋」などの日本語はすでに中国の日常語として定着している。日本でも一部若者の間で「偽中国語」が使われ始め、中国語の発音に由来する流行語も現れる。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第6回	第6回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第7回	第7回 日中の文学について学ぶ。 日清戦争以前は日本は中国から影響を受けることが多かったが、日清戦争以降は、中国人の日本留学をきっかけに、日本文学が中国文壇に影響を与えることが多くなった。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第8回	第8回 プレゼンテーションⅠ 関心を持つテーマについて、調べ、考察した内容を、論理的にかつ明快に説明する。必ず具体的な研究方法を説明すること。	関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)	プレゼンテーションの内容を振り返り、配布プリントと講義の内容をノートなどで復習する。(90分)
担当教員			
第9回	第9回 日本と中国の食文化について学ぶ。 例:なぜ和食はユネスコ無形文化遺産に登録され、世界三大料理の一つである「中華料理」はされていないのか? ⇒中国の多様な地方文化について考える。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第10回	第10回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			

第11回	第11回「対」の中国文化と「非対称」の日本文化を比較する。 中国では「はい」は「対」、春節の飾りも「対聯」、世界の構造を説明するのも「陰陽」の対が用いられる。一方、日本では「わびさび」や茶道華道に代表されるように、自然そのままの非対称、不完全、未完成が重んじられる。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第12回	第12回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第13回	第13回 日本と中国の祝祭日について比較する。 日本の季節や農耕、通過儀礼に関する祝祭日の多くは中国に起源を持ち、日本で土着の風習と混じり合い継承、発展してきた。節分の豆まきや雛祭り、五月の節句、七夕などのほか、成人式、還暦の祝いなど。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第14回	第14回 プレゼンテーションⅡ 関心を持つテーマについて、調べ、考察した内容を、論理的にかつ明快に説明する。必ず具体的な研究方法を説明すること。	関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)	これまでの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員			
第15回	講義のまとめ: 講義全体を振り返り、期末レポートの課題を提示する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行いません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業・討論への積極的な参加度(25%)、課題の完成度(15%)、口頭発表(30%)、期末レポート(30%)	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>プリントを配布または配信する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>1回目の授業に必ず出席すること(やむを得ず出席できない場合、事前に教員に連絡すること)。指定する文献には参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。無断欠席は必ず減点要素になる。</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		キャリアデザイン				ナンバリング	3402
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健						

授業の位置づけ

「キャリア」とは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」と定義される。私たちが社会生活や職業生活をしていく上では、生涯を通した「キャリア形成」や「キャリア発達」が重要となる。本講義は、で、私が提案した役割実践法とこれに基づく問題解決、課題達成を図る様々な実践事例を学び(知識・技能)、自身のキャリア形成を設計し就業に向けての方策を主体的にプランニングし(関心・意欲・態度)、その基盤となる家庭生活や社会生活といった人生設計を意識化する。本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」等に関連する科目である。

授業の概要

この講義では、キ自身のキャリア形成の設計を行う。その上で、各自が希望する職業調べを行い、その職業に就くための計画を作成する。さらにその職業生活での収入を想定し、家庭生活や社会生活を含めた人生設計・プランニングをする。加えて、退職後の生活についてもプランニングを行う。

到達目標

この講義では、キャリアプランニングの方法論を学んだ上で、自身の希望する職業について調べ、職業と家庭生活や社会生活のバランスを図りながら、生涯を通して自己実現と多様な人々との共生をどのようにしていくのかについての人生設計・プランニングを行うことを目的とする。

授業の方法

アクティブラーニング(AL)のために、発表、討論、ゲーミング、調べ学習、グループ学習等、様々な授業方法を活用する。

ICT活用

スマートフォン、パソコンなどのICT機器やインターネットやWebコンテンツなどを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

民間企業等で20年の経験があり。ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

学びの協働性を大切にし、授業内での学生同士のフィードバックを重視する。受講記録カードに毎時間の学びや質問等を記入し、授業の「ふりかえり」を行い教員や学生同士の意見交流を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○ オリエンテーション ・授業の内容と進め方と到達目標、準備・事後学習、課題、成績評価について説明する。キャリアプランニングとは何か、各自の将来像を描いてみる。。	これまでの人生について振り返り、行ってきたことをまとめておくこと(90分)	1号館1階の就職課に各自で行き、求人やそこに掲示されているものを閲覧して頂くこと。また、利用方法が分からない場合は、職員に話しかけ確認して頂くこと。(90分)
担当教員			
第2回	○就職について考えるⅠ(就職課の利用法とその他の方法について) →就職をするための方法を考える →就職課の利用と、その他について[グループディスカッション] *この講義には、就職課職員も出席するため、この機会に、利用法等を全員が理解すること	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第3回	○就職について考えるⅡ(就活スタートアップについて) →就職支援サイト会社様からのお話(就職の傾向と対策、準備について) →講義+個人ワーク+グループワーク	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第4回	○自己分析Ⅰ(自己分析の重要性について) *配布資料を使っでの講義、個人ワーク、グループワーク[予定]	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

第5回	○就職について考えるⅢ(就活スタートアップについて) →就職支援サイト会社様からのお話 *第3回授業とは別な会社様が来てお話をさせていただきます。 →講義+個人ワーク	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第6回	○自己分析Ⅱ(自分の強み・弱みについて) *配布資料を使っての講義、個人ワーク、グループワーク [予定]	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第7回	○就職について考えるⅣ(北海道企業について) →就職支援サイト会社様からのお話 *第3回、第5回授業とは別な会社様(北海道企業に精通している会社様)が来てお話をさせていただきます。 →講義+個人ワーク	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	○自己分析Ⅲ(社会人基礎力について) *配布資料を使っての講義、個人ワーク、グループワーク [予定]	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第9回	○就職について考えるⅤ(中小企業について) →ゲスト講義(中小企業家同友会様)+講義(教員)+個人ワーク	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第10回	○自己分析Ⅳ(自分の過去・現在・未来について) *配布資料を使っての講義、個人ワーク、グループワーク [予定]	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

第11回	○職種や働き方を知るⅠ(業界分析研究と企業ノートの作り方) →講義+個人ワークを中心に行っていきます	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第12回	○職種や働き方を知るⅡ(業界分析研究と企業ノートの作り方) *配布資料を使つての講義、個人ワーク、グループワーク [予定]	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第13回	職種や働き方を知るⅢ(学部の関連就職先について①) →講義+個人ワークを中心に行っていきます	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第14回	職種や働き方を知るⅢ(学部の関連就職先について②) →講義+個人ワークを中心に行っていきます	前回配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第15回	○最終レポートの作成 (レポートの内容は当日発表します)	これまでの配布の資料を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	準備学習の状況、授業態度、授業意欲、グループディスカッション、各授業内でのレポート、プレゼンテーション、事後学習の状況、最終レポート(これまでの授業の理解度を確認。レポートのテーマについては、最終授業日に伝える)	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>なし(授業ごとに、資料を配布します)</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>授業ごとに紹介していく。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>この科目は、外国語学部「キャリア形成」の科目と一部重複して行い、隔週(2週間に1回・連続2コマ/第1・2ターム)となります。 また、この科目は、本学就職課の協力やサポートいただき行います。よって、就職活動をサポートしている外部会社様がこられたり、本学就職課の職員も参加しますので、毎回、挨拶やお礼などがしっかりと行えるようにしてください。</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		キャリア入門				ナンバリング	1132
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健						

授業の位置づけ

「キャリア」とは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」と定義される。この授業では私たちが社会生活をしていく上で、生涯を通した「キャリア形成」や「キャリア発達」が重要になることに鑑み、入門のキャリア教育を行う。そのことで、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える。本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、自己のキャリアを考察するにあたり、スタート地点となるべき授業である。世の中にどのような仕事があり、先人がどのようにして道を切り開いてきたのかを考える。自分のやりたいこと、目指したい目標を見つけるきっかけになることを目指した授業である。キャリアプランを考える際に重要な2つの視点は、自分を知ることと、相手(仕事や会社)を知ることである。自分がどのような仕事をしたいと望むのか、そして、その仕事を遂行するための資質とは何かを探ることで自分を知ることができる。また、そのような仕事が実際に存在するのか、そしてどのようにしたら、その仕事に就けるのかを考えることが、相手を知ることである。ここでは、この2点を理解するための授業を展開する。

到達目標

1. 他者について、表面的なことだけでなく内面的なことも理解し、配慮や協調を持って接することができるようになる。
2. 自分についての強みや弱みを把握し、説明ができるようになる。
3. 置かれている状況の機会や脅威を予測し、仮説を立てて行動ができるようになる。
4. 自分の社会人・職業人としての具体的な方向性をイメージし、それに向けた目標を立てて行動をすることができるようになる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料などを使用し講義を進める。また、授業ごとに編成するチームでのグループワークやプレゼンテーションなども行っていく。

ICT活用

Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○オリエンテーション(授業の進め方) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる内容が理解できるようになる	これまでの人生について振り返り、行ってきたことをまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第2回	○他者について知る I ・クラスの仲間について →アイスブレイク →グループワーク *グループ内での自己紹介(事前課題を使って) ⇒他者を知り、多様な価値を受け止める) ○コミュニケーションについて考える →コミュニケーションとは? ⇒相手の立場になって物事を考えられるようになる	プレゼンテーションの準備を行っておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第3回	○他者について知る II ・クラスの仲間について →アイスブレイク →グループワーク *グループ内での自己紹介(事前課題を使って) ⇒他者を知り、多様な価値を受け止める) ○コミュニケーションについて考える →コミュニケーションとは? ⇒相手の立場になって物事を考えられるようになる	プレゼンテーションの準備を行っておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第4回	○大学在学中の過ごし方と卒業後について考える I →大学在学中に行う必要なことや、卒業後についての自分のことを考えてもらうために、個人ワーク、グループワークをおこなっていく *また、最近の就職動向等について報告する	大学4年間の行動計画を立てること(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

第5回	○大学在学中の過ごし方と卒業後について考えるⅡ →大学在学中に行う必要なことや、卒業後についての自分のことを考えてもらうために、個人ワーク、グループワークをおこなっていく *また、国際学部の学生が強みとなることや、今後各自で補わなければならないことについて講義していく	自分が行いたい仕事、行いたくない仕事、どちらでもない仕事について徹底的に考えまとめていくこと。また、その仕事が行いたい、行いたくない、どちらでもない理由も書き出しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第6回	○大学在学中の過ごし方と卒業後について考えるⅢ →大学在学中に行う必要なことや、卒業後についての自分のことを考えてもらうために、個人ワーク、グループワークをおこなっていく *大学在学中の取組(学外学修やボランティアなど)事例の報告	自分の強みや弱みを伸ばすために、大学外で行なければいけないことを考えてまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第7回	○大学在学中の過ごし方と卒業後について考えるⅣ →大学在学中に行う必要なことや、卒業後についての自分のことを考えてもらうために、個人ワーク、グループワークをおこなっていく *グループワークを中心にを行い、他者との違いを把握することを目的とする	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	○社会に必要な能力を知るⅠ ⇒社会人基礎力を伸ばすために、グループワークをとおし、考え抜く力、前に進む力を身につけていく	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第9回	○社会に必要な能力を知るⅡ ⇒人生100年時代において、必要な能力を知る ○他者について知る ⇒自分が尊敬する、または気になる人の人生について調べてみる	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第10回	○社会に必要な能力を知るⅢ ⇒自己分析の重要性の把握と、自己分析の実施	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

第11回	社会で必要な能力を知るIV ・履歴書の正しい書き方について① ⇒履歴書を作成し、これからの学外授業(インターンシップやニセコ国際研修)に備える能力を養う	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第12回	○社会で必要な能力を知るV ・履歴書の正しい書き方について② ⇒履歴書を作成し、これからの学外授業(インターンシップやニセコ国際研修)に備える能力を養う	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第13回	○他者について知るIII ・自分と他者の自我を考える ・交流分析を把握する	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第14回	○社会で必要な能力を知るVI ・マナーやルールについて ・ホスピタリティについて (今後のインターンシップや学外学修に向けたトレーニング)	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第15回	これまでの講義の振り返りと最終レポート →チーム編成をして、これまでの振り返りのためのディスカッションと発表を行う →最終レポート提出	前回の授業で伝えた事前課題に取り組むこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	準備学習の状況、授業態度、授業意欲、グループディスカッション、各授業内でのレポート、プレゼンテーション、事後学習の状況 最終レポート(これまでの授業の理解度を確認。レポートのテーマについては、最終授業日に伝える)

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>なし</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>授業ごとに紹介していく。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>授業は、グループワークを中心に構成しているため、遅刻は原則欠席扱いとする。ただし、本学の規定に沿った理由で遅刻となる場合は、用紙などを添えて提出すれば出席とする。詳細はオリエンテーション時に報告する。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		ファイナンシャルプランニング				ナンバリング	3436/1142
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健、小西 正人、矢部 玲子						
授業の位置づけ							
<p>社会人として必須の金融管理の知識を身に付ける。授業内容は日本FP協会認定資格の取得を目指した授業となる。主として同資格を取得したい学生向けの授業であるが、授業内容の性質上、幅広く金融に関する知識を修得したいという学生であれば資格取得を目的としない学生についても歓迎する。「経営財務分析」の基礎となる。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)。問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができる(思考・判断・表現)。</p>							
授業の概要							
<p>本講は金融に関する知識と経済の仕組みを包括的に学ぶことを目的とする講座である。具体的にはファイナンシャル・プランニングの資格取得を目標とする。個人をとりまく経済・金融環境が急速に変化し、生活者としての個人にも自己責任が求められる場面が増え、「生きる力」の養成が急務となっている。このような環境の下で、ファイナンシャル・プランニングの資格検定学習を通じて、金融の包括的かつ実践的な知識を身につけ、今後の人生に資する力を身につけることを目指す。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分のライフスタイルや価値観、経済環境を確認できる。 2. 自分の家族状況、収入と支出の内容、資産、負債、保険などのデータから、現状を分析できるようになる。 3. 様々な領域にわたる包括的なアプローチによって、必要なファイナンシャル・プランナーとして最小限必要な知識を学び、少なくとも国家資格(FP技能士)3級取得へ意識化できる。 							
授業の方法							
<p>配布教材とプリントを配布して講義形式ですすめる。夏季期間における集中講義であるので履修登録の際に注意すること。事前ガイダンスを実施するので必ず参加すること。 フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

外部講師(詳しくはオリエンテーション時にお伝えします)			
課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 授業の進め方、評価方法、指定教科書、勉強方法などを説明し、FP3級資格に求められる基本知識を概説する。	FP資格の活かし方を考えてレポート形式でまとめておくこと(90分)	FP資格取得に向けたスケジュールの作成(90分)
担当教員			
第2回	ライフプランニングと資金計画(1) FPの倫理、関連法規、FPの考え方・手法について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集で確認し、まとめておくこと(90分)
担当教員			
第3回	ライフプランニングと資金計画(2) 社会保険、年金、年金と税金、資金計画、ローンとカードについて学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第4回	リスク管理(1) リスクマネジメント、保険制度全般、生命保険の基礎・商品について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			

第5回	リスク管理(2) 損害保険の基礎・商品、第三分野の保険、保険と税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	金融資産運用(1) マーケット環境、預貯金・金融類似商品、投資信託、債券投資について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第7回	金融資産運用(2) 株式投資、外貨建商品、金融派生商品、ポートフォリオについて学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	金融資産運用(3) 金融商品と税金、セーフティネット、関連法規について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	タックスプランニング(1) 日本の税制、所得税の仕組み、各種所得、損益通算について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第10回	タックスプランニング(2) 日本の税制、所得税の仕組み、各種所得、損益通算について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			

第11回	不動産(1) 不動産の見方、取引、法令上の規則、取得・保有に伴う税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめしておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	不動産(2) 不動産の見方、取引、法令上の規則、取得・保有に伴う税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめしておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第13回	相続・事業承継(1) 贈与と法律、贈与と税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめしておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	相続・事業承継(2) 贈与と法律、贈与と税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめしておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	重要ポイントのまとめ 試験出題頻度の高い項目の再学習を行う。	参考書の該当箇所をノートにまとめしておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(授業内タスクシート作成含む)70%、課題30%。	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>授業前に最新の『FP攻略本3級』を配布する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>FP技能士資格取得に推奨できるテキスト、問題集を適宜紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>留意事項等 全ての回の講義への積極的参加を必須とする。 集中講義方式で履修するので、開講時期・場所等について学科掲示板での告知に注意を払い、初回ガイダンスには必ず出席すること。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部 国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成 社会人基礎力						
科目名	経営マネジメント					ナンバリング	3432
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	芝 香						

授業の位置づけ

グローバル経済が進展した現代において、経済環境や競争環境、雇用や働き方なども急激に変化している。このような激しく環境が変化する状況化では柔軟にその変化に対応できることが企業や個人にも求められており、戦略志向やマーケティング志向を身につけた人材が社会全体のなかで必要とされている。本科目は、ディプロマ・ポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力」を身につけることや「世界と繋がるために地域社会を理解」することに関する科目であり、世界や地域社会を理解し、外部環境の変化に対応するためのマネジメントについて学ぶことで、社会人としての基礎力を身につける科目である。

授業の概要

この授業は、経営とはなにか、ドラッカーの『マネジメント:基本と原則』をベースに、現代社会と組織・企業におけるマネジメントの課題・責任・実践および事業の成果を上げるためのマネジメントについて、その基礎的な考え方を学ぶ。経営学としてのマネジメントは「ひとりではできないことをやり遂げるために、人の協働と分業の仕組みを作り、その経営資源(モノ・カネ・情報)を含めて、適切に育て活用していくこと」である。マネジメントは、経営学、会計学、商学、生産システム等、複合的な視点から経営問題を考えていく必要があるが、ここでは、組織の社会性と個人、組織における人間行動、人的資源管理に焦点を当て、企業のヒトを活用した経営戦略「人材マネジメント」事例から学ぶ。

到達目標

- 本授業の到達目標は、以下の3点である。
- 1) 授業やテキストで取り上げたレベルの経営学の基本的な考え方を説明できる。
 - 2) 企業の活動を経営学の視点で考え就職活動やグローバル社会で活躍するために応用できる。
 - 3) 興味がある企業や業界について掘り下げて考え、自分なりに分析・説明できる。

授業の方法

授業では、前半は事前課題の内容をテーマにしたケース・ディスカッション、グループ単位でのプレゼンテーションを行う。後半はフィードバックとして理解度を確認するためパワーポイントと配布印刷物(ハンドアウト)を用いて、講義形式でマーケティングに関わる理論やケースに対する講義という順序で授業を進める。事後課題は、授業の内容についての振り返りなどを確認するGoogle Formsを用いた小テスト形式のクイズを提出を行い、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いて、フィードバックを行う。

ICT活用

本授業ではGoogleDriveやGoogle Docs、Office365などのクラウドサービスを中心としたOfficeツールを積極的に活用した授業を実施する。具体的には、GoogleClassRoomを用いて事前課題、事後課題を提出するなどの学習管理を実施し、課題にはGoogle SpreadやMicrosoft PowerPointでのプレゼンテーション資料の作成に取り組み、プレゼンテーションをグループ毎に発表するなどのアクティブラーニング型授業を実施する。

実務経験のある教員の教育内容

経営コンサルタント業を自らが起業し、恵庭市での起業塾講師を行うなど十数年にわたりサービス産業を中心とした創業支援を行ってきた。また長らく大手旅行代理店の業務効率化支援(DX業務)を実務として支援した経験や企業経営幹部や創業希望者を対象としたビジネスゲームやケーススタディを用いたセミナー運営、人事採用担当であった経験を活かし、理論的な学びをベースとしながらも就職活動などで役立つ実践的な授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事前・事後課題へのフィードバックとして、授業にて課題の解説を行う反転授業型のアクティブラーニングスタイルによるフィードバックで授業を実施する。また、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いて、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	イントロダクションとして、経営マネジメントの授業概要と進め方を説明する。また、組織・企業におけるマネジメントに関する研究がなぜ必要となったのかについて、階層構造の組織の理解を通じて理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第2回	組織のマネジメントに必要な5つの能力 マネジメントには「目標設定」「組織づくり」「コミュニケーション」「評価測定」「人材開発」の5つ能力が必要とされる。この5つについての能力がなぜ組織のマネジメントに必要なのかについてを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第3回	伝統的組織管理論とモチベーション 伝統的な組織管理の経営学説から現代のマネジメントに至るまで人のやる気を上げるためにどのように取り組んできたのかを学ぶことで、モチベーション向上させることと働きがいとは何かについてを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第4回	経営組織の構造と形態 マネジメントは権力ではなく人を活かす責任であるとされる。組織において目標到達のためには適切な権限を持つものが適切な範囲で権力を行使しなければならないことを組織の構造と形態を学ぶことで理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員			

第5回	目標設定とKPI 組織が成果を上げるためには組織のメンバー全員が共通認識を持つことができる明確な目標を立てその方向性を確立することが求められる。どのような目標を設定すれば良いのかKPI(重要業績指標)について学ぶことで目標設定の重要性を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第6回	経営者やマネージャーに必要なリーダーシップ 組織が成果をあげるためには経営者やマネージャーといった組織のリーダーによる動機付けと適切なコミュニケーションが必要であることを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第7回	外部環境の変化と組織戦略 グローバル化の進展、パンデミック、社会課題の変化などにより、企業や組織を取り巻く外部環境は大きく変化する。変化する環境のなかで優れた解決手法があったとしてもその手法を活かせる組織になっていなければならないことから、どのように組織をデザインすれば変化に対応できる組織となるのかを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第8回	経営戦略とは 戦略の歴史から現代の組織がどのようにして経営戦略に取り組んできたのかということを学ぶことで、経営戦略の基本的な考え方を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第9回	ポジショニングアプローチ ポーターが提唱したポジショニングアプローチによる基本戦略について学ぶことで競合がいる環境下での競争に対応するための考え方について理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第10回	コトラーの市場地位別戦略 企業が保持している経営資源の質と量により、業界内の各企業を、リーダー、チャレンジャー、ニッチャー、フォロワーの4つに分類し、それぞれの地位に基づいた戦略があることを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第11回	内部環境分析(BCGとVRIO分析) 企業や組織が保有するリソース(経営資源)に着目し、資源の獲得が競合企業との競争で優位に立てるというリソース・ベースド・ビュー”(Resource-based view)という考え方と分析するフレームワークとしてBCGとVRIO分析を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第12回	顧客価値とイノベーション 企業の存在価値を決めるのは顧客であり、企業はイノベーションによって顧客価値の創出を目指さなければならないことをさまざまなイノベーションのケーススタディを学ぶことでその重要性を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第13回	財務分析の基礎(財務3表) 企業分析に必要な財務諸表による企業活動の理解のため、財務3表の構造と意味について理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第14回	財務分析の基礎(収益性、安全性、活動性、成長性) 財務諸表分析とも呼ばれる経営分析として、財務諸表の定量的なデータを用いて会社の財務状況の分析手法を学ぶことで、客観的に経営状況を把握し就職活動に役立てる方法について理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第15回	戦略と組織の融合としてのビジネスモデル 経営資源(ヒト、モノ・カネ・情報)を含めたすべてを俯瞰的にみることが可能なビジネスモデルキャンパスのフレームワークを学ぶことで、ビジネスを成功に導くためのアプローチについて理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	85	事前・事後課題の内容とグループワークなどの授業参加の積極性を総合的に評価する。

<p>その他</p>	<p>15</p>	<p>特に授業参加の積極性を評価する。</p>
<p>教科書</p>		
<p>必要に応じて配布資料を提示する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>授業内で資料を提示する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>本科目は社会人として就業する力を身につけるための科目として位置づけられている。したがって、授業では事前課題をテーマにしたケースディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う予定もあり、授業開始前までに理解を深めるために事前課題に必ず取り組み期限までに提出すること、欠席する予定の場合は事前に、急遽欠席した場合は事後にメールやGoogleClassRoomを通じて連絡や報告を必ず行うことを履修条件とする。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		現代日本語論				ナンバリング	3328
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
授業の位置づけ							
<p>現代日本語の変化を説明できるようになるため、実際の日本語使用に主眼を置いた高度な日本語の運用能力を身につける(知識・技能)ための科目である。社会人基礎力としての日本語表現の向上を目指し、目的や場に合わせた適切な日本語運用を身につけ(知識・技能)、日本語を用いた日常生活で適切な道徳観、倫理観を持ち、主体的に他者との共生・協働することを可能とする柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えて(関心・意欲・態度)いく。</p> <p>「日本語表現技法Ⅰ・Ⅱ」「日本語コミュニケーション技法」「日本語学」に続く科目で、「実用日本語」分野科目である。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、現代日本語の変化を社会言語学的視点で分析し、ことばと社会の関係、つまり、ことばは社会を映し出す鏡であることを検証していく。日本社会における独特な「役割語」を糸口に、社会的立場による言語使用のパラエティクから、対人関係の親疎やポリティカルコレクトネスと差別語、女ことば等から、社会変化とともに変化することばと変わらないことばの核を眺めていく。受講生は指定テーマごとに調査・発表をし、ディスカッションしていく。たとえば、新語流行語と言語消費、若者ことばの造語法、言語景観やピクトグラムから多言語社会における言語サービスのあり方、アイヌ語や手話など少数派とされる人々の言語権を考えていく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1 敬語も含めて「正しい」日本語運用を意識化できる。 2 現代日本語の変化に敏感に気づけるようになる。 3 若者ことばとフォーマルな表現等、場に合わせた使い分けができる。 4 方言を含めた「役割語」が説明できる。 							
授業の方法							
<p>各授業の前半はスライドや配布プリントを使って講義形式で行い、後半はその項目に関連したワークショップと振り返り作業を中心に行う。受講生には課題発表やグループでのプレゼンテーション(2回)と確認テスト(1回)を予定している。</p>							
ICT活用							
<p>課題や資料配付、質問等はGoogle Classroom を活用する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題は次回の授業時にコメントを添えて個別返却し、授業内で全体の講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 現代の日本語の問題点は何か、自分の日本語運用での問題点はなにかをグループごとに意見交換していく	近年の日本語のことば遣いに関する問題を具体的に3つ以上考えてくる。(90分)	スマホにおける各自の日本語文の使用パターンを整理しておく。(90分)
担当教員			
第2回	日本語表現の変化Ⅱ 現代の日本語をめぐる諸問題について概説する。「気になる言い方」について、自身の言語表現と照らし合わせ、その運用傾向を振り返る。	正しい日本語とはどのようなことか、事例を2つ以上あげ、説明できるようにしておく。(90分)	ゆれている日本語表現を5つ以上探して、使用事例を書いておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	日本語表現の変化Ⅱ 現代の日本語をめぐる諸問題について概説する。「気になる言い方」について、自身の言語表現と照らし合わせ、その運用傾向を振り返る。	「すごっ」「寒っ」といった話し言葉における形容詞の感情表現の文法規則を考えておく。(90分)	世代差のある日本語語彙使用を5つ選び、表現特徴を考えておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	役割語と現代の若者ことば 役割語からことばとアイデンティティーについてを講義する。受講者はグループごとに、近年の若者ことばの特徴とその使い方を発表し、世代別の言語運用の特徴を確認していく。	現代の若者語はどのようにして作られ、どのような場で用いるのか、自身の言語使用経験から分析しておく。(90分)	日本語の若者ことばの語構成傾向をまとめておく。(90分)
担当教員			

第5回	日本語における方言の役割 方言とはどのような役割をになっているのか、東日本大地震時の避難所コミュニティや医療用語から概説する。	北海道方言の特徴を具体例を10以上あげて説明できるように整理しておくこと。(90分)	北海道方言の特徴を具体例を10以上あげて説明できるように整理しておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	方言コミュニケーション 受講生は各自が選択した方言の特徴とその使い方をプレゼンテーションし、日本の代表的な方言の使い方を共用する。	指定の各方言の特徴をその具体的使用例をあげ、プレゼンの準備をしておく。(90分)	方言の格差について、ネットでどのような地位が与えられているかを調べておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	ことば遣いの効果的な活用とは 「女ことば」をはじめ日本語の多様な役割語を通して、心理的に結び付けられたスピーチスタイルとその効果を分析していく。	ある表現が特定の人物像を造るキャラ語を8つ以上収集しておくこと。(90分)	多様な表現を分類し、その分類基準を説明できるようにしておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	適切な表現とは ことばによる差別や不適切な表現とは何か。マイクロアグレッションのいろいろを自身の体験と他者の言語感覚についてディスカッションしていく。	差別語や放送禁止用語を10以上リストアップし、なぜそれが該当するのか、そしてその言い換え表現を2種類以上、考えておくこと。(90分)	不適切とされる表現について、日本語と英語辞書の記述を確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	日本の言語景観Ⅰ 学生が収集した言語景観を発表する。それらの日本語表現から日本社会の変化や日本語文化を分析していく。	各自の言語景観のプレゼン準備(スライド作成含む)をしておく。(90分)	公共施設における掲示文や説明文の書き換えをしておく。(90分)
担当教員			
第10回	日本の言語景観Ⅱ 学生は商品や商品説明に記された「問題な」日本語文をプレゼンする。そこから、日本語のレトリックを分析していく。	各自の言語景観のプレゼン準備をしておくこと。(90分)	日本語のレトリックを雑誌委等から5つ収集しておくこと。(90分)
担当教員			

第11回	外国語としての日本語 外国語としての視点で日本語を眺め、日本語の比喻表現やレトリックを確認し、英語比喻と比べてものごとの「見立て」方の違いと共通点を考える。	外国人が日本語を学ぶうえで難しいことはどのような学習項目か具体的に調べておくこと。(90分)	公的機関の情報を「やさしい日本語」と「平易な日本語」で書き換えておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	日本語会話の特徴 共和型コミュニケーションと対話型コミュニケーションを比較し、会話のスタイル分析の演習をする。	察しや場を読むといった高コンテキスト文化とはどのような情報共有かを説明できるようにしておく。(90分)	市役所の広報誌に掲載されている「お知らせ」を読み、子供や高齢者が一読で理解できる文に訂正しておく。(90分)
担当教員			
第13回	日本の絶滅危機言語 アイヌ語	日本語の中のアイヌ語またはアイヌ語をルーツする借用語を30以上記しておく。(90分)	アイヌ語で簡単な挨拶や感情表現ができるようにしておく。(90分)
担当教員			
第14回	ポライトネスとは 日本語コミュニケーションにおける敬語、敬意表現と丁寧さを考える。	敬語体系を書籍やサイトで読んで復習しておくこと。(90分)	タスクシートを完成しておく。(90分)
担当教員			
第15回	確認テストと復習	復習しておくこと。(120分)	確認テストの誤答を訂正し、補足説明を記しておくこと。(60分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表やプレゼンテーションを含めた授業参加度60%、課題20%、確認テスト20%。	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>講義プリントを配布する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>文化庁国語課『国語に関する世論調査』各年版、岡本佐智子『日本語教育能力試験に合格するための社会言語学10』2008、アルク。ほか、授業で適宜紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		世界の言語と日本語				ナンバリング	1320
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人						

授業の位置づけ

この科目は、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、および世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身に付けることを達成する科目であり、他の言語系科目と関連する。

授業の概要

この授業は、できるだけ多くの世界の言語に触れることにより、英語などの大言語だけが「外国語」でないことを知ること、そして日本語を外国語として見るようになることにより、世界の言語の中における日本語を発見していく。受講生は、これまでどんな言語を学んだことがあるか、どんな言語に興味があるか調査し、世界の言語、言語学の歴史(世界の言語はどのようにして分かれたのか、どれが兄弟・親子関係にあるのか)について学んでいく。授業では 簡単な諸外国語の会話練習を通して、外国語学習の壁を取りはらい、世界の言語社会への視座を広げていく。

到達目標

この授業では、できるだけ多くの世界の言語にふれることにより、

- 1) 英語だけが「外国語」でないことを知ることができる。
- 2) 日本語を外国語として見るようになることになり、日本語を本当に知ることができる。
- 3) 英語が苦手でも他の言語で自信を取り戻せる。

また授業では会話練習を徹底的に重ねることにより、

- 1) 英語以外の外国語での挨拶ができるようになる。
- 2) 街で外国人に会ってもどきどきせず挨拶できるようになる。
- 3) 世界中を旅するコスモポリタンな気分になれる。

※ 以下のシラバスで「学修する」と書かれている場合は、すべて「学び修する」の意である。

授業の方法

板書・配布資料・視聴覚メディアを活用しながら、講義形式を進める。ただし毎回の課題および発音、会話の各受講者の理解度を毎時間確認し、徹底的に身につけてもらう。

ICT活用

Google Workspaceに付属している機能(Google Formなど)によって練習問題等を提供し、課題および自主学習を促す。またGoogle Classroomにて参考資料や参考HPを紹介したり、補足資料などを随時提供する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題は基本的にはコピーを提出してもらい、授業内で問題点を共有しつつ自己チェックで各自の問題点を自発的に見つけてもらう。小テストは可能な限り翌週に返却し、課題提出と併せて詳細な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション・イントロダクション 授業の進め方、評価方法、心がまえなどについて説明。 世界の言語：世界の言語はどのようにして分かれたのか、 どれが兄弟・親子関係にあるのかについて。 フランス語(1)：アルファベットと発音、名詞と冠詞について 学修する。 韓国語：ハングルの形成法、基本母音字を学修する。	世界の言語に興味をもち、いろいろ調べてみておいてください(30分)	フランス語の名詞と冠詞について、およびハングルの基本母音字について復習(180分)
担当教員			
第2回	※以下、各言語について会話文を覚えるほど発音練習してもらいます。 フランス語(2)：人称と動詞変化(活用)について学修する。 韓国語：基本母音字の復習、子音字(가·나·다·라·마·바·ㅍ)を学修する。 アイヌ語：あいさつ言葉など	フランス語の人称変化に関する資料を配布あるいは周知するの で読んでおく(60分)	フランス語の人称変化に関する練習問題、および韓国語の基本母音字・子音字(가·나·다·라·마·바·ㅍ)の練習問題(120分)
担当教員			
第3回	フランス語(3)：所有形容詞、指示詞について学修する。 韓国語：その他の基本子音字を学修する。	韓国語の子音字(平音)を復習しておく(30分)	フランス語の所有形容詞および指示詞に関する問題、韓国語の基本子音字に関する課題(150分)
担当教員			
第4回	フランス語(4)：人称代名詞(対格・与格)、形容詞について学修する。 韓国語：激音、濃音を学修する。そろそろ韓国語会話にも挑戦する。 アイヌ語：会話に挑戦！(その1)	韓国語の基本子音字について復習(30分)	フランス語の試験準備、および韓国語の会話暗誦(180分)
担当教員			

第5回	フランス語筆記テスト 韓国語:合成母音字を学修する。引き続き韓国語会話に挑戦。	フランス語筆記テストの準備 (120分):事前に昨年のテストを配布します。	フランス語のテスト問題を解く (150分)
担当教員			
第6回	ドイツ語(1):発音と名詞について学修する。 韓国語:パッチムを学修する。 アイヌ語:会話に挑戦!(その2)	韓国語会話練習(30分)	ドイツ語会話を覚える。これまで学んだハングルを確実に覚える (150分)
担当教員			
第7回	ドイツ語(2):人称と動詞変化について学修する。 韓国語:ハングル発音テストプリントの説明、解説。	ハングルの復習(30分)	ドイツ語の人称変化に関する課題、およびハングル発音テストプリントの復習(150分)
担当教員			
第8回	ドイツ語(3):冠詞と格と人称代名詞について学修する。 韓国語:指定詞이다, 助詞는/은を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦!(その3)	ハングル発音テストの準備(60分)	ドイツ語の冠詞・格・人称代名詞に関する練習問題(150分)
担当教員			
第9回	ドイツ語・総復習時間 印欧語について(文字・分布・特徴など)学修する。 韓国語:아니다, 助詞가/이を学修する。	ドイツ語筆記テストの準備(150分)	ドイツ語のテスト準備、および韓国語指定詞の練習問題(120分)
担当教員			
第10回	ドイツ語筆記試験 韓国語:存在詞있다, 助詞에を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦!(その4)	ドイツの試験準備(150分)	ドイツ語試験問題(150分)
担当教員			

第11回	アラビア語について簡単に紹介。 韓国語:練習問題をやりながら総合復習。	韓国語の復習(30分)	アラビア語の文字練習・会話練習、韓国語の復習・会話練習(150分)
担当教員			
第12回	スワヒリ語(1):発音、時制、アスペクトについて学修する。 韓国語:합니다体、関連助詞を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦!(その5)	スワヒリ語について事前調査(30分)	スワヒリ語練習問題、韓国語練習問題(150分)
担当教員			
第13回	スワヒリ語(2):名詞クラスについて学修する。 韓国語:数字、およびさまざまな助詞を学修する。	スワヒリ語について事前学習(30分)	スワヒリ語および韓国語練習問題(150分)
担当教員			
第14回	スワヒリ語(3):総合復習、会話練習 韓国語:総復習	韓国語の数字を暗誦(30分)	スワヒリ語テストの準備(180分)
担当教員			
第15回	スワヒリ語テスト、および解説等	テスト準備(180分)	テスト問題解答(60分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期テストは実施しません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の小テスト(筆記および会話暗誦)、授業内の課題(ハングルテスト含む)、授業参加度による総合評価を行う。	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>適宜、講義プリントを配布します。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>ビジュアル版世界言語百科／ピーター・K・オースティン編／椋風社 事典 世界のことば141／梶茂樹他編／大修館書店 The Languages of the World／Kenneth Katzner／Routledge ニューエクスプレスプラス アイヌ語／中川裕／白水社</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>くれぐれも横着しないようにしてください。</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語と日本文化				ナンバリング	2326
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
授業の位置づけ							
<p>この授業は、日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)ための、発展科目となる。世界の日本語話者とつながるために日本語文化を理解し、その日本語文化を発信できる国際感覚を身につける(関心・意欲・態度)ことを目指している。英語や中国語などの外国語コミュニケーション能力養成には、母語である日本語の視点から、異言語・異文化の表現の共通点と差異を学び、言語と文化を分析する視点を養う。実用日本語科目群のひとつであり、言語プロフェッショナル科目、異文化コミュニケーション科目に関連する。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、ことばと文化を分析する方法のひとつとしてメタファーやレトリック、外国語に対訳しづらい日本的な表現に焦点を当て、日本語の背景にある日本文化を探求する。受け身表現と「ある」「なる」、「どうも」「よろしく」「まあ、ちょっと」等々、日本語ならではの表現だけでなく、出来事や物事をメタファーで見ていくと、日本語母語話者はどのように物事を見立てているのか、日本人の思考方法や価値観、世界観等が見えてくる。外国人が日本語を学ぶ視点、つまり「ト」から日本語を眺めてみることで、外国語としての日本語にはどのような言語文化があるのかが見えてくる。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. ことばと文化をメタファーから分析する手法で生産語源の仮説を立てることができる。 2. 日本語と英語における基本的メタファーを比較できる。 3. 日本語と英語・中国語などの外国語の諺や慣用句表現の差異と共通点を説明できる。 							
授業の方法							
<p>各授業の前半は、パワーポイントと講義プリントを用いて講義形式で進めるが、後半はグループまたはペアワークで各課題に関して調査・発表し、ディスカッションしていく。 プレゼンテーションは3回行い、復習として確認テストを1回行う。</p>							
ICT活用							
<p>課題や資料提示、質問はGoogle Classroomを活用する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時までコメントを添えて個別に返却し、授業で全体の講評を行う。プレゼン等の発表は授業内で講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション ことばと文化の関係について日本語文化について考えてみよう。	日本語表現で「へんだ」と思っている語や慣用句を考えておく(90分)	日本語表現の「不思議」をまとめておく(90分)
担当教員			
第2回	ソトから眺める日本語 日本語学習者にとって、日本語の難しさとは何かを理解する。	外国人が日本語を学ぶ際、どんなことが難しいかを調べておく(90分)	日本語学習者にとって日本語の音声の難しさをまとめておく(90分)
担当教員			
第3回	日本語のコミュニケーション 話し相手をどう呼ぶか、謝罪や判断留保など日本語コミュニケーションのマジックワードを考える。	日本語における呼称(英語のyouに対応する)表現のいろいろを10以上考えておく。(90分)	日本語における書きことばと話しことばの呼称を、コンテキスト別にまとめておく。(90分)
担当教員			
第4回	日本語のレトリック 謝罪や勧誘、依頼表現の文化視点	外国人日本語学習者にとって難しい表現はなにかを調べておく。(90分)	謝罪、依頼、勧誘の日英対照表現をまとめておく。(90分)
担当教員			

第5回	日本語からみた日本語の発想 I 日本文化のウチとソトを確認し、自己の視点中心の日本語と自己を対象化する英語を比べて見よう。	ウチとソトの切り換え基準を確認しておく。(90分)	ウチ、ソト、ヨソの構造をまとめておく。(90分)
担当教員			
第6回	日本語からみた日本人の発想 II 能動態と受動態: 日本語の受身表現の視点を考える。	日本語表現で受身形を用いる場面や状況を確認しておく。(90分)	日本語の受身表現と能動表現の使い方をまとめておく。(90分)
担当教員			
第7回	ことばと文化を分析する視点 日本語文化を比喩表現から分析してみよう	日本語の諺で、いかにも日本的だと思われる諺を10以上リストしておく。(90分)	日本語の諺と同様の意味の英語の諺をまとめておく(90分)
担当教員			
第8回	メタファーのいろいろ I 上下空間のメタファーを考えてみよう。	メタファーとは何か、定義とその具体例を調べておく。(90分)	日英対照メタファーで「上下」に関する語句や慣用表現をまとめておく。(90分)
担当教員			
第9回	メタファーのいろいろ II 大小・高低のメタファーを考える。	英語における大小を表わす語句や慣用表現を調べておく。(90分)	日本語のメタファーにおける高低・大小と英語の共通点をまとめておく。(90分)
担当教員			
第10回	メタファーのいろいろ III 英語の動物メタファーについて、グループでプレゼンテーションする。	プレゼンテーション準備をしておく。(120分)	外国語と動物のメタファーの共通点と相違をまとめておく。(90分)
担当教員			

第11回	メタファーのいろいろⅣ 外国語と日本語の喩えはどこが、どう違うのかをプレゼンテーションする。	プレゼンテーションの準備しておく。(120分)	プレゼンテーションの修正しておく。(60分)
担当教員			
第12回	日本語のユーフェミズム ことばの代替と実体の変化の関係を眺める。	婉曲語法にはどのような表現があるかを調べておく。(90分)	日本語における外国語使用や外来語のユーフェミズムをまとめておく。(90分)
担当教員			
第13回	日本語のメトニミー 空間的隣接と時間的隣接から誇張法を分析する。	商品や北海道の観光案内など、そのキャッチフレーズから誇張と思われる表現を調べておく。(90分)	メトニミーについてまとめておく。(90分)
担当教員			
第14回	日本語の擬人法 物語や昔話からの擬人法についてプレゼンテーションする。	プレゼンテーションの準備しておく。(120分)	プレゼンテーションで用いた資料やスライドを修正しておく。(60分)
担当教員			
第15回	まとめ レトリックに関する専門用語の確認テストを行う。 日本語母語話者が、外国語を使用するとき、どのような表現が誤解されたり理解されづらいかを確認する。	メタファー、メトニミー、シネクドキ等の専門用語と用例を確認しておく。(120分)	確認テストの間違いを訂正しておく。(60分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題とプレゼンテーション50%、ディスカッションや作業を含む授業参加度30%、確認テスト20%。

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>講義プリントを配布する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>森田良行『日本語文法の発想』2005、ひつじ書房。G. レイコフ他『レトリックと人生』1986、大修館書店。瀬戸賢一『認識のレトリック』海鳴社。ほか授業で適宜紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語コミュニケーション技法				ナンバリング	2304/2360
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
<p>この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。「日本語表現技法Ⅰ・Ⅱ」の発展科目である。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、情報端末を介した交流が日常的になった現代、さまざまなコミュニケーションのチャンネルが広がっているが、人と対面して「話す」ことがコミュニケーションの基本であることの重要性が再確認されている。この授業では、信頼関係を築くための非言語メッセージはもとより、良質の「スピーチ」を客観的に観察することなどを通じ、「きく」ための技術やアサーティブなコミュニケーション技術を身に付けていく。授業では、目的に合わせて自分をどうアピールしていくのか、自己PR動画や就活面接用ウェブ動画の制作と振り返りで、目的に合ったパフォーマンスができるようになることを目指す。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 4つの「きく」姿勢を意識して、相手の話の意図を探ることができる。 2. 話の内容を簡潔にわかりやすく伝える手法を使おうと努力する姿勢が身につく。 3. 対人コミュニケーションにおける第一印象や態度として、スマイルが意識的に表出できる。 4. 目的や相手、場に合わせた話し方ができる。 5. 自己のコミュニケーション行動の問題点をモニターできる。 							
授業の方法							
<p>プレゼンテーションやスピーチについて、毎授業時での少人数ごとのグループ活動を通じて互いに気づき・修正しあい・フィードバックにつながる形で大きな発表形式にもっていく。</p>							
ICT活用							
<p>Google classroomを通じた課題提出のほか、パワーポイントその他を用いたプレゼンテーションを行う。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

自己評価や振り返りを含めた各課題はコメントを記して個別返却し、優秀な課題には、その学ぶべきところを全体の講評で紹介し共有していく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション ・「伝える」ことについて、「話しかた」「構成」「内容」	事前にシラバスを読んでおく(30分)	次回の「自己紹介」について、話す内容を整理しておく(150分)
担当教員			
第2回	自己紹介(グループ活動) ・いろいろな人に自己紹介をしてみる。 ・いい「自己紹介」を考える。	事前に自己紹介の内容を考えておく(30分)	いい「自己紹介」について考え、次回への糧とする。(150分)
担当教員			
第3回	伝えるためには「目を見て話す」(グループ学習) ・目を見て話す練習をする。 ・目線を配る練習をする。	今回のテーマについて、他の人の話している姿を観察しておく(30分)	課題となるスピーチ動画を視聴し、今回のテーマで気づいたことを確認するとともに、自分でも練習しておく(150分)
担当教員			
第4回	「聞く練習」と「話す形」(グループ活動) ・引き続き「目を見て話す」「目線を配る」練習 ・表情に気をつけてみよう ・顔いて聞く練習、および話し手の気持ち ・好きなもののことを考えて言葉にする練習	前回学んだことを思い出して確認しておく(30分)	課題となるスピーチ動画を視聴し、今回のテーマで気づいたことを確認するとともに、自分でも練習しておく(150分)
担当教員			

第5回	朗読とスピーチ・プレゼンテーションの違いについて(グループ活動) ・両者に決定的な違いがあることを体験する ・「調べ発表」風の節末上げ・文末上げを知り、撲滅に動く。	前回学んだことを思い出して確認しておく(30分)	課題となるスピーチ動画を視聴し、今回のテーマで気づいたことを確認するとともに、自分でも練習しておく(150分)
担当教員			
第6回	「好きなこと」発表練習(グループ活動) ・自分の「好きなこと」についてよく考え、売り込むにはどうすれば良いか見つけ出す。 ・好きなものことについて発表リハーサル・ピアレビュー	今回のテーマ(「好きなこと」)について、話す内容をある程度考えておく。(30分)	今回のグループ活動を通じて気づいたこと・指摘を受けたことについて、しっかりと受け止めて発表の準備をする。(150分)
担当教員			
第7回	人前に立ってみよう ・「演説」を視聴し、観察・分析する。 ・人前に立って話してみる。	「演説」について考えておく(30分)	次回の発表についてしっかりと準備をする。(150分)
担当教員			
第8回	「好きなこと」発表(前半) ・好きなことについて発表する。 ・自分の発表を見ながら自己解説。	発表の準備(150分)	発表の反省、あるいは準備(150分)
担当教員			
第9回	「好きなこと」発表(後半) ・好きなことについて発表する。 ・自分の発表を見ながら自己解説。	発表の準備(150分)	発表の反省(150分)
担当教員			
第10回	最近流行りの「自己ブランディング」について。 ・自分のいいところ、売り込めるところは？ ・グループでお互いのいいところを提案し合う。	自己ブランディングについて調べておく(90分)	自己ブランディングについて調べる(90分)
担当教員			

第11回	「自己紹介・自己アピール」 ・状況を設定し(就職面接など)、売り込みポイントを探る。 ・自己紹介・自己アピールを構成する。	新しい「自己紹介」のことを考える(30分)	新しい「自己紹介」準備(150分)
担当教員			
第12回	「自己紹介・自己アピール」 ・グループに分かれてお互いに「自己紹介」および解説。	新しい「自己紹介」準備(150分)	今回学んだ内容を加味しつつ新しい「自己紹介」を準備(150分)
担当教員			
第13回	「自己紹介・自己アピール」発表(前半) ・前回までにつくりあげた「自己紹介・自己アピール」発表。	発表の準備(150分)	発表の反省、あるいは準備(150分)
担当教員			
第14回	「自己紹介・自己アピール」発表(後半) ・前回までにつくりあげた「自己紹介・自己アピール」発表。	発表の準備(150分)	発表の反省(150分)
担当教員			
第15回	発表(予備時間)、および総まとめ。	これまでの授業で学んだことを振り返る(60分)	これまでの授業で学んだことを振り返る(120分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内発表(2回)、小課題、授業参加度などの総合評価。

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>使用しません。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>『自分をどう表現するか パフォーマンス学入門』／佐藤愛子／講談社現代新書 ほか、書籍やサイトなどを授業で適宜紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語教育法 I				ナンバリング	3351
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
授業の位置づけ							
<p>この授業は、国内外で外国人に日本語を教えるための日本語教育の専門的知識を身につける(知識・技能)ことを目的とした日本語教員養成の科目で、「日本語教育法Ⅱ」「日本語教育演習」科目に発展する基礎科目である。日本語教員志望者だけでなく、国内外の企業で日本語非母語話者と日本語でコミュニケーションするために、日本語教育方法の知識を活かして、世界の日本語話者と協働していけるコミュニケーション能力を養成していく(思考・判断・態度)ために、ここでは音声指導法を中心に学ぶ。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、日本語を外国人に教えてみたい人のための日本語教授法入門である。日本語母語話者であれば、誰でも効果的に日本語を教えられるわけではない。今まで無意識に使っていた日本語を外国語の視点で分析する力が必要である。たとえば、「学校へ行く」と「学校に行く」のように、助詞の「へ」と「に」の違いや、基本的な「は」と「が」の使い分けなど、外国人に日本語を効率的に教えるには、日本語に関する言語学的専門知識と、それをどのように教えていけば学習者に理解・習得しやすいのか、日本語教授法の知識も求められる。この講義で、日本語の特徴とその教え方の「これだけは」知っておきたい基礎知識を身につけていく。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の音声特徴が説明できる。 2. 日本語非母語話者の母語干渉を受けた音声傾向を述べることができる。 3. 初級日本語学習者への音声指導法が応用できる。 4. 伝統的な日本語／外国語教授法が分類できる。 							
授業の方法							
<p>授業では、プリントやスライドを使用した講義形式を柱にその演習を行う。また、代表的な日本語教授法を各回で少しずつ紹介し、その教授法を体験し、グループで各教授法のメリット・デメリットをディスカッションする。毎回、専門用語等授業内容の復習として小テスト(確認テスト)を行う。</p>							
ICT活用							
<p>Google Classroomを活用し、課題や資料提供、質問の受付を行う。課題も含めて授業では、動画サイトで日本語学習者に対する種々の日本語教授法例を閲覧して学んだり、オンラインで海外の日本語教育機関の日本語学習者と日本語交流したりして、日本語教育の方法を考える。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題には評価やコメントを添えて個別返却し、授業内で全体の講評をする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 海外における日本語教育の現状と日本語教育政策	国際交流基金サイトで海外の日本語教育事情を閲覧しておく。(90分)	配布プリントを読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第2回	日本語の音声Ⅰ 日本語の母音と子音、音素、無声化(日本語の子音と調音位置・調音法) [教授法1:文法翻訳法]	発音器官の名称と調音点・調音法を調べておく。(90分)	日本語の音声記号が読めるようにしておく。(90分)
担当教員			
第3回	日本語の音声Ⅱ 日本語の音節、リズム、アクセント、イントネーション [教授法2:直説法]	日本語の音節やアクセントについて調べておく。(90分)	条件異音の特徴と事例をまとめておく。(90分)
担当教員			
第4回	日本語初級学習者の音声 中国語母語話者の日本語音声の特徴 中国で日本語を学ぶ学習者とオンラインで日本語交流を行う。	中国語母語話者の日本語音声の特徴を調べておく。(90分)	中国語の母語干渉を受けた日本語音声の特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			

第5回	初級日本語音声・会話の教え方 母語話者別の日本語音声特徴と指導 [教授法3:オーディオリンガルアプローチ]	講義プリントを読んでおく。(90分)	国際音声記号が読めるようにしておく。(90分)
担当教員			
第6回	コミュニケーションのための創造的会話練習 初級レベルのロールプレーからタスク練習まで [教授法4:コミュニカティブアプローチ]	広義のコミュニカティブ・アプローチとは何か、調べておく。(90分)	コミュニカティブ・アプローチをまとめておく。(90分)
担当教員			
第7回	初級レベルの文字・表記 仮名と漢字の教え方 [教授法5:TPR][教授法6:サイレントウェイ]	配布プリントを読んでおく。(90分)	優先学習漢字300をチェックしておく。(90分)
担当教員			
第8回	日本語の文法的特徴Ⅰ 文法的特徴:動詞、主語と主題 [教授法7:CLL]	日本語の動詞分類を調べておく。(90分)	日本語初級レベル指導での助詞「は」と「が」の使い分けをまとめておく。(90分)
担当教員			
第9回	日本語の文法的特徴Ⅱ 形容詞、指示詞 [教授法8:ナチュラルアプローチ]	日本語教育の形容詞の分類を調べておく。(90分)	形容詞の分類と使い方を復習しておく。(90分)
担当教員			
第10回	日本語の文法的特徴Ⅲ 存在文と所在文 [教授法9:サジェストペディア]	助詞「に」と「で」の用法を調べておく。(90分)	ここまでの教授法の各特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			

第11回	日本語の文法的特徴Ⅳ 受身 [教授法10:内容重視の教授法]	日本語表現の受身用法を調べておく。(90分)	学習目的・学習者別の初級学習ニーズを考えておく。(90分)
担当教員			
第12回	日本語の文法的特徴Ⅴ 助詞の使い分け [教授法11:学習者中心の教授法]	助詞「は」「が」「を」の使い分けを調べておく。(90分)	初級レベルの助詞の練習問題10問を作成する。(90分)
担当教員			
第13回	文字・表記の教え方 仮名、漢字の導入方法	似ている平仮名・カタカナとその教え方を考えておく。(90分)	漢字語彙の導入方法を確認しておく。(90分)
担当教員			
第14回	日本語の語彙体系 語種と語構成	日本語の4つの語種を調べておく。(90分)	理解語彙と使用語彙をまとめておく。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 指定する学習項目別の教え方を考え、ペアまたはグループで発表する。	課題発表準備。(120分)	各教授法をまとめておく(60分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題発表を含めた授業参加度50%、確認テスト50%	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>講義プリントを配布する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>高見澤孟他『増補改訂版 新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識』2016、アスク出版。高見澤孟『増補改訂版 新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』2016、アスク出版。ほか授業で適宜、紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語表現技法 I (プレゼンテーション)				ナンバリング	1301/2264
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
<p>本授業では「(母語である)日本語で表現すること」を中心に各受講生がそれぞれの発信方法を見つけ出すことを目標とする。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を育てるとともに、学術目的の言語使用に主眼をおいた日本語の高度な運用能力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。文章表現中心の「日本語表現技法 I」と補完的に、「日本語コミュニケーション技法」「日本語ビジネスライティング」の基礎的科目となる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、効果的なプレゼンテーションの方法を演習を中心に学ぶ。「話したいこと」だけを話す自分勝手に伝わらないプレゼンテーションを排し、聞く人が聞いてよかった・楽しかったと思えるような(そしてそれゆえにしっかりと内容が伝わるような)win-winのプレゼンテーションの考え方の基礎を完全に固め、実践的運用が可能となるレベルを到達目標とする。そのため授業は「構想・計画→入念な準備→実演→自己反省・相互批評」のループを通じて着実に技術を修得することのできるよう展開される。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションの基本を実施できる。 2. 適切な資料を作成し、使用できる。 3. 効果的なプレゼンテーションを実施できる。 4. 魅力的なプレゼンテーションを実施できる。 5. パワーポイントの基本操作ができる。 							
授業の方法							
<p>はじめにプレゼンテーションの基礎となる考え方を伝えたあと、実践でそれを身につけるために、準備→発表→反省のくり返し練習を演習形式で行う。受講者自身が数度のプレゼンテーションを行い、ビデオを見ながら自己反省をするとともに、他の受講者のプレゼンテーションをお互いに評価し、フィードバックとしてコメントをまとめる。いずれもパワーポイントおよび視聴覚メディアを活用しながら実技中心ですすめる。</p>							
ICT活用							
<p>パワーポイント操作の習熟。またGoogle classroomを活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法 授業中の発表については、ビデオを見ながらコメントする。 また提出レポートについては、内容をまとめて配付資料とする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 「伝える」とはどういうことか、ということについて、いきなりですが極意を伝授する。 これで「伝える」ということの極意を知ることができ、以後の発表に生かすことができるはず。 さらに第1回タスク「自己紹介」について、説明し、そのあと第1回の発表に向けて準備をしてもらう。	コンピュータにログインできるようにしておく(10分)	次週の課題発表の準備(180分)
担当教員			
第2回	第1回発表「自己紹介」 前週の講義をもとに、とりあえず演壇に立って発表してもらい、「プレゼンテーションの実演」についての実感をつかんでもらう。次週の「反省」のためにビデオ撮影を行う。	発表準備(90分)	今回の発表についての全体的・個別的感想、そして自分の発表についての反省(90分)
担当教員			
第3回	第1回発表フィードバック(前半) 自分の発表したビデオを見ながら、フィードバックを行う。これにより、自分の発表が外から見たらどのようなものであるのか、客観的に見て次回の発表に生かせるようになる。 プレゼンテーション学習(その1) TEDなどのプレゼンテーションを鑑賞し、どのような工夫がなされているかについて学ぶ。	前回の発表の確認(30分)	他の発表者へのコメントおよび動画視聴レポート(150分)
担当教員			
第4回	第1回発表フィードバック(後半) 自分の発表したビデオを見ながら、フィードバックを行う。これにより、自分の発表が外から見たらどのようなものであるのか、客観的に見て次回の発表に生かせるようになる。 プレゼンテーション学習(その2) TEDなどのプレゼンテーションを鑑賞し、どのような工夫がなされているかについて学ぶ。	前回の発表の確認(30分)	自分の発表・他の発表者へのコメントおよび動画視聴レポート(150分)
担当教員			

第5回	第1回・再発表(その1)「自己紹介」 前回の発表の長所を生かし欠点を補正し、自己紹介(再発表)を行う。 第1回・再発表・「自己紹介」自己コメント 発表の動画を見返しながら、発表時に工夫したこと、生かした点、生かせなかった点、反省点と次回への抱負などについて自己コメントしてもらう。 プレゼンテーション学習(その3) TEDなどのプレゼンテーションを鑑賞し、どのような工夫がなされているかについて学ぶ。	発表準備(90分)	自分の発表・他の発表者へのコメントおよび動画視聴レポート(90分)
担当教員			
第6回	第1回・再発表(その1)「自己紹介」 前回の発表の長所を生かし欠点を補正し、自己紹介(再発表)を行う。 第1回・再発表・「自己紹介」自己コメント 発表の動画を見返しながら、発表時に工夫したこと、生かした点、生かせなかった点、反省点と次回への抱負などについて自己コメントしてもらう。 プレゼンテーション学習(その3) TEDなどのプレゼンテーションを鑑賞し、どのような工夫がなされているかについて学ぶ。	発表準備(90分)	自分の発表・他の発表者へのコメントおよび動画視聴レポート(90分)
担当教員			
第7回	第1回・再発表(その2)「自己紹介」 前回の発表の長所を生かし欠点を補正し、自己紹介(再発表)を行う。 第1回・再発表・「自己紹介」自己コメント 発表の動画を見返しながら、発表時に工夫したこと、生かした点、生かせなかった点、反省点と次回への抱負などについて自己コメントしてもらう。 プレゼンテーション学習(その4) TEDなどのプレゼンテーションを鑑賞し、どのような工夫がなされているかについて学ぶ。	発表準備(90分)	自分の発表・他の発表者へのコメントおよび動画視聴レポート(90分)
担当教員			
第8回	第1回・再発表(その3)「自己紹介」 前回の発表の長所を生かし欠点を補正し、自己紹介(再発表)を行う。 第1回・再発表・「自己紹介」自己コメント 発表の動画を見返しながら、発表時に工夫したこと、生かした点、生かせなかった点、反省点と次回への抱負などについて自己コメントしてもらう。 プレゼンテーション学習(その4) TEDなどのプレゼンテーションを鑑賞し、どのような工夫がなされているかについて学ぶ。	発表準備(90分)	自分の発表・他の発表者へのコメントおよび動画視聴レポート(90分)
担当教員			
第9回	パワーポイント基本操作について 第2回発表に使用するパワーポイントの基本操作、および発表時の注意について(出典の明示など)講義を行う。	他の発表者へのコメントおよび動画視聴レポート(150分)	パワーポイント操作の確認(30分)
担当教員			
第10回	調べて発信する(その1):第2回発表テーマ「私のおすすめ」について説明し、自分のおすすめを探し当てる。 プレゼンテーション学習(その5) TEDなどのプレゼンテーションを鑑賞し、どのような工夫がなされているかについて学ぶ。	パワーポイント操作の確認(30分)	自分の発表準備および動画視聴レポート(150分)
担当教員			

第11回	調べて発信する(その2):第2回発表テーマ「私のおすすめ」についての発表準備。 プレゼンテーション学習(その6) TEDなどのプレゼンテーションを鑑賞し、どのような工夫がなされているかについて学ぶ。	発表準備(90分)	自分の発表準備および動画視聴レポート(90分)
担当教員			
第12回	調べて発信する(その3):第2回発表テーマ「私のおすすめ」についての発表準備(リハーサル)。	発表準備(90分)	自分の発表準備および動画視聴レポート(150分)
担当教員			
第13回	調べて発信する(その4):第2回発表「私のおすすめ」(その1)と振り返り。	発表準備(90分)	自分の発表準備・他の発表へのコメントおよび動画視聴レポート(150分)
担当教員			
第14回	調べて発信する(その5):第2回発表「私のおすすめ」(その2)と振り返り。	発表準備(90分)	自分の発表準備・他の発表へのコメントおよび動画視聴レポート(150分)
担当教員			
第15回	調べて発信する(その5):第2回発表「私のおすすめ」(その3)と振り返り。	発表準備(90分)	自分の発表準備・他の発表へのコメントおよび動画視聴レポート(150分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期テストは実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出課題・授業内の発表内容・授業内での活動

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>教科書は使用しません。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>授業内で適宜指示します。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>メールが届いたか、返事はないかなど常にチェックするようにすること。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		語学研修 語学研修					
科目名		短期語学研修				ナンバリング	2900
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	2
担当教員	小西 正人、岡本 佐智子、高橋 保夫、魯 諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslin、青 晴海						
授業の位置づけ							
グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力、柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えるための科目である。学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている。							
授業の概要							
この研修は、本学の英語圏および中国語圏の提携校において語学学習と異文化体験を行う。語学力だけでなく、コミュニケーション能力やチャレンジ精神、積極性、行動力を身につけること、大学の授業で身につけた専門性を基に、それまでの学習成果を確認し、課題を見つけることを目標とする。現地研修をより充実させ、目標を達成するために、出発前には学内で実施する研修に参加し、異文化適応力や危機管理について学ぶ。							
到達目標							
異文化や外国語を母語とする多様な人々と臆することなくコミュニケーションができるようになり、自分の考え方や文化を相対化して考える姿勢を身につけられるようになる。							
授業の方法							
研修前のオリエンテーションや事前研修、海外の大学での講義・ワークショップ・インターン等、あるいは海外の大学が提供するオンラインプログラム、研修後の報告プレゼンテーションや課題などを通して、語学力やコミュニケーション能力、積極性を身につけさせる。							
ICT活用							
オンラインを活用した講義。Zoomなどオンラインを活用したコミュニケーション活動。							
実務経験のある教員の教育内容							

海外の大学に留学・勤務した経験のある日本人教員。英語圏や中国語圏などで教育・研究を経験したことがある外国人教員。

課題に対するフィードバックの方法

事前研修や研修の報告、語学研修、事後の課題等に対して担当教員よりコメントをコメントや評価をフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】 短期語学研修の概要や、今後の事前・事後に必要な心構えや基本的な知識などについて、講義する。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第2回	【事前研修】 海外提携校での研修に備えて、英語圏や中国語圏の生活習慣・危機管理や街の様子などを学び理解する。現地で役立つ言葉や交流に不可欠な自己紹介などを練習する。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第3回	【海外提携校の提供するプログラム】 リスニング(聴解)I。 英語や中国語などのリスニング能力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第4回	スピーキング(会話)I。 自分の考えを表現する力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			

第5回	リーディング(読解)I。 一定量の文章を的確に理解する能力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第6回	ライティング(文章表現)I。 自分の考えを文章で表現する力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第7回	リスニング(聴解)II。 英語や中国語などのリスニング能力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第8回	スピーキング(会話)II。 自分の考えを表現する力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第9回	リーディング(読解)II。 一定量の文章を的確に理解する能力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第10回	リーディング(読解)II。 一定量の文章を的確に理解する能力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			

第11回	ライティング(文章表現)II。 自分の考えを文章で表現する力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第12回	グループ・ディスカッション。 多様な人々と意見を出し合い、対話や議論の中から新しい発見をすることを英語や中国語で挑戦する。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第13回	プレゼンテーションI。 個人またはグループで与えられたテーマについて、英語や中国語などの外国語で的確に表現し相手に伝えることを学ぶ。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第14回	プレゼンテーションII。 与えられたテーマや課題について個人またはグループで考えた内容を、視覚資料などを用いながら効果的に発表する方法を学ぶ。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第15回	【研修報告のプレゼンテーションと課題】 研修成果とふりかえり、自分自身の変化や成長をうながすために、研修についての報告プレゼンテーションを行い、研修全体を振り返った課題を提出する。自分自身の学びについて客観的に捉え、他者と共有することを学ぶ。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして、授業のふりかえりと復習を行う。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	オリエンテーションへの参加態度、事前研修・課題、海外提携校で成績や評価、研修後プレゼンテーション・課題の総合評価。

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>研修先で指定された場合には、それにしがいます。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>適宜指示します。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>新しいことや知らないことに積極的に挑戦し、異なる考え方や生活習慣に柔軟に考えて対応できるしなやかな感性を持って研修に臨むこと。</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		教育の基礎的理解に関する科目等 教育の基礎的理解に関する科目					
科目名		教育原理				ナンバリング	1002
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	井上 大樹						
授業の位置づけ							
1年次で学んだ教職課程科目に対して、その理論的歴史的背景や根拠を本科目で理解するとともに、2年次以降で学ぶ教職課程科目の基礎として教育的思考を身につける。							
授業の概要							
様々な教育職に通底する、教育に関する基本的な知見(歴史、法制度、学問領域、現代的課題など)を得る。中でも、学習する一人ひとりの権利が様々な教育実践によって内実が深まってきた経緯に重点をおく。講義全体をとおして、具体的な教育問題や教育実践を取りあげ、理論と実践を結ぶ視点を育む。							
到達目標							
<p>自分が目指す教育職との関わりを認識しつつ、以下について自分の見解を交えながら説明できる</p> <ul style="list-style-type: none"> •教育の基本的概念や教育の本質及び目標を理解し、教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係 •教育に関する代表的な教育家の思想と理念や実際の学校との関わり •家族と社会の教育の歴史、近代教育制度の成立と展開 •歴史的な視点を含めた現代社会における教育課題 							
授業の方法							
<ul style="list-style-type: none"> •本科目は呈示資料(パワーポイント)による講義、GoogleFormを活用したワーク、意見交換などを組み合わせながら展開する。毎回、授業終了前に記述形式のまとめを行い、理解度を確認する。 							
ICT活用							
<ul style="list-style-type: none"> •Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。 •Google Crassroomのメッセージ機能を活用し、随時、質疑応答を行う。 •呈示資料(パワーポイント)に説明音声吹き込んだ動画をGoogle Classroomにアップし復習に活用できるようにする 							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
講評を次回講義で行うとともに、適宜、Google Crassroomのメッセージ機能を活用し、個別にフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション／教育(学)とは何か —授業展開、学生の到達(行動)目標、成績評価方法などについて理解する	シラバスの熟読(120分)	本科目で学びたいことをまとめ、半期の学習計画を立てる(120分)
担当教員	井上 大樹		
第2回	教育の本質と目標 —義務教育未了者の苦労と学ぶ喜びを実感している姿から、これまでの自分の学びへの姿勢を見直す	事前配布資料の熟読(120分)	配布資料を読み直し、講義内容を復習する(120分)
担当教員	井上 大樹		
第3回	代表的な教育家の思想と現代の教育観 —教育観(教育に対する基本的な考え方)の歴史を人物および社会的背景を交えて理解する	テキスト第1章を読み、わからない語句は事前に調べておく(120分)	テキスト第1章を読み直し、講義内容を復習する(120分)
担当教員	井上 大樹		
第4回	家族と社会による教育の歴史 —家族や(地域)社会の教育的(子育て)機能の変遷を理解する	事前配布資料の熟読(120分)	配布資料を読み直し、講義内容を復習する(120分)
担当教員	井上 大樹		

第5回	家庭や子どもに関わる教育の思想 —多様化する家庭教育の価値観にそれぞれ通底する思想的ルーツを理解する	テキスト第3章を読み、わからない語句は事前に調べておく(120分)	テキスト第3章を読み直し、講義内容を復習する(120分)
担当教員	井上 大樹		
第6回	近代学校の成立から高等教育の大衆化まで —現在の学校教育の充実について、普通教育の制度整備や大学大衆化の社会的ニーズの視点から理解する	テキスト第5章を読み、わからない語句は事前に調べておく(120分)	テキスト第5章を読み直し、講義内容を復習する(120分)
担当教員	井上 大樹		
第7回	教育問題から見る現在の学校制度、学校文化 —現在の教育問題に潜む、学校の「あたりまえ」(制度の基本概念、文化)について知り、問い直す視点をもつ	現代の学校教育にまつわる問題について最近の新聞・雑誌記事から調べておく(120分)	配布資料を読み直し、講義内容を復習する(120分)
担当教員	井上 大樹		
第8回	学校や学習に関わる教育の思想 —教育課程編成の原理や授業における児童の位置づけについての主な理論について理解する	テキスト第4章を読み、わからない語句は事前に調べておく(120分)	テキスト第4章を読み直し、講義内容を復習する(120分)
担当教員	井上 大樹		
第9回	「学力」とは何か(1):測定方法の変遷と日本の課題 —PISAをはじめとする国際的な学力調査の整備に伴い、明らかになった日本の課題について理解する	「全国学力調査」(国語、算数・数学)の問題を入手し、解きながら内容を検討する(120分)	配布資料を読み直し、講義内容を復習する(120分)
担当教員	井上 大樹		
第10回	「学力」とは何か(2):「学力向上」の授業づくりの要点 —学力の定義、望まれる学力について日本の教育政策の重点を確認した上で、社会的要請(人間力など)との関連を理解する	テキスト第2章、第11章を読み、わからない語句は事前に調べておく(120分)	テキスト第2章、第11章を読み直し、講義内容を復習する(120分)
担当教員	井上 大樹		

第11回	生徒の人間関係の現状と生徒指導・生活指導の原理 —子どもたちの仲間づくりの現状について理解を深め、生徒指導の重要性について理解する	テキスト第10章を読み、わからない語句は事前に調べておく(120分)	テキスト第10章を読み直し、講義内容を復習する(120分)
担当教員	井上 大樹		
第12回	学校における道徳教育の意義 —特別な教科としての道徳教育の位置づけを歴史的経緯を踏まえて理解する。また、高校で新設される「公共」の意義についても理解する	自分たちが受けてきた道徳教育について振り返り、意義と課題についてまとめる(120分)	配布資料を読み直し、講義内容を復習する(120分)
担当教員	井上 大樹		
第13回	学校教育と生涯学習・社会教育 —生涯学習の視点から、社会教育の実際と意義について明らかにし、学校教育との連携の今日的課題を考える	テキスト第12章を読み、わからない語句は事前に調べておく(120分)	テキスト第12章を読み直し、講義内容を復習する(120分)
担当教員	井上 大樹		
第14回	変容する社会と教育問題 —子育て家庭の貧困、格差社会、若者の就職難、多文化共生など変容する社会が抱える問題が教育にどのように影響(問題化)するかを具体的事例などから検討する	前時(第13回)に指定されたキーワードについて調べておく(120分)	配布資料を読み直し、講義内容を復習する(120分)
担当教員	井上 大樹		
第15回	教育専門職として探求すべき教育学(まとめとふりかえり) —教育学の基本的な考え方についてまとめ、意見交流を踏まえ自分の見解をまとめる	第2回～第14回の授業内容について、残された疑問についてあらかじめ調べたり質問したりする(120分)	不足している学習課題を明確化し、文献講読など今後の学習計画をたてる(120分)
担当教員	井上 大樹		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	提出物(55%)、自主学習・議論などの参加態度(15%)

<p>その他</p>	<p>30</p>	<p>記述形式のまとめ(第15回予定)</p>
<p>教科書</p>		
<p>勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学[改訂版]』, 有斐閣, 2022年 ※改訂版を必ず入手のこと (ISBN:978-4-641-15106-2)</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編 一平成29年7月』, 東洋館出版社, 2018年 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』, 東山書房, 2020年 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編 一平成30年7月』, 東洋館出版社, 2019年 教育開発研究所(編)『教育の最新事情がよくわかる本2020』, 教育開発研究所, 2019年 降旗信一(編)『持続可能な地域と学校のための学習社会文化論』, 学文社, 2017年 佐貫浩ほか(編)『3・11と教育改革』, かもがわ出版, 2013年 児美川 孝一郎『まず教育論から変えよう』, 太郎次郎社エディタス, 2015年</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・教育や関連する話題について、新聞やニュースなどで情報収集する習慣をつけておくこと ・教育への実践的理解を深めるために、雑誌『教育』(教育科学研究会編集、国土社)の講読を推奨する。また、教育系研究会へのオンライン参加を推奨する(GoogleClassroomにて告知) 		
<p>備考欄</p>		
Empty space for the review column		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		教育の基礎的理解に関する科目等 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
科目名		教育方法の理論と実践				ナンバリング	2030
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	石垣 則昭						
授業の位置づけ							
<p>本科目の教育方法の理論と実践は教職課程の「教育の基礎理解に関する分野」に位置づけられ、教職課程に必要な幅広い知識と技能を習得し、教育経営論、教育課程の意義と編成、教育原理との連携を重視した学習である。</p>							
授業の概要							
<p>本科目の教育方法の理論と実践は教職課程に位置づけられ、教員免許を取得するための必修教科であり、教育学・教育実践を方法論的な視点からとらえ、教育実践を合理的かつ効果的に進めるための学習である。そのため本科目では教育方法の基礎的理論(歴史・思想・政策)、さらに新しい時代に求められる教育への理解を深め、教育制度論、教育課程の意義と編成、教育原理との関連性を重視し授業を進め、教職課程に必要な幅広い知識と技能、さらに教職課程を取得するための学びに向かう人間力の育成を図る。</p>							
到達目標							
<p>①教育の目的を実現するための学校組織としての排列と課題を理解できる。(知識・技能)②教育方法として、どのように授業を進め、どのような対応するのかの学習指導法の問題を実践的に思考し深め、レポート等で適切に表すことができる。(思考・判断・表現)③学習行動の改善、向上のためどのように学習指導を進めるべきか他のメンバーと協力し学習を進め、各講義の学習課題を解決することができる。(関心・意欲・態度)</p>							
授業の方法							
<p>授業の到達目標を達成するため、説明と演習の知的生産交流により授業を進める。受講者の学習への主体化を図るため、ハイブリッド型(ICTの活用と対面学習)を中心にアクティブラーニングにより授業を進める。毎時間、400字～600字程度で作成する学習レポートを授業中クラスルームより送信、学習終了前に完成させ返信する。その後、採点し返却する。あわせて14回目に小テスト(30点満点)を実施し、総合的に学習評価を行う。</p>							
ICT活用							
<p>毎時間のレポートの作成、FAMアプローチによる授業評価などグーグルクラスルームの活用による双方向の授業を行う。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

北海道内の公立中学校の校長12年の実務経験と教育理論により学校改善を図り、学力向上を中心に様々な教育成果を上げた。また校長在任中より現在までの間、北海道内外の小中高等学校へ「主体的・対話的で深い学び」による教育方法の改善や学習評価方法、教育課程の編成と実施さらに生徒指導を含め、今日的な教育問題の解消・解決のため教育行政などより依頼を受け各種研修会の講師を務めている。

課題に対するフィードバックの方法

質問は授業中、クラスルームでのレポート提出時とあわせ随時受けつけ、内容により受講者全員への還元を図る。また毎時間、授業への自己評価、相互評価さらに学習レポートを中心とする、学習課題への回答を評価しコメントを添え返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	学習評価の起点であるルーブリックの提示と学習内容、進め方、本科を学ぶ意義を理解し、教育方法とは何かを理解できる。	教育方法とは何かについて調べ授業に臨む。(90分)	オリエンテーションの内容を確認し、教育及び教育方法とは何かを整理する。(90分)
担当教員			
第2回	PISA型学力学習到達度調査結果からとらえ、今、求められている教育方法とは何か理解できる。	PISA型学力学習到達度調査とは何かについて調べ授業に臨む。(90分)	学習中の意見交流により、今、求められている教育方法とは何かを整理する。(90分)
担当教員			
第3回	西洋における教育方法の歴史的変遷と内容が理解できる。	西洋における教育方法の歴史的変遷と内容について調べ授業に臨む。(90分)	西洋における教育方法の歴史的変遷と内容について整理する。(90分)
担当教員			
第4回	我が国における教育方法の歴史的変遷と内容が理解できる。	我が国における教育の方法の歴史的変遷と内容について調べ授業に臨む。(90分)	我が国における教育の方法の歴史的変遷について整理する。(90分)
担当教員			

第5回	教科学習とは何か。その意義と基本的理論さらに教科学習の方法が理解できる。	教科学習とは何か。その意義と基本的理論を調べ授業に臨む。(90分)	教科学習とは何か。その理論と実践について整理する。(90分)
担当教員			
第6回	授業デザイン、学習指導の形態とその進め方が理解できる。	授業デザインとは何か、学習指導の基本的形態について調べ授業に臨む。(90分)	授業デザインとは何か、学習指導の基本的形態と学習の進め方について整理する。(90分)
担当教員			
第7回	学習評価の意義と理論、学習評価の方法が理解できる。	学習評価の意義と理論、学習評価の方法について調べ授業に臨む。(90分)	学習評価の意義と理論、学習評価の方法について整理する。(90分)
担当教員			
第8回	学校教育における教育機器とICT教育の意義と活用方法が理解できる。	教育活動の推進のための教育機器とICT教育の活用について調べ授業に臨む。(90分)	教育活動の推進のための教育機器とICT教育の教育的効果活用方法について整理する。(90分)
担当教員			
第9回	学級経営とは何か、教育方法を視点に学級経営の意義と進め方について理解を深める。	学級経営とは何かについて調べ授業に臨む。(90分)	学級経営とは何か、教育方法を視点に学級経営の意義と進め方について整理する。(90分)
担当教員			
第10回	特別支援教育の目的と歴史的経過、課題、さらに教育方法について理解できる。	特別支援教育の歴史的経過と課題について調べ授業に臨む。(90分)	特別支援教育の歴史的経過と課題、教育方法について整理する。(90分)
担当教員			

第11回	道徳、特別活動、総合的な学習(探究)の時間の意義と進め方が理解できる。	道徳、特別活動、総合的な学習の時間(探究)の目的と特性について調べ授業に臨む。(90分)	道徳、特別活動、総合的な学習の時間(探究)のそれぞれの意義と進め方について整理する。(90分)
担当教員			
第12回	学習指導案の作成の意義と「主体的・対話的で深い学び」による学習過程の基本が理解できる。	学習指導案の作成の意義と「主体的・対話的で深い学び」による学習過程について調べ授業に臨む。(90分)	学習指導案の作成の意義と「主体的・対話的で深い学び」による学習過程を整理する。(90分)
担当教員			
第13回	教育実習生の授業DVDを視聴し、「主体的・対話的で深い学び」による学習の進め方が理解できる。	「主体的・対話的で深い学び」の学習過程について調べ授業に臨む。(90分)	教育実習生の授業DVDを視聴し学習計画、学習過程について整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学習のまとめとしての小テストを行い、教育方法の理論と実践の適切な運用のための学習指導要領、教育課程への理解を深めることができる。	本科の学習を振り返り小テストに備えるとともに、学習指導要領と教育課程、教育方法との関連を調べ授業に臨む(90分)	学習指導要領と教育課程、教育方法との関連を整理する。(90分)
担当教員			
第15回	教育方法としての模範的授業のDVDを視聴し、学習過程への理解を深め、本科目のまとめを行うことができる。	教育方法論である「主体的・対話的で深い学び」の学習過程について調べ授業に臨む(90分)	教育方法としての模範的授業のDVDを視聴し、学習過程への理解を深め、本科目のまとめを行うことができる。
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	ルーブリックの評価規準による毎時間の学習レポート評価(1回1点~5点を14回・70点)

<p>その他</p>	<p>30</p>	<p>小テスト(30問×1点・30点)</p>
<p>教科書</p>		
<p>自作の資料による。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>文部科学省刊行物による。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>学習内容の理解と定着を図るため準備学習、事後学習を重視し学習規律を守り提出物は期限を厳守する。授業中は自ら意見表明するなど能動的な参加態度を必須とする協同的な学びにより、「教育方法の理論と実践」への理解を深めて頂きたい。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p>なし</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		教育の基礎的理解に関する科目等 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
科目名		生徒指導・キャリア教育の理論と方法				ナンバリング	2034
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	常田 拓孝、加藤 裕明						
授業の位置づけ							
<p>学校現場における生徒指導(教科指導、生活指導、進路指導、生徒相談等)に関する基礎的な科目である。現代社会の中で生きる子どもの特性と問題点を明確にし、生徒指導およびキャリア教育の理論と方法について修得する科目である。</p>							
授業の概要							
<p>学校における生徒指導では、その基本となる児童生徒理解についての基本的な知識や方法を身につける。また、生徒指導の基本である子ども、青年の発達に関する心理学や社会学、また教育学などの基本を学び、人間の発達に関する理解を深める。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会の抱える問題と教育の現状との関連を説明できる。 2 現代社会の中で生きる子どもの現状と特性を述べることができる。 3 生徒指導の原理を説明できる。 4 キャリア教育の理論と方法を説明できる。 5 生徒指導に関する事例についてその解決法を説明でき、グループワークでの討議に参加できる。 							
授業の方法							
<p>教科書及び配布物を用いて、講義形式で授業を進める。事例研究としてグループワークによる課題解決、討議を行う。ミニレポートを時間内に行う(全11回)。 理解度を確認するためのレポートを3回行う。 授業全体の理解度を確認するための評価テストを実施する。</p>							
ICT活用							
<p>適宜、グーグルクラスルーム等のプラットフォームを活用する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

常田は中学校教員を務め、学校運営、学校経営の経験が長く、教育全般について幅広い知識を有している。生徒指導についても経験が豊富であり、学校教育における位置づけ、指導の実際などについて指導を行う。
 加藤は公立高等学校に30年間勤務し、教科指導、HR指導、生活指導をはじめとする実践をもとに、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきた。また、この間、部活動指導にも従事し、演劇教育を質的方法によって研究し、博士号を取得した。以上の経験を活かし、学校現場における具体的な子どもたちの姿を想定し、「主体的・対話的で深い学び」のための授業づくりをファシリテートする。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー、レポートを読み、コメントを記すことによって学修へのフィードバックとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション 生徒指導とは、生徒指導の基本】生徒指導は、学校の教育目標を達成するための重要な機能の一つであり、すべての児童生徒の人格のよりよい発達をめざすとともに、学校生活が児童生徒にとって興味深く、充実したものになるよう展開することであることを説明できる。(担当 常田拓孝)	教科書のp.1～p.8を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田 拓孝		
第2回	【生徒指導の意義と原理 その1】学校では、児童生徒自らが現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導力の育成をめざすという生徒指導の積極的な意義、さらに学校教育活動全体を通じて行うことを述べるができる。(担当 常田拓孝)	教科書のp.9～p.13を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田 拓孝		
第3回	【生徒指導の意義と原理 その2】生徒指導の基盤は、児童生徒一人一人についての児童生徒の深化を図ることであることを説明できる。レポート課題#1(担当 常田拓孝)	教科書p.14～p.22を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田 拓孝		
第4回	【教育課程と生徒指導 その1】児童生徒にとって学校生活での最も中心は授業であり、その授業を有意義なものにするには生徒指導の機能が発揮されることが重要であることを説明できる。(担当 常田拓孝)	教科書p.23～p.27を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田 拓孝		

第5回	【教育課程と生徒指導 その2】総合的な学習の時間を充実させることは、その目標を達成することだけでなく、児童生徒自らが自己実現を図る自己指導力の育成につながることを述べることができる。(担当 常田拓孝)	教科書p.27～p.39を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田 拓孝		
第6回	【児童生徒理解 その1】学校におけるすべての教育活動において、教育実践が成果を上げるためには児童生徒理解が必要であることを述べることができる。(担当 常田拓孝)	教科書p.40～p.53を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田 拓孝		
第7回	【児童生徒理解 その2】児童生徒理解にあたっては、人としての成長をその心理的な側面で捉えることが必要であり、生徒指導の根幹であることを説明できる。レポート課題#2(担当 常田拓孝)	教科書p.53～p.74を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田 拓孝		
第8回	【ゲストティーチャー講義 その1】ゲストティーチャーによる講義から特別支援教育の理念、学校体制の整備、合理的配慮などについて一般化できる。(担当 常田拓孝)	これまでの学修範囲の教科書、資料を読んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田 拓孝		
第9回	【ゲストティーチャー講義 その2】ゲストティーチャーによる講義から通常の学級での特別な支援を要する児童生徒について説明できる。(担当 常田拓孝)	これまでの学修範囲の教科書、資料を読んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田 拓孝		
第10回	【進路指導とキャリア教育】学校における進路指導とキャリア教育の違いや意義を説明できる。児童生徒がキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育成するキャリア教育について説明できる。(担当 常田拓孝)	これまでの学修範囲の教科書、資料を読んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田 拓孝		

第11回	【学校における進路指導のあり方】学校における進路指導体制について説明でき、教育課程編成の際の進路指導についての留意点を述べるができる。また、進路指導にあたっての家庭との連携について説明することができる。レポート課題#3(担当 常田拓孝)	教科書p.98～p.117を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田 拓孝		
第12回	【生き方を考えるキャリア教育】児童詩絵と発達段階に応じて、自らの生き方を考えることができるよう支援するキャリア教育について説明できる。(担当 加藤裕明)	事前配付資料を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	加藤 裕明		
第13回	【キャリア教育計画】各学校で児童生徒のキャリア形成をめざすキャリア教育計画の立案、実施について説明できる。(担当 加藤裕明)	事前配付資料を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	加藤 裕明		
第14回	【個々の成長を促す進路指導・キャリア教育】児童生徒一人一人個性、特性を生かし、社会的に自立し、貢献できる人材育成の視点に立った進路指導・キャリア教育の充実が重要であることを論ずることができる。(担当 加藤裕明)	事前配付資料を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	加藤 裕明		
第15回	【積極的な生徒指導を進めることができる教師をめざして】学校にあって、児童生徒の健全な成長を促すために、児童生徒一人一人の心の動きを見つめることが大切であることを述べるができる。評価テスト(担当 常田拓孝)	教科書及びこれまでの配付資料を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田 拓孝		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	3回のレポートの提出

<p>その他</p>	<p>40</p>	<p>評価テスト</p>
<p>教科書</p>		
<p>1 生徒指導提要／文部科学省</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>なし</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>なし</p>		
<p>備考欄</p>		
<p>なし</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		教科及び教科の指導法に関する科目 各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)					
科目名		英語科教育法 I				ナンバリング	2080
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣 晴彦						
授業の位置づけ							
教育職員免許状(中学校、高等学校・英語)を取得するための科目である。施行規則に定める科目区分等で「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」に位置づく科目であり、英語科教育法ⅡからⅣまでの基礎となる科目である。							
授業の概要							
この講義では第二言語習得論について理解を深めながら、その理論が活用されている授業実践を分析し、実際の授業の手法を学ぶとともに授業分析の手法を理解して自らの授業実践に活用できるようになることを目指す。							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解する。 ・第二言語習得の知見に裏打ちされた教育手法を実際の授業指導に生かすことができる。 ・学習指導案の作成について理解する。 ・生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。 ・授業分析の手法を習得し自らの授業の振り返りに役立てることができるようになる。 							
授業の方法							
第二言語習得論について理解を深めながら、その理論が活用されている実際の授業の手法を学ぶ。基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用して講義形式で進める。							
ICT活用							
Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

高校教員として長い間実践教育を行ってきた。また、大学でも小学校・中学校・高校と現場を訪問して学生達と知見を広げてきた。

課題に対するフィードバックの方法

課題の形式に応じたフィードバックを講義中やweb上で行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 英語教師になる上で求められる能力について考え、議論する。第二言語習得論を学ぶ意義を理解する。	英語教師になるためにどのような能力が必要か考えて、クラスディスカッションに備える(90分)。	クラスディスカッションに備える
担当教員			
第2回	人間の母語習得、幼児期のバイリンガリズムについて理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第3回	第二言語学習者の言語について理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第4回	第二言語学習者の個人差について理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			

第5回	第二言語学習を説明する理論について理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第6回	第二言語の教室で用いる観察スキーム(COLT)について理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第7回	Task-based language teachingを中心に、第二言語の教授法について理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第8回	タスクについて理解を深め、効果的な活用方法について考える。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第9回	Focus on Formを取り入れた授業の方法について理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第10回	学習指導案の書き方について学び、タスクを用いたスピーキング活動を中心とした授業方法について考える。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	指導案を作成する(90分)。
担当教員			

第11回	これまでの学習を踏まえ、授業での文法指導のありかたについて考える。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第12回	語彙指導の方法について理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第13回	音声指導のさまざまな手法について理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第14回	「学びのユニバーサルデザイン(UDL)」について理解し、さまざまな特性をもつ生徒の多様性に柔軟に対応する英語授業の在り方について考える。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第15回	講義全体の振り返り	授業で学習したことを振り返る(90分)。	最終レポート課題の作成を行う(90分)。
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小レポート課題 40 % 指導案 20% 最終レポート課題40%

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>特になし。</p>
<p>教科書</p>		
<p>パッツィ・M. ライトバウン、ニーナ・スパダ 著、白井恭弘、岡田雅子 訳「言語はどのように学ばれるか 外国語学習・教育に生かす第二言語習得論」(岩波書店、2014年) 中学校学習指導要領解説(外国語編) 高等学校学習指導要領解説(外国語編・英語編)</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>講義内で適宜紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>教職課程履修者を対象に講義を行う。そのため多くの課題が課せられることを踏まえて受講すること。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際コミュニケーション学科					
区分		教育の基礎的理解に関する科目等 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
科目名		ICTを活用した教育の理論と方法				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	村越 含博						
授業の位置づけ							
<p>「ICTを活用した教育の理論と方法」は、教育(学校・幼稚園)におけるICTの活用に関わる現状と課題を認識し、これまでの教育のIT化やGIGAスクール構想の理念等に学びながら、意欲的に考察し、実践力を養うための科目である。ディプロマポリシーの教育に関わるものとしての「教育的能力」や「基本的資質」を身につけ、「より適切な教育のあり方を考え続ける」とことと関係する。また、幼稚園教諭、小学校教諭免許取得に必要な教職科目であり、「教科教育法」「幼稚園および小学校教育実習」と接続する科目である。</p>							
授業の概要							
<p>教育現場におけるICT(情報通信技術Information and Communication Technology)の活用について、その歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解する。具体的には授業における児童及び教員のICT活用、校務でのICT活用、学習評価に関する活用などを取り上げる。また、情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について具体的な指導法や教育課程上の取り扱いについて解説する。その上で現在ICT教育で取り上げられている議論も踏まえ、その利活用について多面的に考察していく。本科目では実際に学生によるタブレット等の操作も行い、1人1台端末時代の教育に即応するスキルについても身につけていく。</p>							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・教育現場におけるICT活用に意義や理論、学習活動の方法、校務での活用等について理解し、説明することができる。(知識) ・学校現場での利活用を踏まえたICT機器の操作ができる。(技能) ・ICTを活用した教育についての理論と実践を結びつけて考察する態度を身につけることができる。(態度) 							
授業の方法							
<ol style="list-style-type: none"> ①テキストを用いる。事前にシラバスで指示した箇所を読んで授業に参加する。授業ではテキストや関連する資料を提示しながら理解を深めていく。 ②教育現場でのICT機器活用の様子について写真や動画等を視聴し、理解を深める。 ③第4回～第7回は各自PCを持参し、グループワーク等による実技を行う。 ④理解度確認テストを2回行い、基本的な知識の定着を図る。 ⑤授業で課す簡単な調査や制作物などは適宜提出する(授業内で指示する)。 							
ICT活用							
<ol style="list-style-type: none"> ①資料配布はGoogle Workspace for Educationを活用し、学生が必要に応じて見返すことができるようにする。 ②レポート提出はGoogleドキュメントにて行う。 ③理解度確認テストはGoogleフォームテスト機能にて行う。 ④Googleclassroomにて授業に関連する様々な情報を提供する。 							
実務経験のある教員の教育内容							

北海道公立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科(理科・算数)、ことばの教室担当教諭、生活指導、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆している。GIGAスクール構想を受け勤務校においてICT教育に関わる実践と研究を進め推進の立場としての経験を持ち、令和4年度北海道教育委員会教育実践表彰を受ける。以上の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストは回答後すぐに答えが確認できるように、Googleフォームにて行う。課題のレポートはGoogleにて提出する。レポート課題にはルーブリック評価を設定し、受講生が取り組む目的を明確にする。提出後はコメントを付して返却を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1.授業のガイダンス 2.テキスト第1章、第2章を取り上げ、Society5.0に関する議論、経済産業省による「未来の教室」と文部科学省のGIGAスクール構想について説明する。さらに、Steam教育の概要について理解し、教育におけるICTの位置づけについて捉える。	テキスト第1章、第2章を読み、疑問点を整理しておく(90分)	テキストの該当部分を読み、授業内容と共に整理し、理解度確認テストの準備をしておく(90分)
担当教員			
第2回	1. 第3章を取り上げ、子どもの生活世界とICTの議論について様々な角度から取り上げて考察する。 2.第5章を取り上げ、一人一台端末による学習環境の変化とそれに伴う実践事例について理解する。 3.第12章を取り上げ、教育現場での情報化による学校の変化や、校務での活用の実際について理解する。	テキスト第3章、第5章、第12章を読み、疑問点を整理しておく(90分)	テキストの該当部分を読み、授業内容と共に整理し、理解度確認テストの準備をしておく(90分)
担当教員			
第3回	1.第6章を取り上げ、令和の日本型学校「個別最適な学びと協働的な学び」における、ICTの役割について理解を深める。 2.第9章を取り上げ、ICTを活用した遠隔教育の実際と活用について理解する。 3.理解度確認テストを行う。	テキスト第1章、第2章を読み、疑問点を整理しておく(60分) 理解度確認テストの準備をしておく(30分)	インターネットでGoogle Workspace for Educationの概要や操作方法について検索し、予習しておく(90分)
担当教員			
第4回	一人一台端末と教育活動での利活用の実際① 実技演習として、Google Workspace for Educationの操作を行う。教師側、生徒側双方の操作の違いについて理解し課題の設定、回収、評価までの演習を行ってみる。※充電されたパソコンを持参のこと	インターネットでGoogle Workspace for Educationの概要や操作方法について検索し、予習しておく(90分)	授業で行った操作を自宅でも復習し、技能の定着を図る(90分)
担当教員			

第5回	一人一台端末と教育活動での利活用の実際② 第7章を取り上げ、様々な教育活動におけるICT機器の利用について理解し、特に活用されるGoogleフォームの作成、スライド、ドキュメント、スプレッドシートの活用やofficeとの連携について実践的に理解する。※充電されたパソコンを持参のこと	第7章について事前に読み、様々な教科でのICT機器の活用についての知識を得ておく(90分)	授業で行った操作を自宅でも復習し、技能の定着を図る(90分)
担当教員			
第6回	一人一台端末と教育活動での利活用の実際③ 第7章を取り上げ、様々な教育活動におけるICT機器の利用について理解し、実際の教科や教育活動場面を想定し、その場面において学習者が活用するワークシート等を作成してやることを通して、理解を深める。※充電されたパソコンを持参のこと	第7章を踏まえて、小学校の授業での一人一台端末の活用例について文部科学省StuDX Style Steamライブラリー、EdTechライブラリー等のサイト等で調べ、様々な教科でのICT機器の活用についての知識を得ておく(90分)	授業で行った操作を自宅でも復習し、技能の定着を図る(90分)
担当教員			
第7回	一人一台端末と教育活動での利活用の実際④ 第8章を取り上げ、プログラミング教育について理解する。アンプラグドによるプログラミング教育を通したプログラミング的思考とはどういうものかを理解するとともに、具体的なプログラミング操作としてのscratchを取り上げ実際にプログラムを組む活動を通して理解を深める。※充電されたパソコンを持参のこと	各自PC等でScratchのサイトに接続し、アカウントを作成しログイン処理しておくこと。また、第8章について事前に読み、疑問などを整理しておく(90分)	授業で行った操作を自宅でも復習し、技能の定着を図る(90分)
担当教員			
第8回	第10章を取り上げ、メディアリテラシーの問題、学校でのICT機器活用に関しての課題、授業の画一化の課題を取り上げるとともに、デジタルシチズンシップの概念と具体的な実践について触れ、教育でのICT活用について多面的に理解を深める。	第10章について事前に読み、疑問などを整理しておく(90分)	これまでの資料、テキストなどを読み返し、レポート課題を進める(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(発言、実技演習の取り組み、提出物など)40% レポート提出 40% 理解度確認テスト 20%
その他	0	

教科書

ICTを活用したこれからの学び—次世代を担う教師のためのICT入門 北海道教育大学未来の学び共創研究センター 編 一荃書房 2022年

参考文献

「ICT活用の理論と実践」稲垣忠/佐藤和紀編著 2021年 北大路書房
「画一化する授業からの自律—スタンダード化・ICT化を超えて— 子安潤著 2021年 学文社
「デジタル・シチズンシップ—コンピュータ1人1台の善き使い手をめざす学び」坂本旬他 2020年 大月書店
「オンライン脳」川島隆太 著 2022年 アスコム
「教育DXで未来の教室をつくろう」2021年 浅野大介著 学陽書房
「第四次産業革命と教育の未来: ポストコロナ時代のICT教育」佐藤学 著 2021年 岩波ブックレット

履修条件・留意事項等

毎回の授業ではインターネット・学内Wi-Fiにつながる端末(スマートフォン、タブレット)を持参のこと。
特に第4回～第7回授業は、十分に充電されたパソコンを各自持参のこと。(当日利用できない事情がある学生にはchromeブックを貸与するので申し出ること)

備考欄